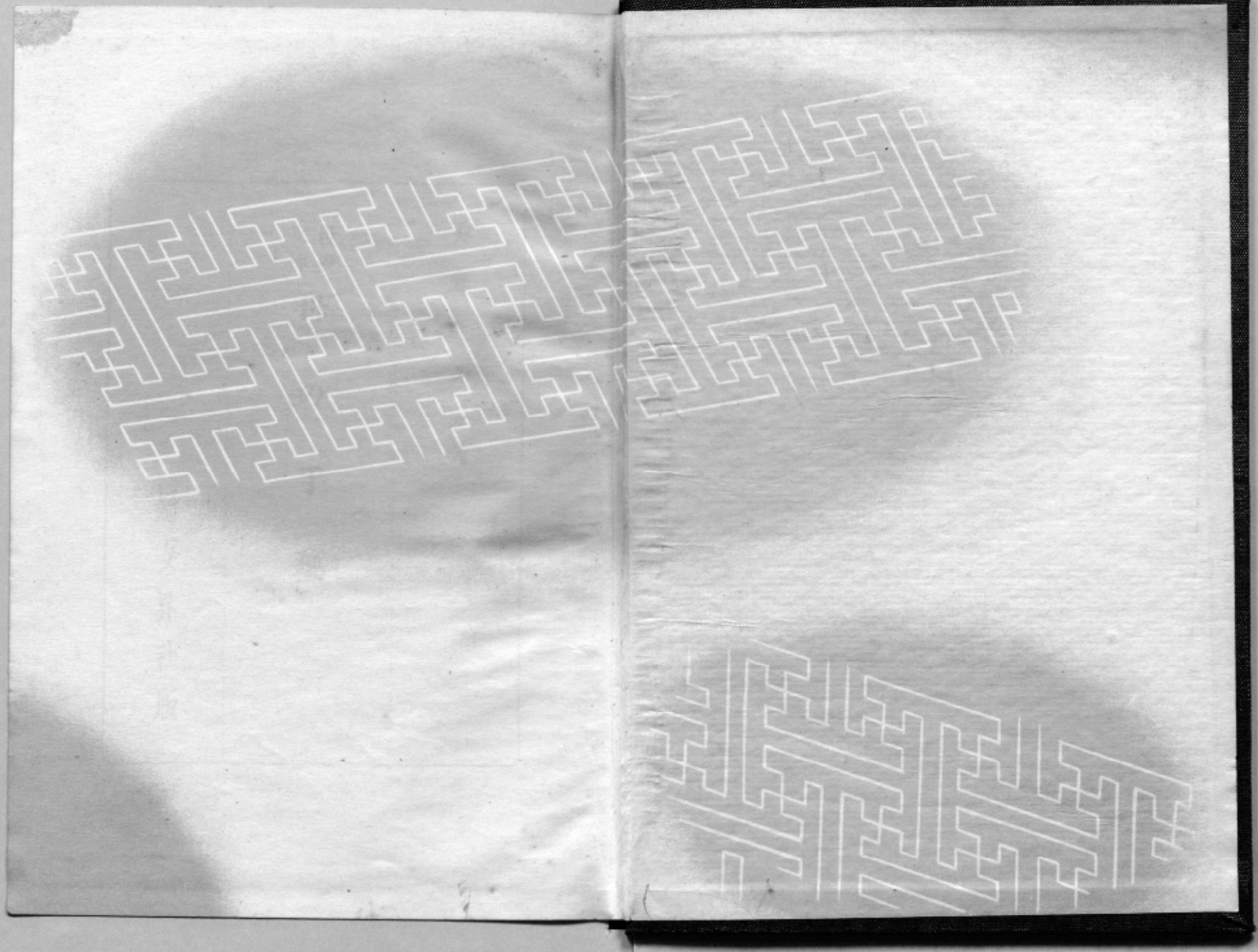


婦女界社發行



594
089-5

大妻コタカ著

母の文庫

母の手藝

婦女界社版

發刊の趣旨

人の親の心は闇にあらねども
子を思ふ道にまどひぬるかな

これは親の心をよく言ひ表はした古歌です。昔の親も、今の親も、子ゆゑに迷ひ、子ゆゑに惱んでゐます。否、未來永劫、親達は、子ゆゑに迷ひ、且つ惱まなければならぬでありませう。わけても、現代日本の母は、過去のいつの時代の母よりも、大きな惱みを惱みぬいてゐるやうです。なぜ、現代の母達は、さうした大きな惱みを惱まなければならないのでせうか。それは、指標のない道を辿つて、愛兒を導いてゐるからではありますまいか。

歷史を顧みますと、日本の家庭では、子女の教育に就いて、はつきりした指標があり、生活習慣がありました。それが、西洋文化の影響が受けて、著しい變化と動搖み來たしたことは見逃せない事實です。

大妻女子大学図書館
2005. 8.29
437166

今や、我が國は東亞永遠の平和のために、國を擧げて長期建設に邁進してをります。この聖なる大目的を遂行するためには、いろいろ大切なこともありませうが、次の時代を背負つて立つ第二國民を、精神も肉體も優れた立派な國民に育て上げることは、何をおいても緊急切實な問題であります。

それには、日本の母達が、確たる目標の下に、愛する子女を導いて行かなければなりません。卽ち、古いものからは、永劫に腐らない美はしき日本獨特の久遠の要素を把握し、新しいものからは、時局に卽應した、より大なる躍進の可能を掴み、この兩者を結合して母性再吟味の目標を樹立しなければなりません。

「母の文庫」全十二卷は、かうした理想の下に、育兒報國の大任を果して頂く、全日本の母達への贈りものとして、思ひを潜め、苦心を重ねて、本社が公けにしたものです。執筆者は何れも斯界の權威で、新母性創造の熱情に燃えて、本社のこの擧に贊同を與へられました。子ゆゑに惱む全日本の母の心に適ふものとならば、この上もなき欣びです。

はしがき

「僕のクッションはお母樣が作つて下さつたんだよ」「私の草履袋もさうよ」

子供達が自分の持ち物を友達に見せ合ひながら、かう云つて自慢してゐる風景をよく見受けます。さういふ子供のほこらしげな顏。うちのお母さまは何でも自分達の着る物や持つ物を作つて下さるといふ、心の誇りは、何といつても子供の幸福の一つでございます。母の高い趣味性によつて選ばれ、作られた製品の數々が、お子樣の情操敎育上、この上ない成果を示すものであることは、申し上げるまでもございますまい。又經濟的な意味から云つても、材料を買つて自分の家で加工するのですから、安くて良い物を使ふことが出來るわけです。市場に販賣されてゐる品物を買つて與へるより、やさしい心のこもつた、母の贈り物の方が、子供達にとつても、何倍か嬉しいことでございませう。

かうした意味から、私は世のお母さま方全部に、簡單な手藝一通りを是非心得ていた

きたいのでございます。こんなお母さまの娘は、大きくなつて母になつた時、きつとその（2）嬉しかつた子供時代を思ひ出して、御自分の子供達にも盡しておやりになることでせう。しかし何代かの後には、これがよい家風にさへなるのではございますまいか。

「母の手藝」全一巻は、赤ちやんから七歳のお子さままで、年齢順に分類して、すぐに役立つものばかりを集めました。一つ〳〵の作品は代表的なものを選びすぐつて、いろ〳〵なものにも應用出來るやうにいたしましたゆゑ嬉く御利用願ひ度いと存じます。

解說は一々手順を入れてわかり易く說明いたしましたから、一目御覽下さいましたらどんな初心の方にでもすぐ作つて頂けることと存じます。

終りに本書を書き上げますに就いて御助力下さいました方々に感謝申上げます。

昭和十四年八月

著者識す

母の手藝目次

赤ちやんへ……（一）

可愛らしく重寶なよだれかけ……（一）
溫かくさめない毛糸編の牛乳壜カバー……（六）
お子樣に喜ばれるお伽枕二種……（八）
　お魚の枕……（八）
　うさぎの枕……（一〇）
お湯の冷えを防ぐ毛糸の湯たんぽ袋……（一三）
芥子人形のお腰下げの作り方……（一四）
簡單に出來る赤ちやん靴二種……（一八）
　小布の靴……（一八）
　毛糸の靴……（二二）
タオル一枚で出來るベビー帽とケープ……（二三）
迷子札入れにもなるお守り袋……（二八）
舟模樣の氣の利いたおしめ袋……（三一）

三歳のお子様へ……（三七）
お菓子入れにピエロ型小袋を……（三七）
風呂敷一枚で出来るおチヤンチヤン……（四〇）
可愛らしい白鳥さんの袋……（四四）
タオル應用の涼しい夏のいたづら蒲……（五一）
抱いて遊べる赤い洋服のリリーさん……（五三）
お行儀よくさせる食事エプロン三種……（六一）
犬と塔のついたエプロン……（六三）
線模様のエプロン……（六三）
ポケットつきのエプロン……（六五）
簡單な材料で出來る動く玩具の作り方……（六六）
古葉書の鶏……（六六）
雛　り　鳩……（六八）
愉快な子供……（六八）
角力人形……（六九）
歩く仔犬……（七〇）
縫ひぐるみ人形の「リスの小母さん」……（七〇）
四歳のお子様へ……（八三）
實用と裝飾をかねた小物入れの壁かけ……（八四）
リボンアートの造花の作り方……（八七）
ばらの造花……（八八）
ダリヤの造花……（九一）
思ひつきで可愛らしい子供帽子二種……（九四）
一枚布の帽子……（九五）
涼しい帽子……（九七）
黒胡蝶型の美しい小物入れ……（九八）
お子様と一緒に遊べる新聞粘土の作り方……（一〇一）
立葵の花を刺繍した清新な食卓セット一組……（一〇三）
飾り文字の縫ひ方いろ〳〵……（一〇七）
衛生的で感じのよい枕カバー……（一一六）
五歳のお子様へ……（一一九）

長編と鎖だけの騎士模様レース襷かけ……（一一九）
トランプ模様の可愛らしい手提げ……（一二一）
しつくりと出來上るお人形の着物……（一二五）
氣の利いたお裁縫道具入れ……（一二八）
子供用の可愛らしいハンカチーフ……（一三一）
小花刺繍のハンカチーフ……（一三一）
アプリケのハンカチーフ……（一三四）
海水袋にもなるピクニック用のバツグ……（一三五）
兎さんを刺繍したクッション……（一三九）
子供服を引立てる手輕的な飾り……（一四一）

六歳のお子様へ……（一四七）

涼しげなレースのハンカチーフ入れ……（一四八）
小布利用のお手玉三種の作り方……（一五一）
ピエロ型お手玉……（一五一）
六つ撰ぎのお手玉……（一五三）
サンタクロースのお手玉……（一五四）

御飯がいつまでも暖い毛糸のお辨當袋……（一五七）
子供の喜ぶ筆差の作り方……（一六二）
キヤンバス刺繍の瀟洒なクッション……（一六六）
千草糸の夏向き手提袋二種……（一六六）
丸型手提袋……（一六六）
角型手提袋……（一七〇）
お辨當袋にもなる幼稚園用のカバン……（一七一）
子供部屋にふさはしいカーテンの作り方……（一七四）
サーカス模様の刺繍……（一七五）
黒ん坊のダンス模様……（一七六）
釣する子供の刺繍……（一七九）
すつきりした草履袋二種……（一八〇）
花模様の縦型袋……（一八〇）
小犬模様の横型袋……（一八二）

七歳のお子様へ……（一八五）

ばらの花模様の通學用紙ばさみ……（一八五）

矢筈模様のレース花瓶敷……（一八九）
簡單に作れるピラミッド型銀貨入れ……（一九四）
勉强机用のテーブルかけ二種……（一九七）
葡萄模様のテーブルかけ……（一九八）
チューリップ模様のテーブルかけ……（二〇一）
洋服の氣分を變へるレースの衿三種……（二〇四）
花つなぎの衿……（二〇五）
風車つなぎの衿……（二〇八）
扇形つなぎの衿……（二一四）
壁かけにもなるペティちやんの默差し……（二一八）
千代紙張りの趣味のペン皿……（二二三）
外出用になるビーズ細工の首飾り……（二二六）
簡單に出來る輕快なサンダル……（二三八）
絞り染の學校用椅子ぶとん……（二四一）

手藝の基礎知識

フランス刺繍の基礎……（二四五）

アウトライン・ステッチ……（二五六）
ダーニング・ステッチ……（二五七）
ライス・ステッチ……（二五九）
コーティング・ステッチ……（二六八）
フラット・ステッチ……（二六八）
サテン・ステッチ……（二六九）
フレンチ・ナッツ……（二七九）
チェーン・ステッチ……（二七九）
レジー・デージー・ステッチ……（二八〇）
ミルフラワー・ステッチ……（二八〇）
ボタンホール・ステッチ……（二八〇）
クロス・ステッチ……（二八一）
オーバー・コスティング・ステッチ……（二八一）
カット・ウオークのかゞり縫ひ……（二八二）
バスケット・ステッチ……（二八二）
フエザー・ステッチ……（二八二）

目次

覚えておきたい鈎針の基礎編……（二四頁）
鎖　編……（二四三）
引き抜き編……（二四四）
短　編……（二四四）
長　編……（二四五）
長編引抜き編……（二四六）
長々編……（二四七）
家庭で出来る染色……（二四八）
染色の準備……（二四八）
染め方の注意……（二五〇）
直接染料……（二五一）
酸性染料……（二五二）
絞り染のいろ〳〵……（二五五）
多色染・脱色絞・彩色染……（二六八）

赤ちゃんへ

可愛らしく重寶なよだれかけ

よだれかけは何枚あつても重寶なものです。ガーゼ、タオル、キヤラコ、綿ネルを始め富士絹、羽二重などの小布を利用して、型も自由に、澤山作つて下さい。平常用はお洗濯のきくやう、白無地の木綿物がよろしいが、一寸した刺繍で、ぐつと引立つものが出來上ります。

材料　好みの用布巾二十四糎（六寸三分）丈二十五糎（六寸六分）から二十八糎（七寸四分）の布で一枚出來ます。表地が薄い時は晒か綿ネルを芯に入れ、新モスで裏をつけるとよいのです。

裁ち方　ここには基本形のものを三種ほど上げましたから、これを參考に極々な形を御工夫下さい。

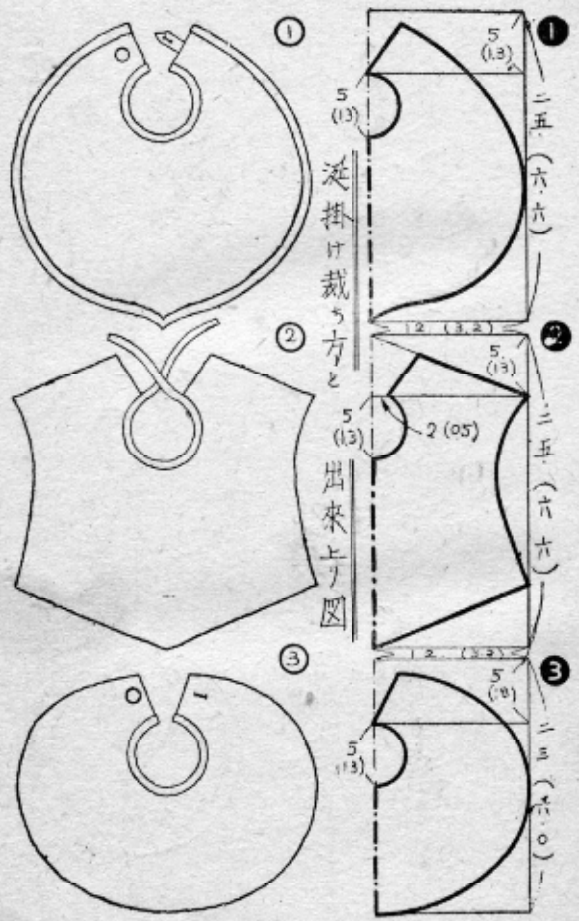
いづれも布を縦に二つ折りにして、腮刳りの標の圓形を取り、周圍はそれ〳〵好みの恰好に標をつけて裁ちます。

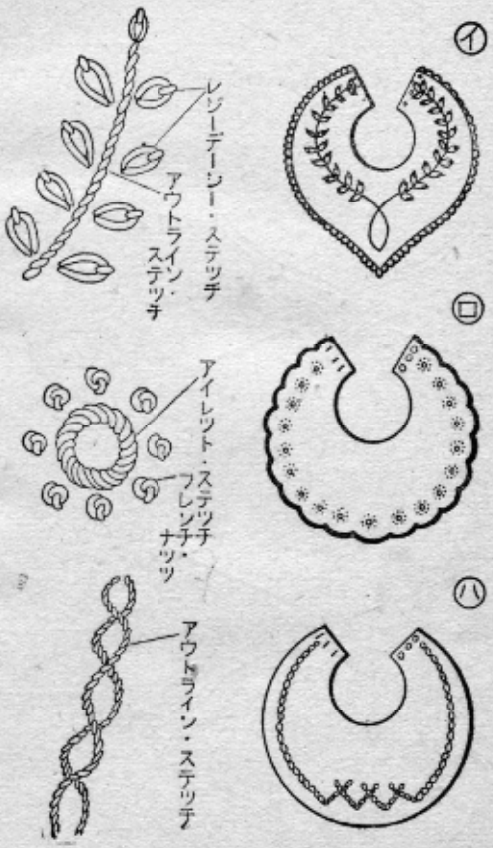
縫ひ方　一重のものは周圍をテープ、バイヤスなどでくるむか、見返しに作り、首の所は紐にするか、ボタン止めにすればよいのです。

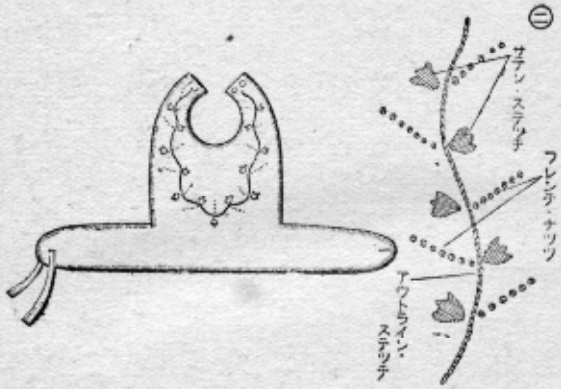
給仕立にする時は表裏の用布を中表に合せ、芯を重ねて、三枚一緒に外廻りをぐるりと縫ひ、表に返して、腮刳に紐をつけるか、くけてボタン止めにします。

周圍へ飾りとしてギヤザーをつける時には、ギヤザー布はよだれかけの周圍の一倍半、巾着裏なら三倍、片襞なら二倍半要ります。夏はレースで緣取るのも結構です。

裝飾のつけ方　かざりはアプリケでもフランス刺繍でもよろしいが、次に參考圖を少々かゝげます。







（イ）は裁ち方圖（1）の應用ですが、周圍にはスカラップ形の細いレースをつけ、木の葉模様の刺繍をしたものです。刺繍は葉をレゾーデージー・ステッチ、莖をアウトライン・ステッチで縫ひました。

（ロ）は丸型で周圍をスカラップ型に切り、バイヤスでくるみました。これはボタンホールステッチでかゞつても結構です。刺繍は丸い孔の周りにフレンチ・ナッツをならべて花の感じを出したもの。丸い孔の部分はアイレット・ステッチをして孔をあけるのです。

（ハ）はやはり丸型、アウトライン・ステッ

チを交叉させた縞模様で、すつきりしたものです。これはコーテイング・ステツチでも、又は太いチエーン・ステツチでも構ひません。

（二）は特別な變り型。下部に五糎（一寸三分）巾位のバンドをつけたものです。バンドの兩端に孔をあけ、リボンで結んでとめるやうにしてあります。刺繍した花をサテン・ステツチ、莖をアウトライン・ステツチ、葉をフレンチ・ナツツで出しました。周圍は粗いボタンホール・ステツチでぐるりとかゞつてあります。

以上のやうに刺繍を入れる場合は、糸は白か、なるべく淡色を使ひ、さめたり、お洗濯で色が出たりしないやうに注意します。

（刺繍の仕方は卷末の手藝の基礎知識中、フランス刺繍の項を御參照下さい。以下これに倣ひます。）

溫かくさめない毛糸編の牛乳壜カバー

人工榮養のお母樣への贈り物です。夏はともかく冬になると、折角わかした牛乳が赤ちやんに飲ましてゐる中にさめたりします。そんな時、このカバーはどんなに重寶するかわかりません。同樣にして、紅茶つぎなどにも毛糸の袋をかけますと、さめが遲く、來客などの場合に便利です。

材料　ピンク極細毛糸半オンス（色は何でもよろし）鉤針一本。

編み方　毛糸は極細三本取りにして使ひます。場合によつては並太一本でも構ひません。先づ毛糸で輪を作り、この中へ長編十入れて、糸をしめます。一段目は一つの長編に二つづつ、三段目は一つおきに二つづつ編み入れます。これで底が出來上りました。

次から增減なく、長編をぐる〳〵編んで行き、牛乳壜の口許までの長さになりましたら飾りとして、一つの長編の中へ三つづつ入れて行きますと、ボア〳〵襞飾りが



牛乳壜のカバー

出來ますから、糸を切ります。

別に毛糸六本取りにして鎖編を三十糎（八寸）ほど編み、口許の長編の所に通します。兩端には小さい切り房をつけておきませう。

壜を中に入れましたら、紐を蝶結びにしめます。

（編み方の基礎は卷末の手藝の知識中、鉤針の基礎編の項を御參照下さい。以下同樣。）

お子樣に喜ばれるお伽枕二種

赤ちやん用の枕を、次のやうにお魚やうさぎの形でこしらへて見ました。これは三つ四つのお子樣にもとても喜ばれるもの、樂しいお伽話の夢でも見ておねんねするやう、お子樣に作つて上げて下さいませ。

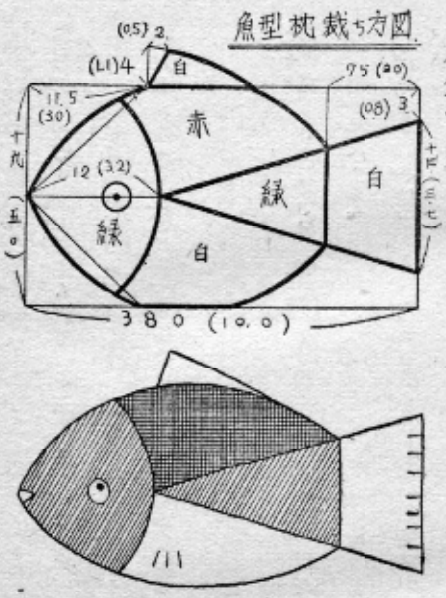
お魚の枕

有合せの小布を接ぎ合せて作つた、ユーモラスなお魚の枕です。

材料 ポプリン赤巾十九糎（五寸）丈二十三糎（六寸）、同綠巾十九糎（五寸）丈三十糎（八寸）、同白巾十九糎（五寸）丈三十糎（八寸）、鼠と黒の小布少々、黒刺繍糸少々。

そばがら。

裁ち方 圖のやうな型紙を作り、各の布を一糎（三分）の縫代をつけて表裏二枚づつ裁ちます。この色分けは、布の都合で洋服地の殘りの柄や無地を接ぎ合せても面白うございます。



眼では直徑三糎（八分）、黒では一糎五粍（四分）の丸を目玉として裁つておきます。

縫ひ方　先づ表側も裏側も調の布を三枚接ぎ合せ、次に背びれをつけ、尾をつけます。頭の布は縫代を内側に折り、胴の上に重ねて上から飾りミシンで押へ縫ひします。

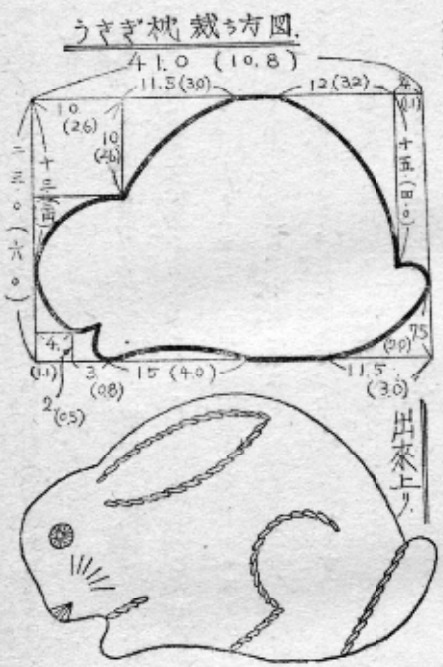
次に目玉をその位置に眼、黒の順にのせ、各のまはりは目立たぬやうに共糸でかゞつておきます。

口、脇びれ、尾の筋は全部黒の刺繍糸で、アウトライン・ステヅチをいたします。

兩面共できましたら、中表に重ね、尾の外端の部分だけ殘して、ぐるりを縫ひ、表に返して、形を整へます。

このあきからそばがらを、あまり固くならない程度につめ込んで、尾の端をくけつけると出來上ります。

うさぎの枕



馴けくらべに負けて以來、うさぎさんはお寢坊の第一人者です。このうさぎの枕では、どんなに寢競きの悪いお子様も、きつとすぐすやゝ〳〵お休みのことと思ひます。

材料　白か白茶など淺色のウール（もくもく毛の立つてゐるものなら一層感じが出ます）巾二十五糎（六寸六分）丈四十三糎（一尺一寸三分）の布二枚、刺繍糸黒と赤少々づつ。そばがら。

裁ち方　圖のやうな型紙を作り、一糎（三分）の縫代をつけて表

裏二枚裁つておきます。こちらは布一枚で刺繍の線を入れるのですから、一層簡單でございます。

縫ひ方　出來上り圖を參照して、表裏共別々に模樣の線を入れます。耳の線、足の線、尻尾の境は黒の刺繍糸でチエーン・ステッチ、鬚は同じ黒でアウト・ライン・ステッチ、口は黒でフラット・ステッチ、目は赤でボタンホール・ステッチを丸く刺します。

兩方とも出來ましたら、中表に重ねて、お腹の部分を少々明きとして殘しておき、あとをぐるりと縫合せます。表に返して、よく形を整へます。

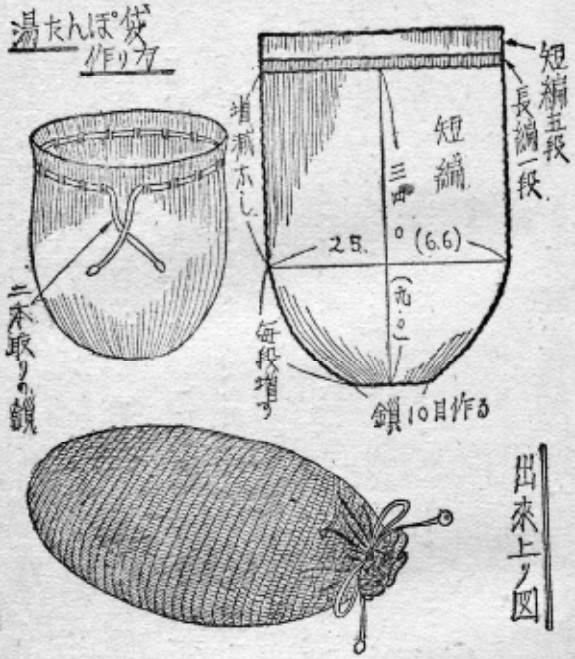
そばがらを餘り固くならない程度につめてお腹のあきを絞けると出來上ります。

この他いろ〳〵な形を工夫して見て下さい。

お湯の冷えを防ぐ毛糸の湯たんぽ袋

毛糸で編んだ湯たんぽの袋は、お湯がさめないばかりでなく、肌ざはりが大變よいので喜ばれます。この袋だけでは火傷する恐れがありますから、湯たんぽに布でも卷いて、その上からこれを被せて下さい。

材料　並太毛糸五すンス（有合せのものを少しづつ集めて、配合のよい縞模樣に作つても面白いと思ひます）



出來上り圖

鉤針一本。

編み方　先づ鎖十目編み、短編ばかりでその周圍をくるくる編廻るのですが、最初は兩端の目に必らず二目づつ入れて、增し目をして行きます。

平において巾が二十五糎（六寸六分）になりましたら、以下增減なく、全體の丈が三十四糎（九寸）になるまで編みます。次の段は紐通しとして長編一段編み、次にまた短編に替へて、約五段編みましたら、糸をとめます。

別に毛糸二本取りにして、鎖を七十六糎（二尺）ほど編み、これを長編の部分に通し、紐がぬけないやう、兩端を玉に結んでおくと出來上ります。

これはこの寸法で布で作つてもよろしうございます。その場合は二重にして、中に眞綿を薄くひくとよいのです。

芥子人形のお腰下げの作り方

可愛い芥子人形を帶につけたり、胸に下げたりして上げて下さい。これはほんの少し小布があればすぐ簡單に出來ます。

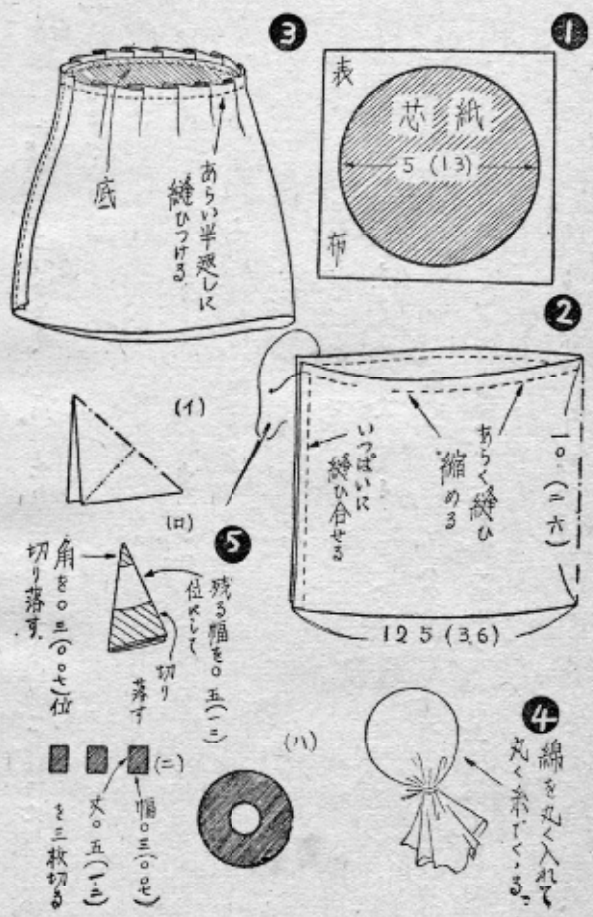
材料　顏と手用白絹、髮用黑繻子、袋用布　各少々、芯用ボール紙少々。

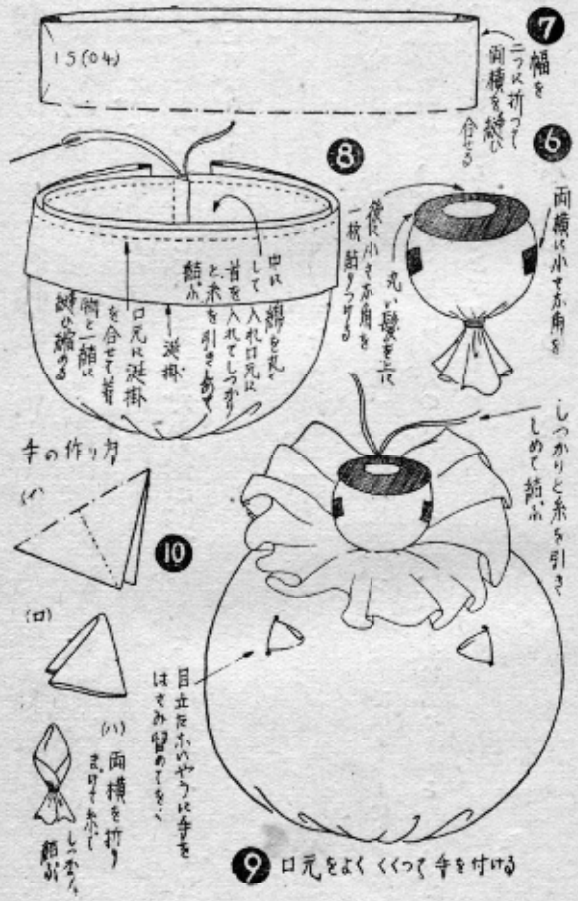
作り方　先づ(1)圖のやうに直徑五糎（一寸三分）位の丸さに芯のボール紙を切り、表布を貼りつけ、周圍は芯紙通りに切ります。

次に着物になる布の横を巾いつぱいに縫合せ、一方の口をあらく縫ひ縮めます。(2)(3)圖のやうに底をあらい半返し縫ひで綴ぢつけます。

今度は顏を作りませう。白絹に綿を入れて(4)のやうに丸い頭をつくり、糸でくゝります。黑繻子を(5)圖イロの順序に折つて切りますと、ハのやうなお芥子の髮が出來上ります。これを(6)圖のやうに貼りつけます。なほ(5)圖ニのやうなもみ上げの毛もついでにつけます。

次によだれかけの布は兩横を縫合はせて巾二つ折りにします。これを(8)圖のやうに、


①
表
芯紙
5（13）
布
②
一〇（二六）
あらく縫ひ縮める
いっぱいに縫ひ合せる
125（3.6）
③
底
あらい半返しに縫ひつける
④
綿を丸く入れて丸くおさめる。
⑤
残る幅を〇五（一三）位にして切り落す
角を〇三（〇.七）位切り落す
(イ)
(ロ)
(ハ)
(ニ)
幅〇三（〇.七）
丈〇五（一三）
を三枚切る


⑦
幅を二つに折って両横を縫ひ合せる
15（04）
⑥
両横に小さな角を
丸い穴を上に
後に小さな角を一枚縫ひつける
⑧
中に綿を丸く入れ口元に首を入れてしっかりと糸を引き締める
口元に縫掛
縫掛
綿を丸く入れて口元を合せて首と一緒に縫ひ縮める
しっかりと糸を引き締めて結ぶ
手の作り方
(イ)
⑩
(ロ)
目立たぬやうに手をはさみ留めてをく
(ハ)
両横を折りまげて糸でしっかり縫ふ
⑨ 口元をよく くくつて手を付ける

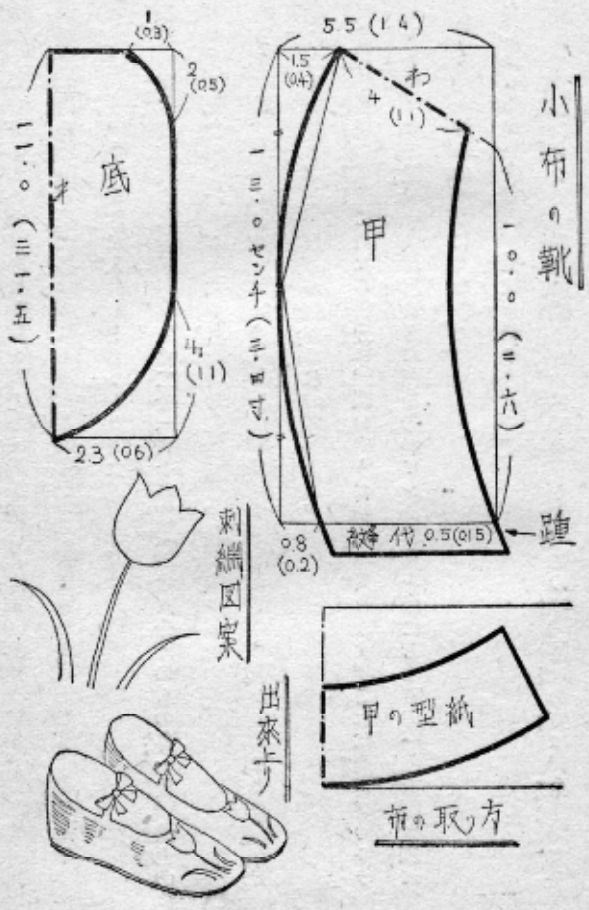
着物の口元に合せて一緒に縫ひ縮め、中には綿をしつかりつめてから、首を入れて糸をしつかりと結びます。首がつきましたら、手は白絹を(10)圖のやうに一寸折つて、目立たないやうに布に挟んでとめつけます。

これはもつと大型にして、お菓子を入れる袋に作つてもよし、動物の顔をつけてもお子様に喜ばれませう。

簡單に出來る赤ちやん靴二種

一寸した殘り布や殘り毛糸で、可愛い赤ちやん靴を作つて見ようではありませんか？出產のお祝ひに、かうした足にはくものを差上げるのは、早く歩けるやうにといふ心からで、大變喜ばれるものでございます。

小布の靴



赤ちやんドレスやケープの殘り布を利用して、お揃ひに作れば尚結構です。表用布は薄地の毛織か絹を使ひ、裏は冬ならばネル、夏は富士絹か新モスをつけませう。布は薄手すぎる時は、薄いネルを芯に入れるとしつかりいたします。

材料　用布表裏共巾三十五糎（九寸二分）、丈十八糎（四寸八分）のもの各一枚、共色の斜布少々、配合のよいリボン六十糎（一尺五寸三分）、刺繍糸少々。

裁ち方　圖のやうな型紙を作り、表裏とも各二枚づつ裁ちます。甲になる方は點線の所を輪にして取りますと、全體が斜布になつて來ます。

縫ひ方　表布の爪先にあたる部分に、圖のやうな刺繍を入れます。これは全部アウトライン・ステッチで縫ひます。寫實風に花を赤かピンク、葉を綠にしても、一色で圖案風に刺しても、お好みのやうになさいませ。

表も裏も踵を縫合せて、縫代を割ります。

表裏を外表に合せて、周圍に蝶けをかけておきます。この時、足口の方は、全體の丈を四つに切つたリボンを左右に一つづつつくやう縫ひつけておきます。

次に足口の廻りを斜布で、玉緣仕上げにいたします。底の周圍も同樣にして仕末します。今度は裏側から底をまつりつけると出來上ります。一方も同樣にしてつくります。リボンを結んで、可愛いアンヨにはかせて上げて下さい。

毛糸の靴

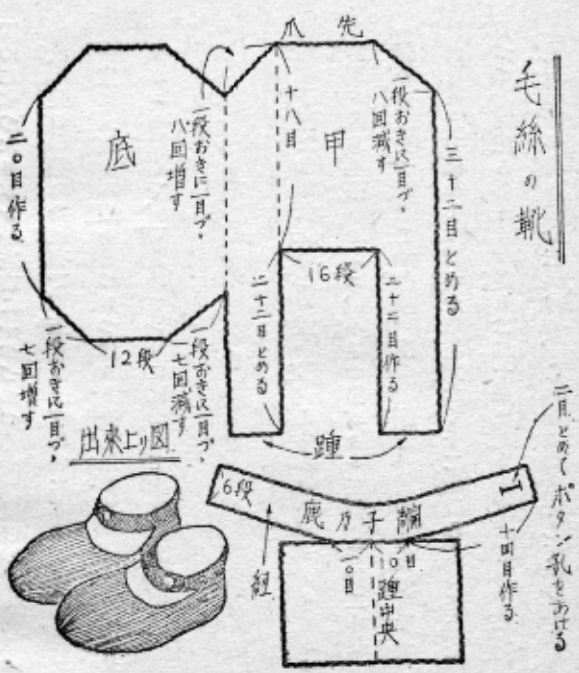
鹿の子編だけで仕上げた可愛い靴。こちらはスポーティなボタン止めにいたしました。

材料　並太毛糸一オンス、小さな貝ボタン二個、二號二本針、綴針。

編み方　先づ目を二十作り、鹿の子編で一段おきに兩端で一目づつ增しながら、三十四目になるまで編みます。次から增減なく十二段編みましたら、兩端で今度は一段おきに一目づつ七回減らします。殘りは二十目になります。これで底が出來ました。

最後の段の終から十二目作り、これを踵の分として編み進みます。編み方はいつも鹿の

毛絲の靴



子編です。この時爪先の方で、一段おきに一目づつ増して行き、踵の方は眞直に編んで、針の目が四十になりましたら、踵の方の目を始めから二十二目とめます。殘りの十八目は増減なく十六段編みます。

次に踵の方へ二十二目作り、爪先では一段おきに一目づつ三十二目になるまで減らし、ゆるく止めます。

後中央を綴合せ、甲を底に縫ひつけます。次に後中央の接ぎ目を中心に左右十目づつ、二十目拾ひます。その二十目の兩端に更に十四目づつ作ると、これが足首の紐になります。

この四十八目を鹿の子編二段しましたら、ボタン孔をあけます。

孔のあけ方は、第一段で表二、次の二目をとめ、以下普通に編みます。次の段は、鹿の子編四十四目しましたら、二目作り、殘りの二目をあみます。

それから鹿の子編をもう二段して、ゆるめ加減にとめます。

これで片方の靴が出來上りましたから、同樣にしてもう一つをお編み下さい。但し、ボタン孔は反對の方につけます。

紐の端にボタンを一つづつ縫ひつけると、すつかり出來上ります。

タオル一枚で出來るベビー帽とケープ

大巾タオル一枚でこんな可愛いケープと帽子がとれます。南端の縞模様をうまく應用したものですが、白やピンク、水色など無地のタオルでも面白いものが出來ませう。スフ入りのものでもかうして使ひますと、艶があつて綺麗な製品になります。

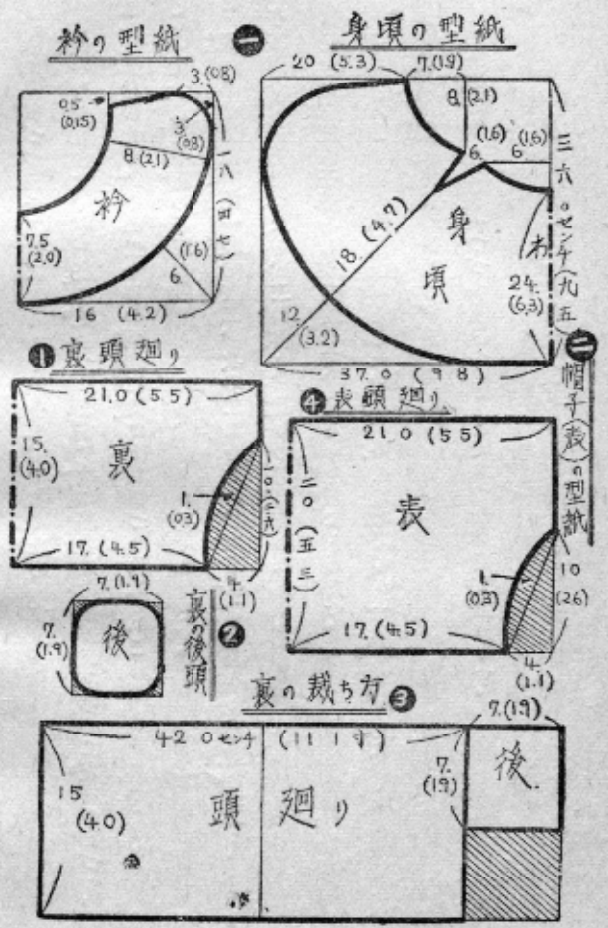
材料　大巾タオル一枚、裏用新モス大巾六十糎（一尺七寸二分）、飾り用リボン三糎（八分）巾一米（一メートル）三十糎（三尺四寸四分）、白毛糸少々。

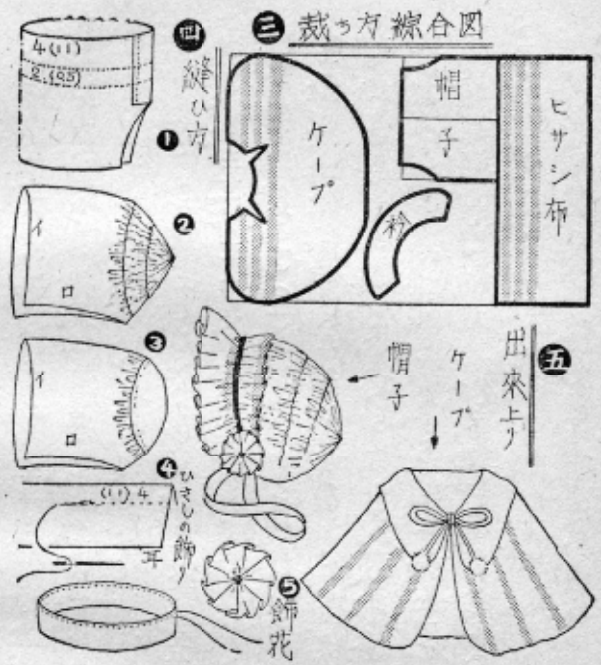
型紙の裁ち方　先づ(一)、(二)圖の寸法にケープの身頃、衿及び帽子の表型紙を作ります。

裁ち方　この型紙が出來ましたら裁方綜合圖のやうにタオルの上に型紙を位置よく並べて布を裁ち切ります。裏は帽子は圖のやうにケープは表と同じ型に新モスでお裁ち下さい。

縫ひ方　(1)**帽子**　表頭廻り布を(1)のやうに八粍（二分）位の縫代で輪に縫合せ、口の端から四糎（一寸一分）入つた所と、更に二糎（五分）はひつた所の二ケ所を、三粍（一分）の深さに表からつまみ縫ひします。

後頭の端は八粍（二分）の縫代に二本糸で縫ひ、固く糸を引締めて裏側で括ります。





タックした糸も引きしめて、(2)のやうに型をととのへ、糸を止めます。

裏頭廻り布を表と同様輪に縫つて、縫ひ目は割ります。後頭部を丸い布の寸法だけに縫ひ縮め、(3)のやうに後布をつけます。

表裏のイの部分を縫合せて表に返し、ロの部分はバイヤスでくるみます。

庇飾りは(4)のやうに裁ち目から四糎（一寸一分）折り曲げ、頭廻りの長さに合せて片寄襞を取り、帽子のイの部分に上から重ね、その上から飾りリボンをのせて縫ひつけます。

飾りリボンの中から十糎（二寸六分）丈のものを二本取り、(5)のやうに輪にして片端を縫縮め、花を作ります。殘りのリボンを出來上りのやうに頭の所につけ、その上から飾り花をつけると出來上ります。

(2)ケープ　裏表とも肩の切り込みを縫合せ、折は前身の方につけます。次に衿附の部分を殘して、他のぐるりを縫合せ、表に返しておきます。

衿は裏を少し控へ目にして、衿附の部分だけ殘して表と縫合せます。

衿附は身頃の表と衿の表裏三枚合せて縫ひ、裏身頃をまつりつけます。

毛糸で四十糎（一尺五分）位の紐を二本作り（一糎丸の太さの繩か、太い鎖に編んだもの）一方の端に切り玉をつけ、一方の端を衿の下にかくれるやうにとめると出來上ります。

これは、帽子とお揃ひにリボンをつけてもよろしうございます。

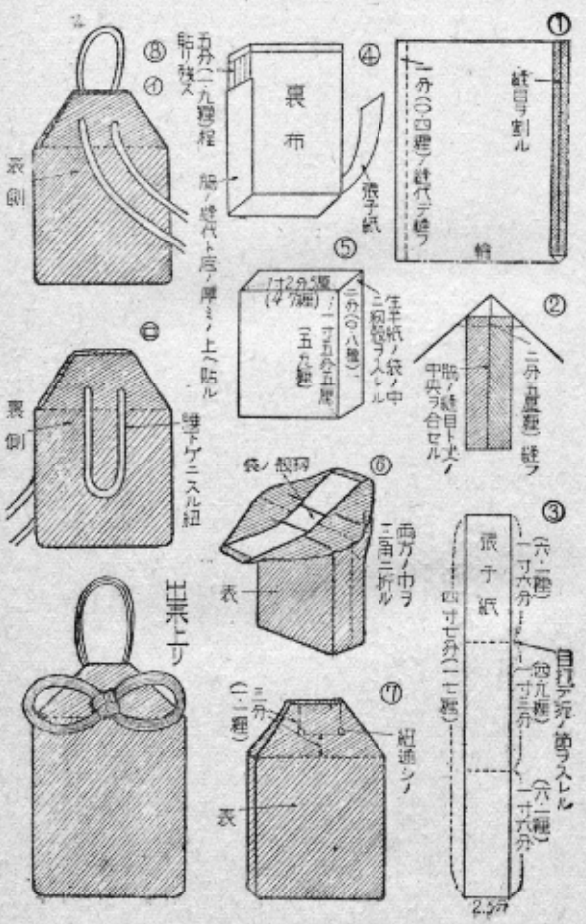
迷子札入れにもなるお守り袋

お守り袋は、表布を普通金襴か繻珍のやうな地厚の生地を用ひ、裏はお札のやうなものを入れるので、淨める意味から白麻を使ふのがきまりとなつてゐます。併し時節柄、お召物の端布など、少ししつかりした布なら何でもよろしい、裏も白ならどんな生地でも結構です。紐は紫色はさめ易いところから、壽命が短いなどといつて、忌み嫌ひますので、紫色だけは避けるやうにいたします。

材料 表布巾六糎八粍（一寸八分）丈十九糎三粍（五寸一分）、裏布巾六糎四粍（一寸七分）丈十八糎六粍（四寸九分）、白打紐四粍（一分）丸位の太さのもの七十六糎（二尺）

縁飾少々、生半紙と張子紙少々づつ。

作り方 裏表の用布に縁飾をして生半紙に貼り、布一杯に半紙を裁ちます。

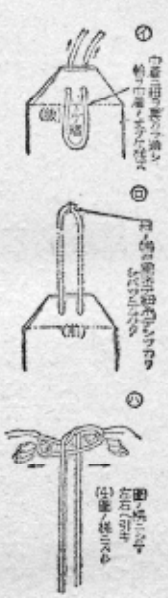


次に表裏を別々に中表に合せて、巾の兩脇を四粍（一分）の縫代で縫ひ合せ、縫目を割つておきます（一圖）。次に（2）圖のやうに、表裏とも底の中心と脇の縫ひ目を合せて三角に折り、横に一糎（二分五厘）縫つて、底の厚みを作ります。折りは表布は底の方へ、裏布は脇の方へ返します。

表布を表に返し、口端八粍（二分）裏へ折返しておき、裏はそのまゝ口端を裏へ折返しておきます。

張子紙を巾二糎（二分五厘）丈十七糎（四寸五分）に切つて、（3）圖の寸法通りに目打で折りの筋を入れます。この表一面に糊をひき、折り線通りに折つて、（4）圖のやうに裏布の兩脇の縫代と底の厚みの上へ貼りつけます。上の方は一糎九粍（五分）ほど貼らない所が殘りますが、これは出來上つてから袋を取るので芯を入れません。

次に張子紙の表に引き綿して、表布の袋の中へさしこみ、裏表の布をぴつたりと貼り合せます。次に裏表の口元を絎けますが、裏の方が幾分控へ目になります。



次に生半紙で表の寸法より二粍（五厘）つめた寸法、つまり巾四糎七粍（一寸二分五厘）丈五糎九粍（一寸五分五厘）厚さ八粍（二分）の袋を作り、（5）圖のやうに數數をつめて、口を貼つておきます。これを前に作つた袋の中へ入れ、（6）圖のやうに張子紙の丈一ぱいに兩方の巾を折つて、（7）圖のやうに（イ）（ロ）を合せて内側から假綴しておきます。そして口から一糎一粍（三分）下つた所の中央に同じ寸法だけの間隔をおいて、紐通しの孔を二つあけます。

次に(8)圖(イ)のやうに裏から紐を通し、裏側の腰下げにする紐の輪を(ロ)のやうに殘して巾着の紐結びにします。紐の結び方は(9)圖を御參照下さい。

舟模樣の氣の利いたおしめ袋

乳兒を抱へたお母さま方が御外出の際、おしめ袋はなくてはならぬものです。これによつとお手をおかけになれば、出來上りのやうな、誠に氣のきいたものが持てるのです。これは白のギンガムに、水色の布で舟をアプリケした簡單なものです。裏に防水布を使つて、濡れたおしめを入れても、決して外にしみ出さないやうに致しました。

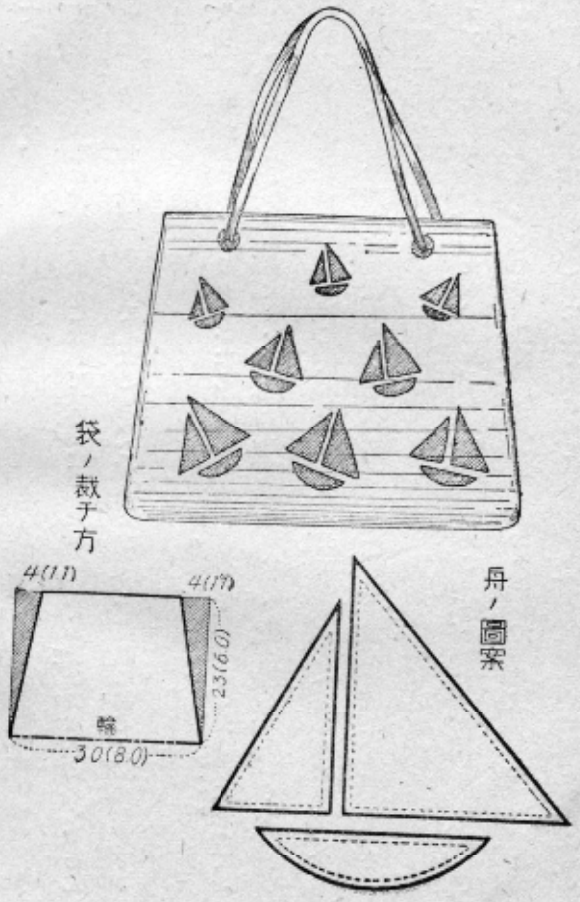
材料　表用布巾二十三糎（六寸）丈六十糎（一尺六寸）、裏用布同寸、アプリケ用布水色のもの少々、刺繍糸少々、一糎（三分）丸のテープ七十糎（一尺八寸五分）。

裁ち方　表裏共、用布を裁ち方圖のやうに、丈を二つに折り、左右四糎（一寸一分）づつ斜に裁ち落しておきます。丸テープは提げ紐用ですが、この裁落しの布を丸く縫つて使つても結構です。

裏用布の防水布は、空氣枕のこはれて不要になつたものなどお使ひになるとよく、そんな材料がない場合は、どんな布でもよろしうございますから、簡單に御宅で防水して下さいませ。

作り方　先づ表布のアプリケをいたしませう。水色の布を圖のやうな舟の形に切つておきます。大きさはこれが一番大きい舟の實物大圖案ですから、後は順々に小さく、中と小との舟をそれ〳〵作つて下さい。この模樣は大中小の舟が三段に並べてありますが、大きさは一種類にして、適當な位置につけても、底の方の一列だけ並んだ圖案にしても、それぞれ面白い味が出ます。

アプリケ布が切抜けましたら、それぞれの位置にのせて、躾をかけ、出來ればミシンで廻りを押へておきます。その後、周圍をダーニング・ステッチで飾り縫ひしますが、この飾り縫ひだけでとぢつけることにしてもよろしいのです。飾り縫ひの糸はなるべく配合の



よい反對色を選び、舟が水色なら白でも非常に引立ちます。アプリケ用布が特別ほつれ易いものでしたら、五粍（一分五厘）の縫代をつけて裁ち、その分だけ裏側に折込んでつけるやうに致します。

アプリケが出來上りましたら、表裏の用布をそれ〴〵中表に合せて兩脇を一糎（三分）の縫代で縫ひ合せます。次に表裏を裏のまま合せて、口許四糎（一寸一分）ほど殘して、左右の縫代をしつかりとお合せます。

かうして表用布だけ表に返しますと、裏がちやんと中にはひりますから、口許を一糎づつ內側に折り込んで、くけ合せます。

口許の左右から六糎（一寸六分）づつはひつた所に、紐通しの孔を四個、ボタンホール・ステッチをして明けます。このボタンホール・ステッチはきつちり間をつめて、布が見えない位にして下さい。

紐通し孔に丸テープを通して、紐の兩端は目立たぬやうにしつかりと綴ぢ合せておきま

す。これですつかり出來上りました。

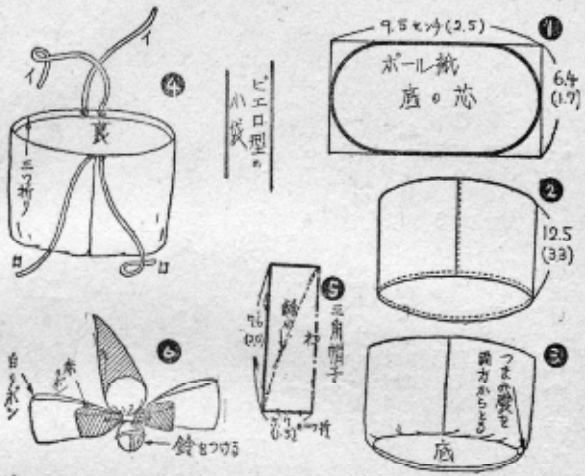
おしめを入れて、上の紐を持ちますと、自然に口がぴつたりしまつて、中のものが見えませんから、口に止めをつけないでも、決して不體裁なことはございません。

三歳のお子様へ

お菓子入れにピエロ型小袋を

陽氣なピエロの小袋に、お菓子をつめて上げて下さい。これを御參考に色々な型の變つた袋が出來ることと思ひます。

材料　白縮緬巾三十四糎（九寸）長さ十二糎五粍（三寸三分）、白の新モス同寸、一吋巾白リボン十五糎（四寸）、半吋巾赤リボン十一糎五粍（三寸）、緋縮緬巾五糎七粍（一寸五分）長さ七糎半（二寸）、同じく巾十一糎七粍（三寸一分）長さ八糎七粍（二寸三分）白モス同寸、細い絹の打紐一米十四糎（三尺）、金色の小鈴一個、ボール紙巾九糎五粍（二寸五分）長さ六糎四粍（一寸七分）。



作り方　先づボール紙を(1)圖の寸法に切ります。次に大きい方の緋縮緬と白新モスをボール紙より一糎（三分）大きく切り、ボール紙の兩面にそれ〴〵はり合せます。

白縮緬を巾二つ折にして縫合せ、筒形を作ります。新モスも同樣にします。

次に袋と底を縫合せます。先づ筒に縫つておいた裏表の布を別々に、(2)圖のやうに丈の一方の端を縫代三粍（一分）にぶつ〳〵縫ひまはし、底と同寸になるやう、楕圓形の長い方の兩横でつまみ、襞を取ります。次に裏表の袋布を中表に合せ、その間に底を挟んで四枚一緒に、底のボール紙の際をぐるりと返し針で縫ひ合せます。底を縫ひつける時は、袋の縦の縫目が、ピエロの背になるやう、縫目を楕圓形の長い方の中央に合せます。

表に返すと(3)圖のやうになつて、底がつきます。次に袋の口許を裏表一緒に重ねたままで、二糎（五分）の縫代に裏へ折り、端を八粍（二分）折返して三つ折にしておきます。

次に(4)圖のやうに四つの紐通し孔をいづれも口許の折山の上にあけ、孔かゞりをしておきます。

打紐を二本にわけて、一本は向ふ側の二つ並びの一方の孔から紐を通してぐるりと一廻りして一方の孔に出し、もう一本は手孔の一方の孔に通し、一周して手孔のもう一つの孔に出るやうに、紐を交叉して通し、三つ折の端を紐にかゝらぬやうに結けます。

ピエロの首は先づ綿をかるく丸めて、直徑二糎（五分）位の坊主頭をこしらへ、布をかぶせます。次に絣縮緬を巾二つに折り、(5)圖のやうに三角に縫つてかぶせ、首の所でとめておきます。

つぎに白リボンを丈の巾三粍（一分）ほど重ねて輪にし、その重なりを裏側の中心にして二つに折りますと、兩端が輪になりますから、中央に二つ三つ横に襞を取つて、一寸とめておきます。赤リボンも同樣にして輪にし、白の上に赤を重ね、中央を別なリボンでしつかりまき、(6)圖のやうに縫ひつけます。更にこの首を表袋の口許の正面にしつかりと縫ひつけて、小鈴を一つつけると出來上ります。

風呂敷一枚で出來るおチヤンチヤン

お祝ひ返しにいたゞいた鶴の模樣の風呂敷が、こんな可愛いおチヤンチヤンになりました。衿飾りのリボンもチヨコレートの箱などについてゐるものを利用しますと、文字通り有合せの材料ばかりで出來上ります。

材料　風呂敷一枚、裏用大巾新モス五十五糎（一尺四寸五分）、衿飾り用リボン半吋巾一米九十糎（二尺三寸八分）、青梅綿二枚。

裁ち方　裁ち方圖を參照して、用布をお裁ち下さい。先づ表用布の丈の端から小衿を九糎（二寸四分）だけ取つて殘を巾二つに折り、更にこれを二つに折り、二枚重なつた輪の方で脇明を刳り、これを廣げて前明、衿明を刳ります。表の小衿は二枚とも(3)のやうに角を落します。裏用布も同じ裁ち方にしますが小衿を取りません。

縫ひ方　先づ表裏とも、それ〳〵肩を接ぎ合せます。

次に上り身丈が五十五糎（一尺四寸五分）になるやう、表裏の丈標をつけます。

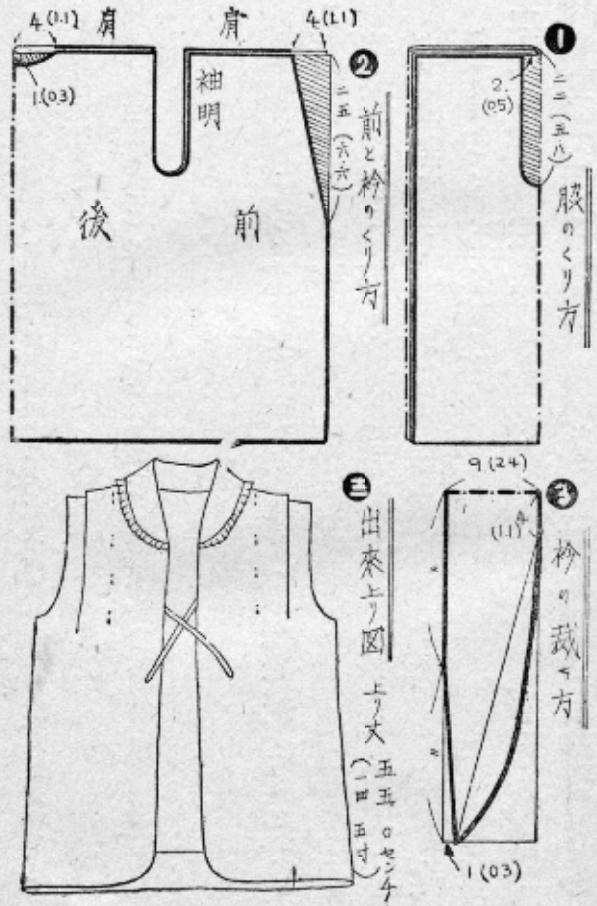
表裏の用布を合せて胴接ぎをし、袖明を縫合せます。裾口の角は少し丸みをつけます。

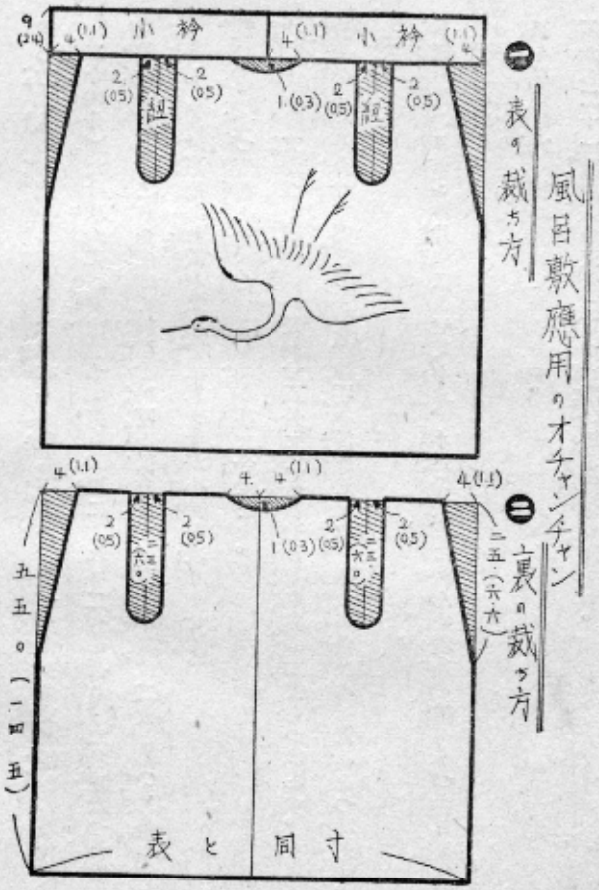
綿を入れます。

衿飾り用のリボンを片襲によせておき、小衿の表裏に挟んで縫ひ、綿をうつすら入れて表に返します。

紐を縫つて丸く綿を入れておきます。

肩から二十一糎（五寸五分）下つた所に紐を綴ぢつけます。


4(1.1)
肩
肩
4(1.1)
1(03)
袖明
後
前
❷ 前と衿のくり方
二五（六・六）
❶
2.
(05)
二二（五八）
胸のくり方
❸ 衿の裁ち方
9(24)
(1.1)
1(03)
❸ 出來上り図
上り丈 五五・〇センチ
（一四五寸）


風呂敷應用のオチャンチャン
9
(24)
4(1.1)
小衿
4(1.1)
小衿
4(1.1)
2.
(05)
2.
(05)
1(03)
2.
(05)
2.
(05)
袖
袖
❶ 表の裁ち方
4(1.1)
4(1.1)
4(1.1)
2.
(05)
2.
(05)
1(03)
2.
(05)
2.
(05)
二五（六・六）
❷ 裏の裁ち方
五五・〇（一四五）
表と同寸

表身頃に小衿を縫ひつけ、縫目は身頃の方に返します。裾から小衿の裏側にかけて、ぐるりと紐けて行きます。

肩揚げを三糎（八分）位の深さにつまんで縫つておきます。

可愛らしい白鳥さんの袋

全體を白鳥の形に作つた可愛い袋です。お子様はかうした動物の形を好むものですからこの他犬や猫の形でも、お猿さんでもいろいろに御工夫下さい。

材料 白綿ネル巾二十六糎（六寸九分）丈三十糎（八寸）、黄色新モス巾八糎（二寸一分）丈十四糎（三寸七分）、白新モス巾九糎（二寸四分）丈二十三糎（六寸）、打紐四十糎（一尺五分）、ビーズ赤か黒十四粒。

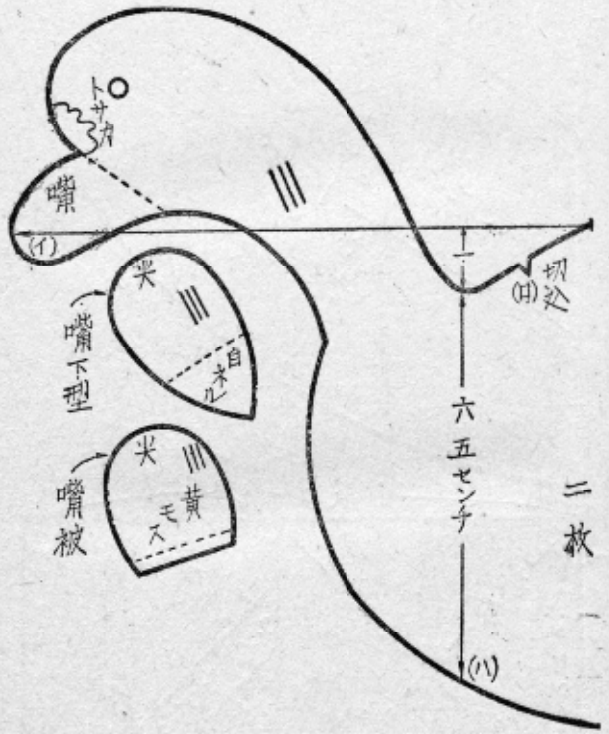
裁ち方 白綿ネルで縫代四粍（一分强）を加へて、胴型二枚、翼先型二枚、嘴下型一枚、尾型上側一枚、腹型と尾型下側の續いたもの一枚を裁ちます。次に黄色新モスで、圖

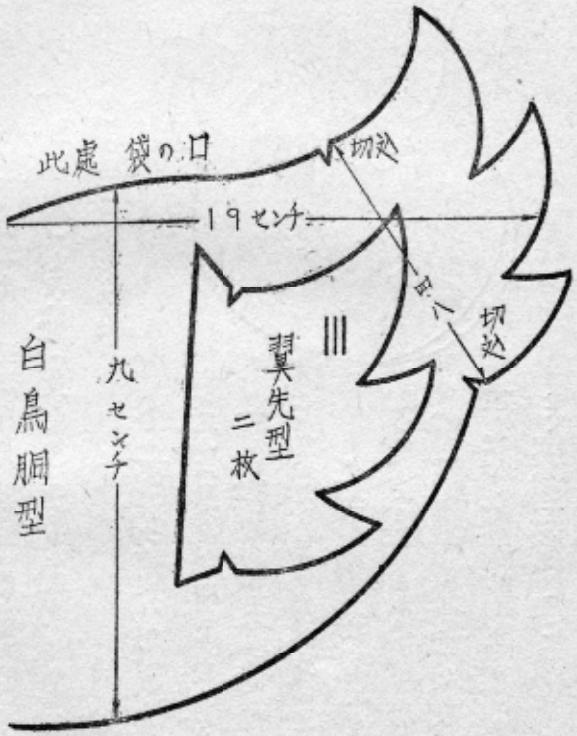
のやうな寸法に、足二枚、嘴一枚、鶏冠一枚、嘴下被型一枚を裁ち、白新モスでは袋裏布として巾九糎（二寸四分）丈二十糎（五寸三分）のものを裁ち、殘りは巾三糎（八分）丈九糎（二寸四分）の袋口布とします。

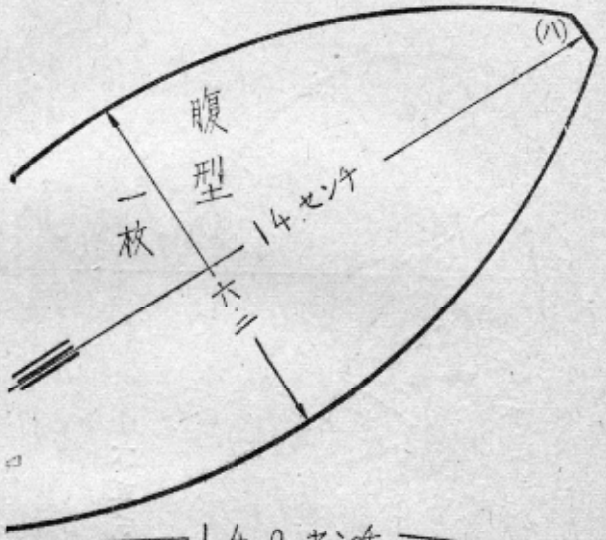


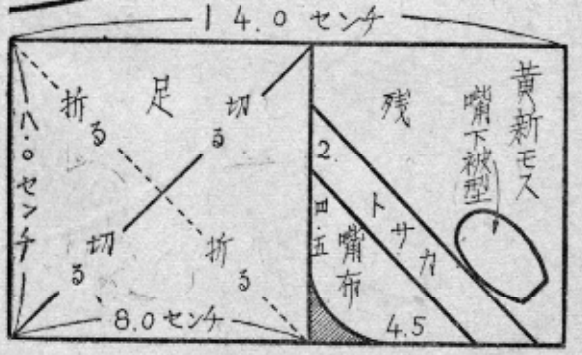
縫ひ方 先づ胴型の嘴（イ）から、背の切り込み、（ロ）までの頭部を、極く小針で半返しに縫つて縫目を割ります。次に胴の翼先切込に、翼先型を合せて、二枚づゝ縫ひ、表に返します。上下尾型も二枚合せて切込み印まで縫つて、表に返します。

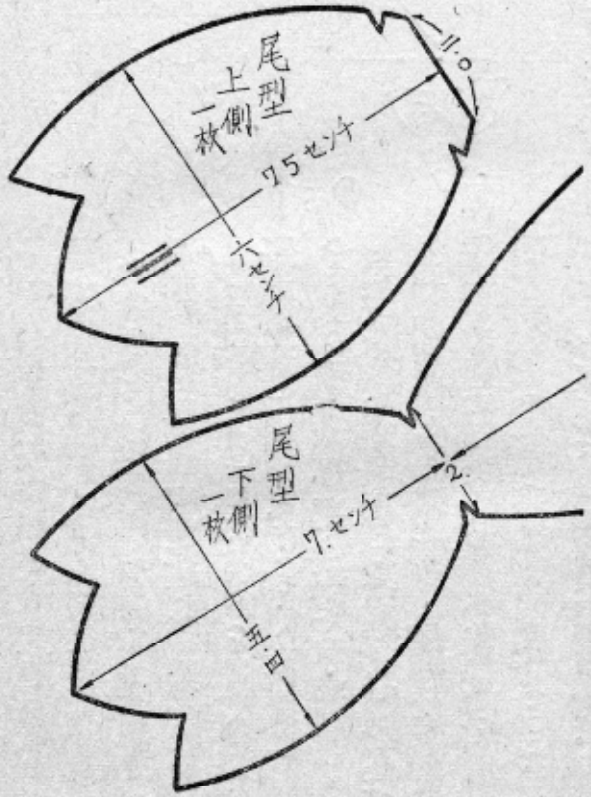
次に腹型の（ハ）を胴型の（ハ）に合せて、屋型の切込み印と胴型翼の下方切込み印とを合せて腹型が丁度袋の袋になるやうに、兩側の


トサカ
嘴
(イ)
(ロ)
切込
六五センチ
(ハ)
二枚
米
嘴下型
白ネル
米
嘴被
黄モス

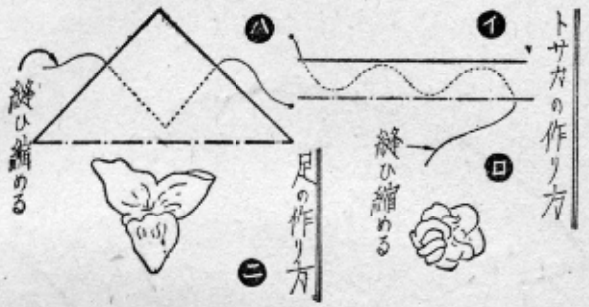

此處 袋の口
切込
19センチ
切込
翼先型
二枚
白鳥胴型
九センチ


腹型
一枚
14センチ
六センチ
(八)


14.0センチ
足
折る
切る
切る
折る
8.0センチ
八.0センチ
残
2.
四.五
嘴布
4.5
トサカ
黄新モス
嘴下被型


尾型
上側
一枚
7.5センチ
六センチ
11.0
尾型
下側
一枚
7.センチ
五.四
2.

トサカの作り方



胴を縫ひ合せます。胴型の嘴には、黄色布で裁つた嘴布を點線の上へ被せて縫ひつけ、胴型の嘴に合せて嘴の尖端を裁ち合せ、鋏をかけておきます。嘴下型に嘴下錢型をかぶせて點線を縫ひ、尖端を合せて鋏をかけます。

次に胴型嘴に嘴下型を合せて、（イ）の中央に嘴點線の所を縫つて、嘴を仕上げ、つゞいて胸部（ハ）まで縫ひます。次は頭部と胸部に適宜に綿を入れて形を作ります。

三糎（八分）巾の袋口布を二つ折とし、上り巾一糎（三分）丈は袋口巾に合せて兩端を折り、表胴布と裏袋布と、袋に布を挟んで縫ひ、續いて裏袋布の兩端と底に當る所の兩端を三角形に縫ひ、一方の端を少し縫殘してここから返し、縫ひ殘しをくけて、表胴の中へ落着かせます。

次にビーズを七個づつ糸に通して、丸く目の位置につけます。

次に巾二糎（五分）丈六糎（一寸六分）の鶏冠布の巾を四つ折にして、（イ）（ロ）圖のやうに縫ひ縮めて、嘴の中央上部につけます。

足は（ハ）（ニ）のやうに、八糎（二寸一分）角の足布を二つの三角に切り、又これを各々三角に折つて縫ひ縮め、出來上り圖のやうに、腹部に二つ揃へて縫ひつけます。

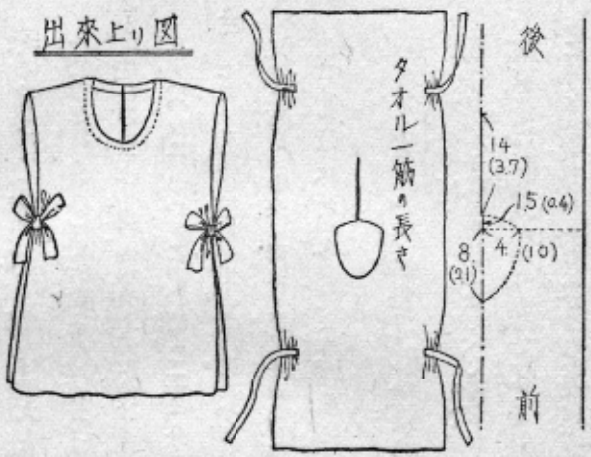
尾は左右翼の中央に形よく縫ひとめると、すつかり出來上りました。

袋口布の所に、打紐を通します。

タオル應用の涼しい夏のいたづら着

暑い折のお子様の服裝はなるべく身輕にして上げたいもの。しかも汚しますからお洗濯が簡單に出來るものがほしいのです。この意味でこのいたづら着は非常に便利です。この下にちやんとパンツをおはかせになれば、お腹が冷えることもありませんし、涼しさこの

出來上り図



上なしです。

材料 タオル手拭ひ一筋、バイヤス三十糎（八寸）少し巾廣のテープ一米二十糎（三尺一寸七分）

裁ち方 手拭ひの巾を真二つに折り、更に丈を二つに折つて肩山を決め、そこで衿肩明を四糎（一寸一分）にして、後身頃で一糎五粍（四分）繰り、前は八糎（四寸一分）位刳ります。これだけでは着るのに少し窮屈ですから、背を十四糎（三寸七分）明けます。

この衿刳はいつでも頭廻りを計つて、少しゆるみを入れた寸法だけ明ければよいのです

縫ひ方 最初に衿刳廻りの表側にバイヤスをつけ、裏側へまつりぐけいたします。後明きは持出しと見返しに仕上げ、スナップどめにいたします。

次に肩山から二十糎（五寸三分）下つた所の左右（前身後身共脇下になる所）で、耳から十糎（二寸六分）ほど縫ひ縮めて、ギャザーを取ります。テープを四つに切つて一本三十糎（八寸）づつにし、このギャザーの所につけて脇紐とします。

これで出來上りましたから、着せる時には脇紐をといておいて頭からかぶらせ、着せてから脇紐を結んで締めてやります。脇が全部あいてゐますから、着易くて涼しい着物です。

抱いて遊べる赤い洋服のリリーさん

赤い洋服を着た可愛いリリーさん。こんなモダンなお人形が一時間足らずで出來上ります。胴體が全部布ですから、少しぐらゐいぢくり廻されてもこはれません。

材料 子供マスク一個、白茶色の人形用髪の毛小束一把、四分の一吋巾のローズ色リボ

ン十二糎（三寸二分）赤色布地巾五十八糎（一尺五寸三分）丈十八糎（四寸七分）黒の半吋巾リボン二十三糎（六寸）、白新モス巾八糎五粍（二寸二分）丈二十三糎（六寸）白富士絹巾十九糎（五寸）丈二十糎（五寸三分）、青梅綿少々、パッキング（瀬戸物、果物の箱詰に用ひられる木屑）又は綿一握り。

裁ち方　先づ赤のリボン地（洋服布、その他何でも結構です）、白新モス、富士絹をそれぞれ裁ち方圖のやうに裁ち、ズボン、上着、袖、胴布、手足を刻り方圖のやうに刻つておきます。

顔の作り方　マスクは(1)圖のやうに鼻のあたりから上のビラ〳〵を切取つてしまひます。次に殘りのビラ〳〵の表と裏の間をはがして二枚にし、裏側の布を首廻りにしたがひくるりと切り取ります。

白新モスの頭布の巾をマスクの額に合はせて、四粍（一分）の縫代でとぢつけ、後へ返し、綿を額の芯に丸めて入れます。(2)圖のやうに頭布の端を首の中へ絞つて引下げ、後

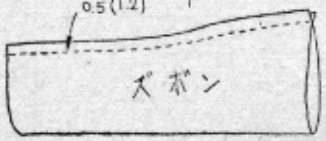
で首に合せて、白の羽二重糸で細かにまつつておきます。(3圖)

次に用意の毛髪を十三糎（三寸四分）の丈に揃つて切つて、たつぷりと束ね、端から五糎（一寸三分）の所を共糸で結び、(4)圖のやうに額の横に短い方を後にしてしつかりととぢつけます。前になつてゐる長い方の毛を七三にわけて、左右になでつけ、右の毛を横でちよつととめて、その上に細いローズ色リボンを結んでとぢつけておきます。おかつばの毛を後も前もよく撫でつけ、毛の先を程よい長さに切りそろへ、出來上り圖のやうに、まわりの毛の端を内側に鍛でまいて、可愛らしく癖をつけます。毛が動かないやうに頭の内側に薄く糊をつけて、目立たない程度に貼りつけておきます。

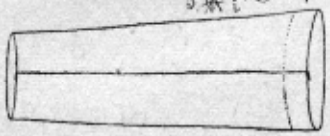
服の縫ひ方　先づ前に裁つてあるズボンの布を、ズボンの縫ひ方(1)のやうに縫合せ、縫目は片返しにして表へ返します。(2)圖のやうに縫目を中央にして裾口を一糎（三分）の折代に折り、共糸で目立たぬやうにしつけしておき、左右とも同じに作ります。

袖は(3)圖のやうに縫ひ、縫目は片返しにして表へ返し、袖口になる廣い方を一糎（三

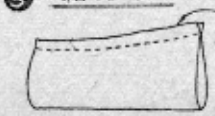
❶ ズボンの縫ひ方



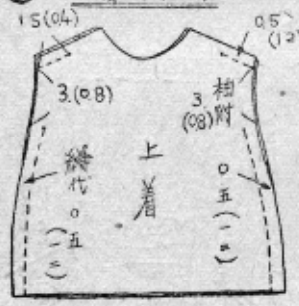
❷ 出来上り



❸ 袖の縫ひ方

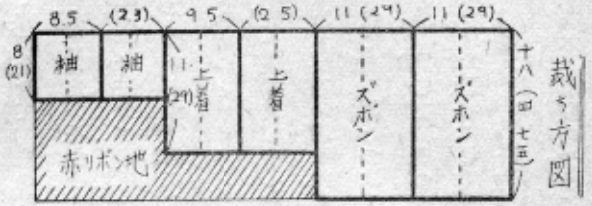


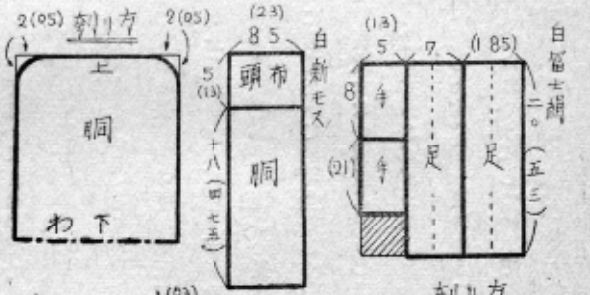
❹ 上着の縫ひ方

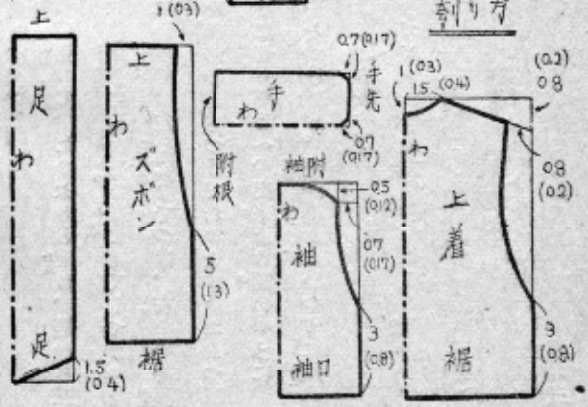




裁ち方図









分）の折代に折つて、小さくしつけをかけておきます。

次は(4)圖のやうに上着の布を二枚合せて縫ひ、縫目は片返しにして、裾口を一糎（三分）の折代に折つてとぢつけておきます。

袖を身頃に合せ、縫目は袖の方へ折つておきます。

手・足・胴の作り方　先づ富士絹で裁つた兩足の布を、足の縫ひ方(1)のやうに縫つて表へ返し、(2)圖のやうに綿を三糎（八分）位に切つて、くる〳〵と足の太さに卷き、丈を十三糎（三寸四分）位に切り、足の先へしつかりとつめ込みます。同じものをもう一本作つておきます。

手は兩手の布を(1)のやうに縫ひ、(2)のやうに綿をつめこみ、(3)圖のやうに、手先から一糎（三分）位はひつた所を手首として、丸く白の羽二重糸でくくつておきます。

胴は新モスで胴の縫ひ方(圖)のやうに縫ひ、表へ返して、用意のパッキングか綿を三糎（八分）の口からぎゆう〳〵と一杯にかたくつめ込み、胴の坐りをよくします。形がとゝ

のつたら、あけてある口はそのまゝ、手足をつけます。

手足のつけ方　先づ圖のやうに足にズボンをはかせ、とぢつけて、同じものを二本作ります。このズボンを胴の巾に合せて、中央で一糎（三分）位重ね、兩横に襞をよせて、胴にしつかりとぢつけます。

次に兩手を兩肩の端へしつかりととぢつけます。

上着の着せ方と首のつけ方　先づ上着を先に胴にきせておいてから、上着の衿肩のところをはねて胴を出し、三糎（八分）あけてある胴の中へ首のはひる間だけ指を入れて、パツキングをよけておき、首をしつかりと少し短目に押しこみ、動かないやうに、首と胴と一緒にしつかりと向側まで針を通して、二本糸で押へておきます。

次にその上に上着の衿肩をかぶせて、兩方の肩の縫殘してある所は、縫代をとゝのへて合せ、首のつけ根の際でしつかり止めておきます。

次に黒リボンを十五糎（四寸）と八糎（一寸一分）に切り、長い方をネクタイに結び、

下部を斜めに裁落し、前の首のつけ根のところへ一寸とぢつけておきます。次に短い方のリボンを巾二つに折つて、出來上り圖のやうに首のつけ根の上着の衿肩明の裁目の上にきれいにまきつけ、後で端を折つて、目立たないやうに止めておきます。

これですつかり出來ましたから、全體の形をよく直して下さい。少し大きいお嬢さまなら、本箱や机の上に腰かけさせるとよろしいでせう。

お行儀よくさせる食事エプロン三種

小さいお子様は食事の時、ボロ〳〵こぼして着物をよごしがちですから、ほんの小さい布で出來る食事エプロンを作つて上げませう。タオル、ハンケチなどを應用しても面白いものが出來ませう。幾枚も洗ひ替へを用意しておいて、お客様が連れておいでのお小さいお子様に借して上げても、本當に喜ばれるものです。

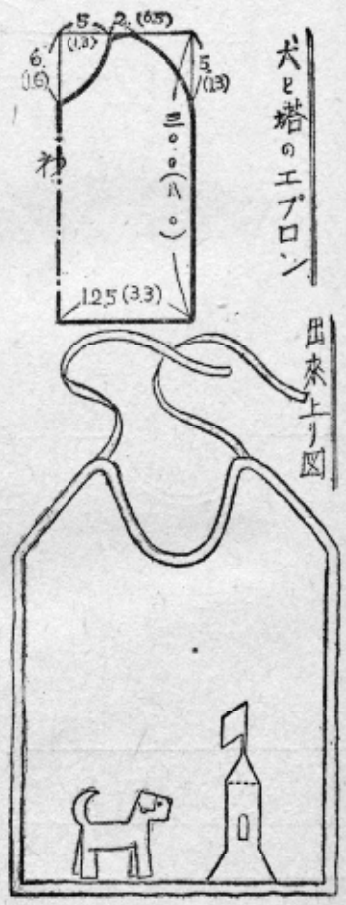
犬と塔のついたエプロン

御覽の通り簡單なものですが、ワンワンと塔をアプリケしたら、氣の利いたものが出來上りました。

材料 白キヤラコ巾二十五糎（六寸六分）丈三十糎（八寸）、アプリケ用水色ギンガム少少、水色斜布、濃い水色刺繍糸。

裁ち方 圖のやうに用布を巾半分に折つて裁ちます。頸刳をし、肩を落しただけの極く簡單な型です。水色ギンガムで犬と塔を切拔いておきます。

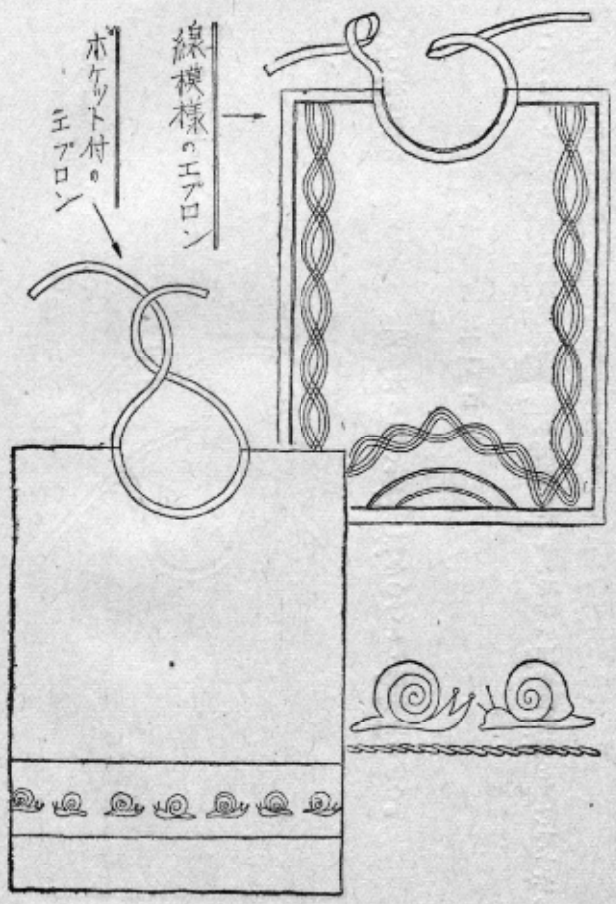
作り方 先づアプリケをいたします。犬と塔を出來上りの位置にのせ、周圍にしつけをかけます。この廻りをボタンホール・ステッチで、細かにとぢつけます。犬の目はフレンチナツツ、塔の窓はフラット・ステッチで刺繍します。屋根の塀はダーニング・ステッチです。



次に水色のバイヤスで周圍を玉緣取りにし、肩の紐をつけると出來上ります。

線模樣のエプロン

これはブルーの濃淡で、單純な線模樣を刺繍したものです。用布は前項と同じですが、頸下を刳つただけで肩も落してありませんから、より一層簡單です。



作り方　頸刻は共布の斜布で玉縁を取り、その他の周圍は細く三つ折縫しておきます。線は全部コーチング・ステッチで、廻りの二本は濃淡一本づつ、中央下の半圓形は二本づつ同色に、周りの曲線は三本づつを交叉させて行くだけです。刺繍が濟んだら、肩の紐をつけて、出來上ります。

ポケットつきのエプロン

ポケットといつても、これは御飯のこぼれを受止めるものです。前の二つよりも丈を十糎（二寸六分）だけ長くしておき、その分だけ上に折返へせばよいのです。

ポケットの上に、線の五番糸で、アウトライン・ステッチのかたつむりを刺しました。下の繪もアウトライン・ステッチです。その他の部分の仕立て方は前と同じです。

簡單な材料で出來る動く玩具の作り方

そこらに有合せの材料で、動く玩具を作つて見ませう。玩具屋で買つていたゞいたのとは、又別の興味のある品々です。少し大きなお子様なら、お母さまが指導しながら、御一緒に作つて遊べます。

古葉書の鶏

古葉書を二つ折にして、片面に圖のやうな鶏の畫を描いて切り抜きますと、左右同じ形のものが出來上ります。これを適當に鶏らしく彩色いたします。

次に下部を開いて、イの線を折り、右手で鶏の胴の左右をつまみながら頸部をつまみ起しますと、ロ線が折り目となつて、鶏の首は上斜めにつきます。

翼はハの線から胴に折り、更にニ線から胴に平行に折ります。

左右の翼が折れましたら、尾羽も頸部と同じやうにして折り、最後にホの鶏冠部を切抜いて、とさかの後部を補ひます。



お机の上にのせて、端をトン〳〵と叩いてごらんなさい。鶏は少しづつ前進します。澤山作つて、どれが早いか競爭したり、小さいひよこをこしらへてお供させたりしませう。

踊り鳩

厚紙で圖のやうな鳩の形を切抜き、腹部に針金を渦巻狀に巻いたものを取りつけます。この鳩を一寸押へて放しますと、渦巻き針金の彈性で、暫くの間上下に振動しますのでとても面白いのです。

愉快な子供

厚紙に圖のやうな子供の身體と左右の手をかいて切抜きます。次に兩手の腕元は胸の裏面に重ね、イとロには錐で孔をあけ、こよりを通して結び玉で止めておきます。兩手の付根には糸をつけて、下へたれておきます。

マッチ棒に薄い紙で作つた國旗をはりつけたものを、左右の手先きにしつかりと取りつけます。これで出來上りました。

左手に子供を持ち、右手で糸の下端を一寸ひけば、人形は旗を振つて愉快に遊びます。子供は女の子にしてもよく、國旗も防共協定にちなんで、ドイツとイタリーの旗を持たせたり、日滿兩國旗にして親善人形にしたりいろ〳〵の御工夫が出來ませう。

角力人形

コルクの栓を一個用意し、その下方に古葉書をまき、餘りの部分は切り取ります。袴の廻りは二、三分巾位にぐるりと切込みを入れておきます。

別に葉書で左右の手を切りぬいて胸の兩側に貼りつけ、最後に栓に自畫をかきます。

同樣のものを二つ作り、これを廣いお盆の上にのせ、左手でお盆を抱へて、右手で底をコツコツとたゝきますと、その振動で、二つの人形は前後左右に踊り廻ります。つき當つ

て早く倒れた方が敗けです。双葉山と男女ノ川のやうな好取組が續出して、お子さまを喜ばすことと存じます。

歩く仔犬

完全に抜けた葡萄酒瓶の栓を取つて、犬の胴とし、下腹部に四つの錐孔をあけて、四本のマッチ棒を刺して犬の足を作ります。

次に厚紙で圖のやうな犬の顔と尾を切抜きます。胴の前端に切込みを入れて頭部を植え込み、同樣にしてしつぽをつけますと、可愛らしい仔犬が出來ます。

最初の古葉書の鶏のやうに、机の上にのせてトン〳〵と叩きますと、犬は少しづつ歩き出します。

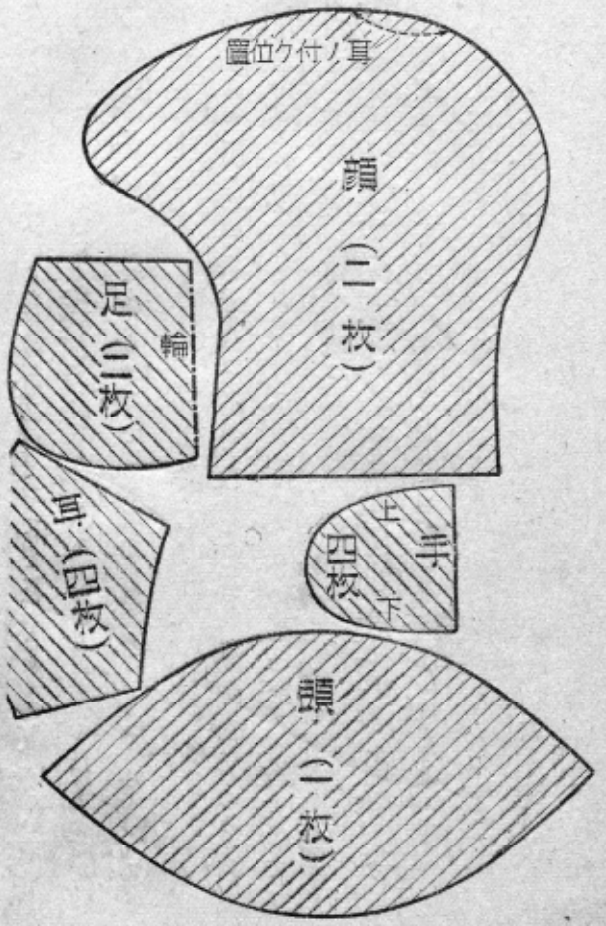
縫ひぐるみ人形の「リスの小母さん」

縫ひぐるみのお人形はいくらお子樣が亂暴に取扱つてもこはれませんので、小さい方向きには大變喜ばれるものです。日本人形や西洋人形やいろ〳〵のものが作られてゐますが普通のお人形では興がありませんから、ここでは着物を着た動物人形「リスの小母さん」を御紹介いたします。

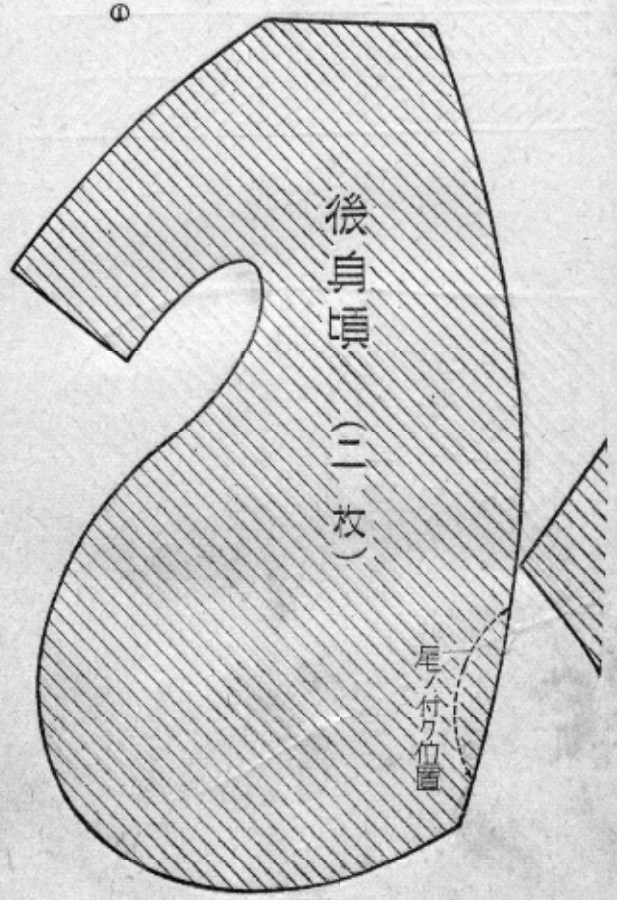
これを御參考に犬だの猫だの、小熊だの、お子樣の好きな可愛い動物の縫ひぐるみを御工夫下さい。はだかのままでもよろしいが、女の子や男の子のやうな洋服や着物を着せてやりますと、ずつと可愛らしくなります。

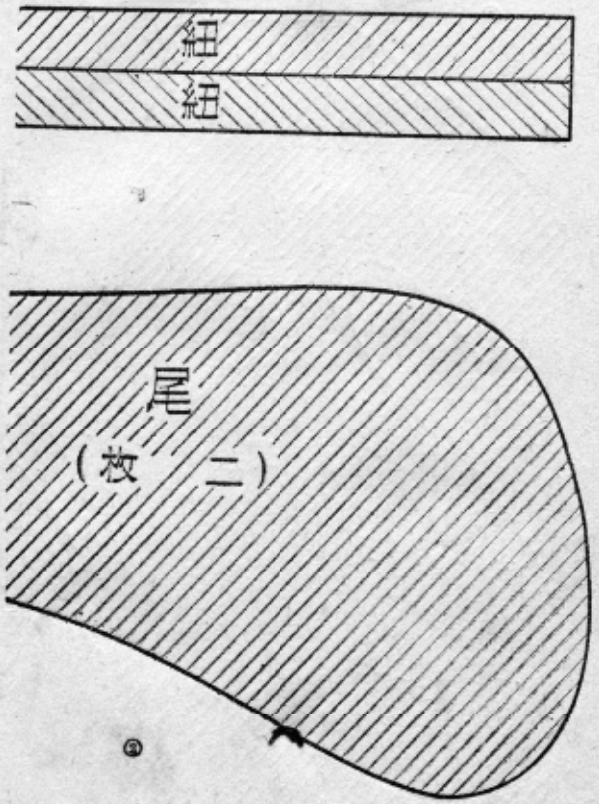
材料　可愛らしい花模樣の洋服地シングル巾三十糎（八寸）、白富士絹巾二十五糎（六寸六分）丈三十糎（八寸）薄茶の布少々、白のベンベルグ少々、半吋巾のリボン七十糎（一尺八寸五分）、芯用古綿少々、黒毛糸少々。

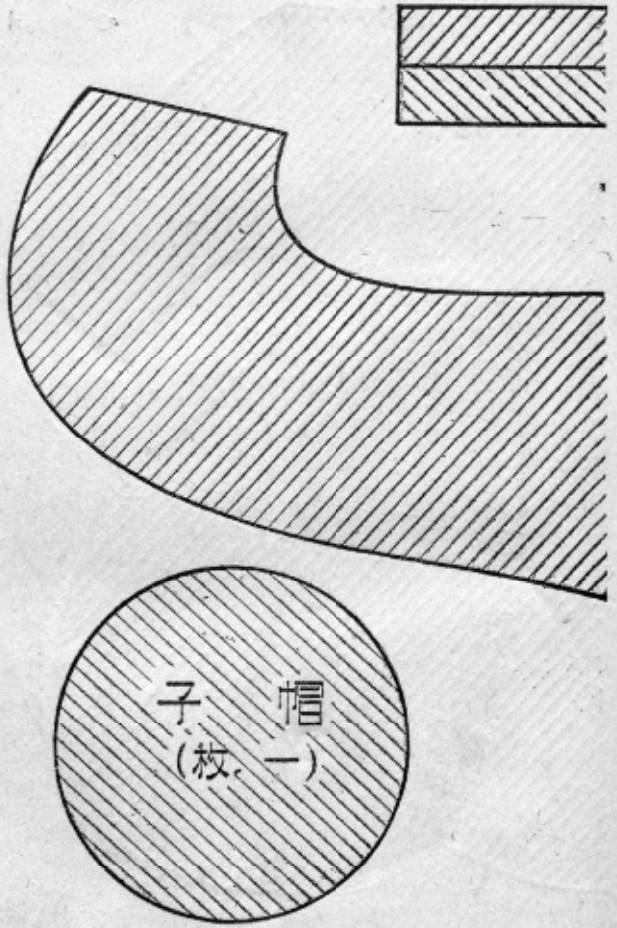
裁ち方　（1）（2）（3）圖のやうな型紙を作ります。これは實物二分の一縮寫ですから、倍に擴大して下さい。このままの大きさでも出來ますが、ずつと小さくなつてしまひます。



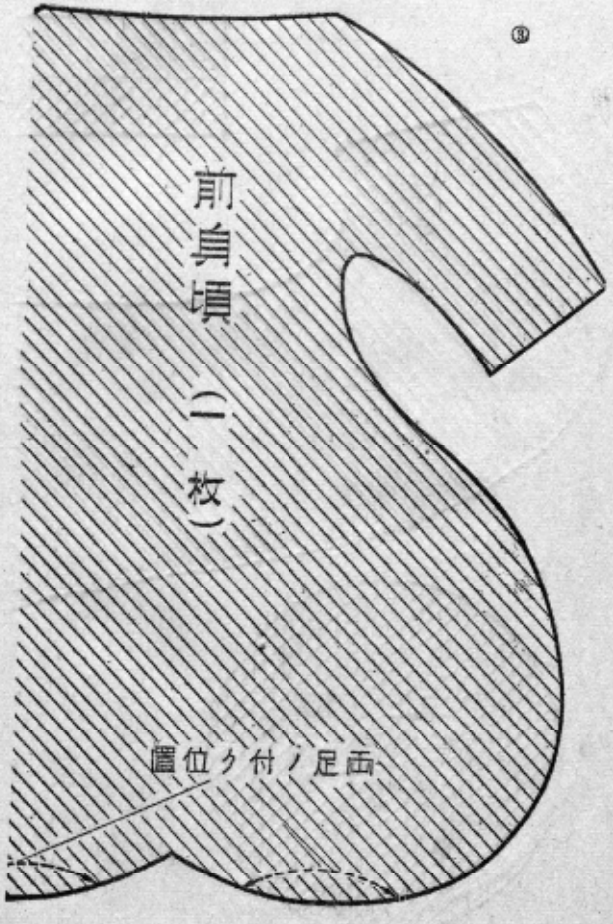
①

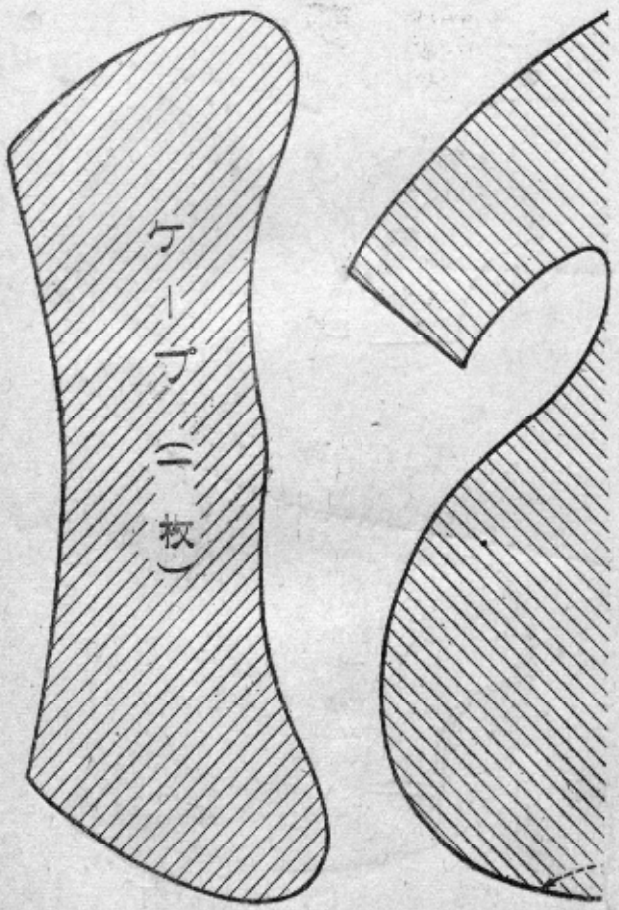



紐
紐
尾
（枚　二）


子　帽
（枚　一）

③

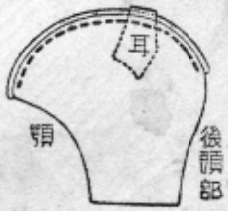




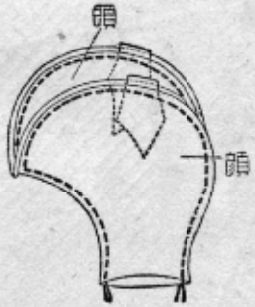
④



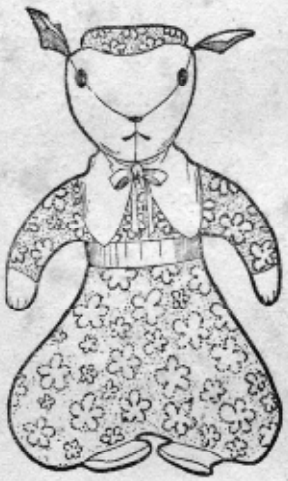
⑤



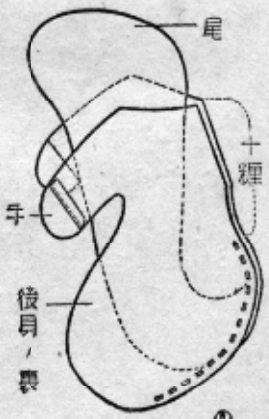












この型紙をあてて布を裁つのですが、前後の身頃と帽子は花模様の洋服地で、顔二枚、頭一枚、手四枚、足二枚、耳四枚、尻尾二枚は白の富士絹で、耳のもう後二枚は薄茶色で取ります。尙ケープは白ベンベルグで裁つておきます。

縫ひ方　型紙は全部四粍（一分強）の縫代が入れてありますから、みな四粍の縫代で縫ひ合せます。縫目は綿をつめるとひつぱれますので、ミシンで縫へば理想的ですが、手縫ひで縫ふ時は、細かな半返し縫にいたします。

最初に頭を作ります。先づ耳は左右とも白い布と薄茶色の布を中表に縫合せ、表に返して、返し口をきりつと縫縮め、鍍をあてておきます。（4圖參照）

顔の上部に頭布を合せ、型紙の耳のつく位置へ耳を挟み込んで縫ひ合せます。左右の顔を縫ひつけましたら、顎と後頭部の縫ひ殘りを縫ひつけます。（5圖參照）

これを表に返して、形よく綿をつめます。次に黒い毛糸で(6)圖のやうに、目鼻口を可愛らしく刺繍いたします。

頭が出來ましたら、次は胴體を作ります。

第一に尻尾を布二枚を中表に合せ、四粍（一分強）の縫代で縫ひ合せ、表に返して綿をきつちりつめておきます。

次に手布を前後身頃の袖口にそれ〴〵縫ひつけます。

(7)圖のやうに、後身頃で尻尾を挟んで縫ひ合せて下さい。

今度は足を二枚づつ中表に合せ、周圍を縫つて表に返し、綿を輕くつめておきます。これを前身の下部の足のつく位置に、巻糸で假につけておきます。

後身と前身を中表に合せて、後身の背を十糎（二寸六分）と、頭のつく所だけ殘して、ぐるりを縫ひます。次に表に返しましたら、形を整へながら、綿をつめて行きます。次に後身の縫殘しておいた部分を紩けつけます。

これで胴が出來上りましたから、今に出來てゐる頭を胴に差込み、形を見て、あまり針目が目立たぬ樣に體裁よくとぢつけておきます。

ケープは縁を細い三つ折縫にして、前でとぢつけます。別に白ペンネルグで細い紐を作り、これを蝶結びにして、ケープのとぢつけた所をかくすやうに縫ひつけておきます。最後に出來上り圖のやうに、胴の中央をリボンでまき、後で結ぶとすつかり出來上りになります。

森のリス達の小母さんは、お子樣方にもいゝ小母さんになつて、遊び相手をしてくれることでせう。

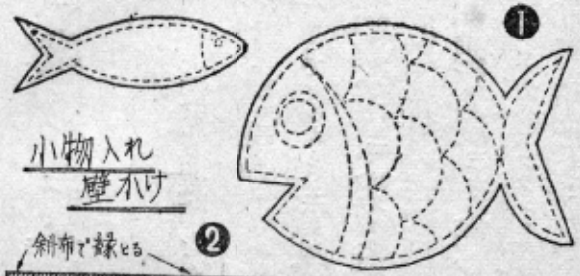
四歳のお子樣へ

實用と裝飾をかねた小物入れの壁かけ

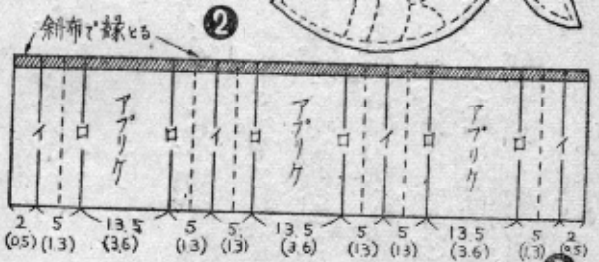
小さな手廻り品を入れておく、ポケット付きの壁かけです。可愛いお魚模樣はお子樣が嬉しがるでせうから、子供部屋にかけて、持物を整理する習慣を養つて下さい。

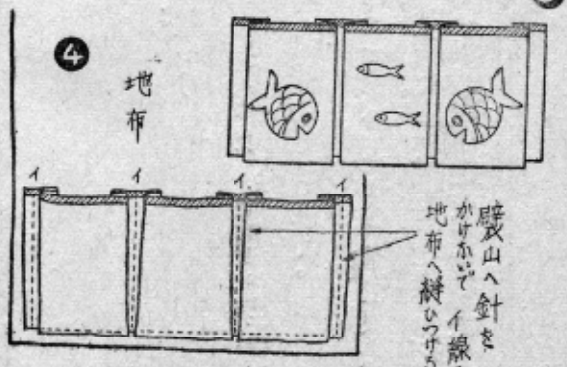
材料　地布天竺木綿又は淡色の人絹巾四十四糎（一尺一寸六分）丈七十四糎（一尺九寸五分）、ポケット布巾七十四糎（一尺九寸五分）丈二十五糎（六寸六分）二枚、アプリケ用飾り布巾三十八糎（一尺）丈十九糎（五寸）、水色斜布テープ丈四米七十四糎（一尺二寸六分）、フランス刺繍用細糸黒一把、乳の布少々。

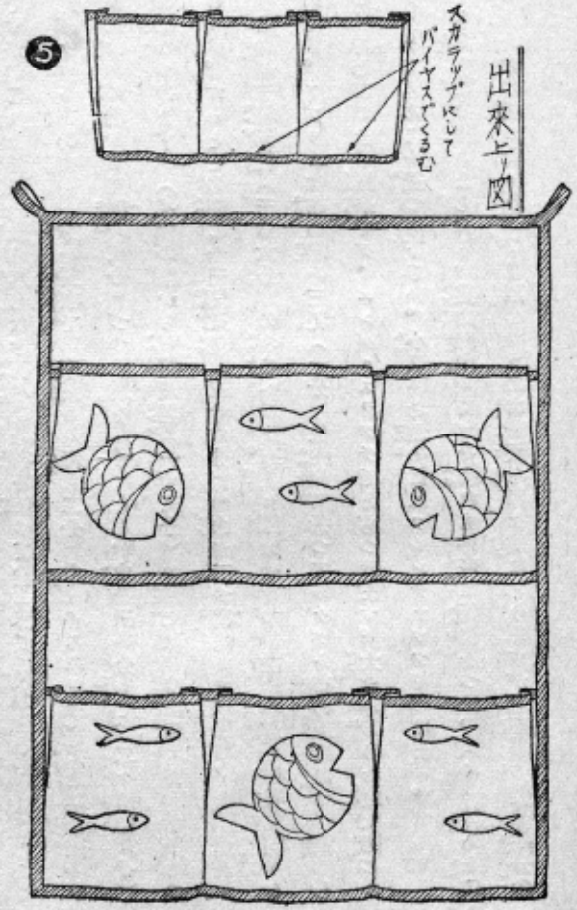
作り方　飾り布から(1)圖のやうなお魚の型を切抜きます。大きいお魚三匹、小魚六匹



小物入れ壁かけ


余分布で縁とる
イ
ロ
アップリケ
2 (0.5)
5 (1.3)
13.5 (3.6)
5 (1.3)
5 (1.3)
13.5 (3.6)
5 (1.3)
5 (1.3)
13.5 (3.6)
5 (1.3)
2 (0.5)


地布
イ
壁山へ針をかけかえて イ線を地布へ縫いつける。


スカラップにしてバイヤステープでくるむ
出来上り図

ですが、これは洋服の裁ち落しなど有名せの布を使つて、一匹づつ別の色でも構ひません。

ポケット布の丈の一方を斜布で出來上り八粍（二分）巾にくるみます。次に(2)圖のやうに巾の兩端から二糎（五分）づつの所を（イ）とし、中を三等分して、二ヶ所に（イ）の印をつけます。（イ）の線から兩側五糎（一寸三分）の所には、襞山線（ロ）を標しつけます。するとその間に十三糎五粍（三寸六分）の巾が三つ出來ます。

この十三糎五粍（三寸六分）の中心へ、出來上り圖のやうな位置にお魚を布置刺繍するのです。アプリケは布の端を三粍（一分）位内側に折つてポケット布の上にのせ、輕くしつけをしておき、黒糸でダーニング・ステッチでとぢつけます。大きい方のお魚は同じステッチでうろこを縫つて下さい。小さいお魚の目はフレンチナツツでつけます。

刺繍が出來上りましたら、襞山線の（ロ）を何れも外表に折目をつけ、（イ）線の上につき合せに折りたゝみ、(3)圖のやうに巾着襞を四ヶ所にとりますが、兩端の襞は半分の襞になります。

次に地布へポケット布を縫ひつけます。先づ下の方のポケット布を(4)圖のやうに地布の裾口と揃へて重ね、ポケットの口元だけ殘して三方を襞で押へます。圖のやうに中央の二ヶ所だけ、つき合せた襞の中心(2)圖の（イ）線に、襞山へ針がかゝらぬやうに、地布へミシンで縫ひつけます。

次に上のポケットをつけます。下の方を(5)圖のやうに水色の斜布でくるみますが、この時波のつもりで、スカラップ型に作つて下さい。これを地布の一番下から三十四粍（九寸）の所へおき、バイヤスの上と、下のポケットと同じく（イ）線を綴ぢつけます。

地布の周り全體をバイヤスでくるみます。下の線はやはりスカラップにします。

出來上り圖のやうに、地布の上方兩角に、巾八粍（二分）丈四糎（一寸一分）位の乳をつけると出來上ります。

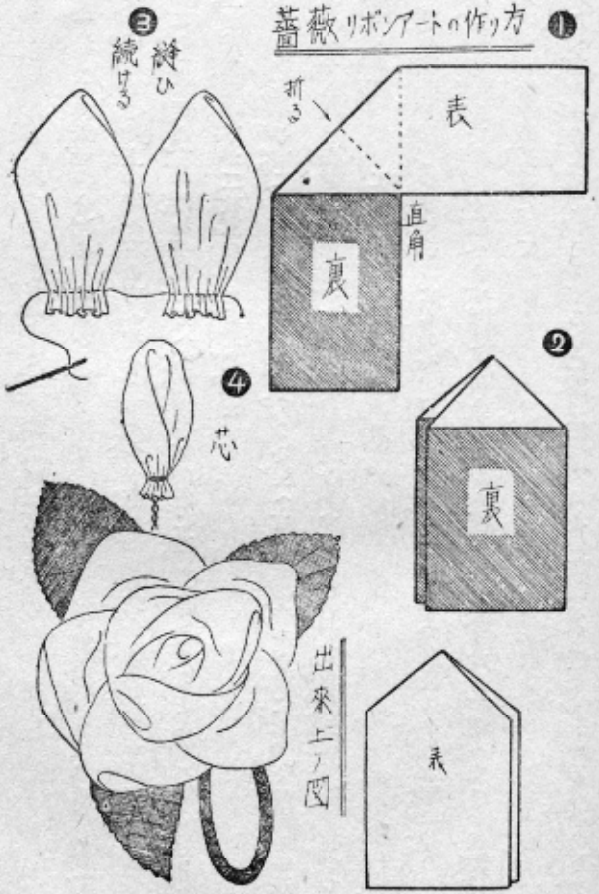
リボンアートの造花の作り方

小さな端布一つでもそれを巧みに細工いたしますと、美しい花となり、葉となり、立派な洋服飾りや帽子飾りが出來上ります。このリボンアートといふのは、元々リボンを材料にしたためにこのやうな名がありますが、薄地の朱子、繻絨、羽二重など何でも出來ます。スポーティな洋服の飾りなら、木綿ものなども面白く、洋服の殘り布などで、いろ〳〵配合のよいものをお作り下さい。

ばらの造花

材料　朱子リボン一吋巾一米（二尺六寸四分）ビロード製ばらの葉三枚、造花用青針金一本、造花用青紙少々。

作り方　この花はリボンの巾の廣い狹いによつて、花の大きさは自然違つて來ますが、いつも一つの瓣に用ひるリボンの長さは、巾の三倍から四倍位あれば、恰好のよいものが出來ます。全體の瓣の數も幾枚と決めず、用ひる場合によつて、大きくしたり小さくした



りするとよろしいのです。ここでは八枚の瓣にいたしました。

一米（二尺六寸四分）のリボンを九つに切り、その一枚(1)を圖のやうに、リボンの裏を手前にして、上の端を右の方へ折り、下の角が直角に、且つ兩端の長さが同じになるやうにして、更に右の端を手前の方へ折曲げ、下の端に重ねます。すると（2）圖のやうに上が三角に、下が二枚重つたものが出來ます。

これは裏が手前になつてゐますから、向きを變へて、表の方を手前にし、下の端から五粍（一分五厘）ほど上つた所を普通の針目で縫ひます。かうして八枚共打つては一枚づつ順々（3）圖のやうに、同じ糸で縫ひつゞけます。

芯は花瓣と同じやうに折つたものを、ぐるぐる細くまいて、（4）圖のやうな形に作り、根元を青針金でかたく結へます。この針金は後から莖になりますから、切らずに十五糎（四寸）ほどの長さにしておきます。

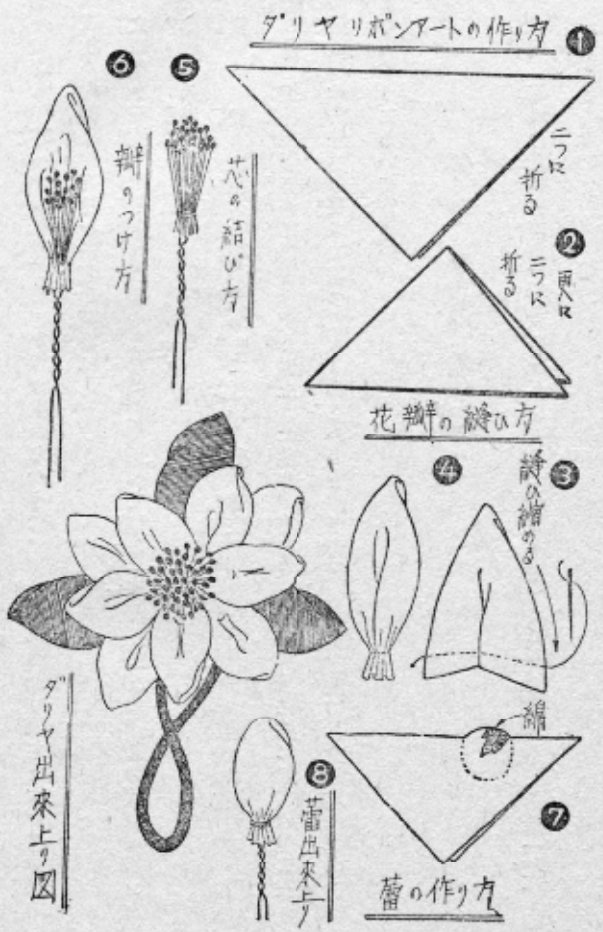
この芯を中心にして、そのぐるりに前に縫つた八枚の花瓣を位置よくまいて、花の形を整へながら、芯へかぶりつけて、花瓣が動かぬやうに、根元をしつかり綴ぢます。この瓣は三枚を內側に、五枚を外側の花瓣にしますと、いゝ恰好に仕上ります。

次に葉を三枚、出來上り圖のやうな位置に添へて莖と一緒にまきます。この葉はリボンで作つても結構です。

莖をまく紙はなるべく花や葉の色に近い、薄い雁皮紙を選びますが、適當な紙のない場合には、造花用青紙を用ひます。まき上げた莖は、出來上り圖のやうに輪にしても、又三四糎（一寸內外）の長さに切つてもよろしいのです。青紙の卷き方は、針金を芯にしてこよりのやうにまいて下さい。

ダリヤの造花

材料　薄地の縮緬十糎（二寸六分）角のもの九枚（花用）同三枚（葉用）造花用莖一把、青針金一本。



作り方 十糎（二寸六分）角の布（これは作る花の大きさによつて、加減して下さい）を、(1)圖のやうに三角に二つ折にし、更にこれを三角に二つ折にして、(2)圖のやうなものを作ります。

これを(3)圖のやうに、下の中央、つまり裁ち目の眞中で一つ襞を取つて、それから五粍(一分五厘)位の縫代で、縫糸を引締めて縮めますと、(4)圖のやうな花辨が出來上ります。全部の花辨を同樣にして作つておきます。

次に(5)圖のやうに藍を青針金でかたく結へて、針金をよつておきます。芯が出來ましたら、(6)圖のやうに、前に縫つておいた辨を一つづつ芯の廻りに位置よく、花の形を整へながらとぢつけて行きます。全部の辨がつきましたら、全體として花の感じをよく見て辨の付け際をかがりつけます。

葉は辨と同じ作り方で、色變りのものを三枚作り出來上りのやうにつけて仕上げます。

もし蕾を添へるのでしたら、次のやうにいたします。かたい蕾の時は、(7)圖のやうに

花瓣と同じ大きさの布を、先づ三角に二つ折にし、その半分の中に適當の大きさに輕く丸めた綿を入れ、これを又三角に二つ折にして、根元を針金で結へますと、(8)圖のやうな蕾が出來ます。

半開きの蕾は、花瓣と同じ布を三枚用意して、芯をはぶいて（入れても極く少し）この纏を少し丸め加減にして、根元を針金で結き、次の瓣も亦前の瓣をまくやうにしてとぢつけ、花瓣のひらきかゝりのやうな感じを出せばよろしいのです。

全部出來ましたら、花に蕾を添へ、葉と一緒に藍をまいて仕上げます。

以上は全部布の裁ち目を折込んでしまふ造花ですが、厚手の布なら、花瓣の形に切りつぱなしのものをまとめればよろしい。薄地の布やはりのない布の場合は裏から薄糊をつけて、ピンとさせてから作りますと、色々な面白い造花が出來ます。

思ひつきで可愛らしい子供帽子二種

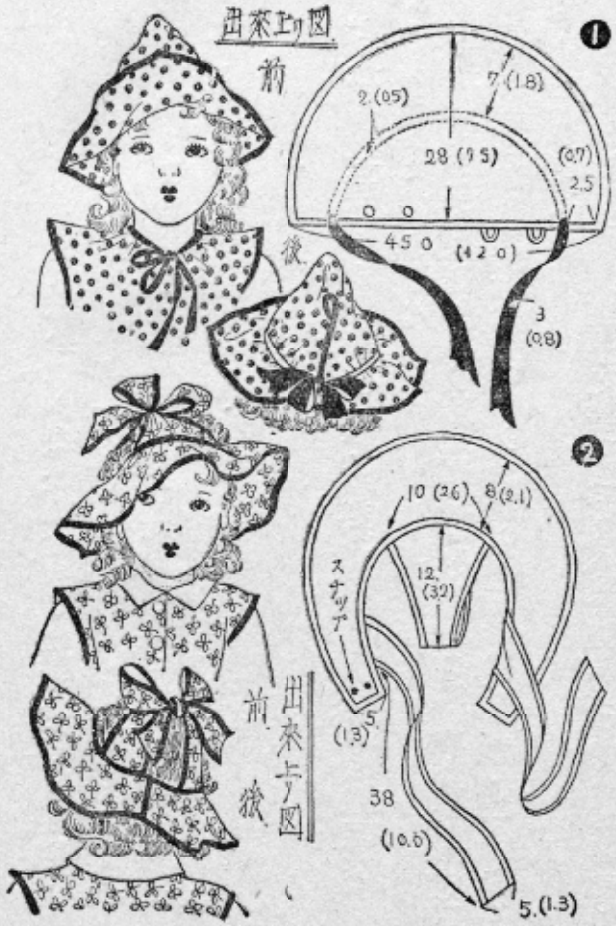
洋服の殘り布處用で、こんな可愛い帽子が簡單に作れます。勿論外出用になりますが、避暑地などでおかぶりになるのに好適と存じます。これはどちらも四、五歳用ですが、寸法を大きくしさへすれば、お母さまやお姉さまがお揃ひでお作りになつても、決してをかしくはございません。

一枚布の帽子

裁ち方　圖の寸法通りに（半圓形に）表と裏を共布で一枚づつと、芯用として三河木綿かキヤラコを一枚お裁ち下さい。

縫ひ方　表裏の布を外表に合せて、その間に芯布を入れ、三枚一緒に周りを襞で押へます。紐通しのために、二糎（五分）巾にミシンをかけ、配合のよいリボンを、表地と芯の間に通しておきます。

次に周圍にぐるりとリボンと同色の斜布で五粍（一分五厘）巾の玉緣をつけ、圖のやう



に、下の直線の部分に釦とループをつけます。縁取りはかざりと同じリボンでもよろしうございます。

かぶり方は、出來上り圖のやうに、ボタンをかけ、頭にかぶつてから、リボンを引しめます。前は一寸つばを折返して下さい。

涼しい帽子

裁ち方　（1）と同じく、表裏共布で裁ち、鍔の部分だけ芯地を一枚裁ちます。眞中の輪になつた所は倍の長さに裁つて、二つに折るのです。

縫ひ方　先づ輪の部分と紐を配合のよい斜布かリボンで縁取り、鍔は内側の丸味だけを表と芯地と合せて縁を取つておきます。輪と紐をその裏にとぢつけ裏布をまつつて、鍔の周圍に、表、芯、裏と三枚重ねた上に、表から飾りをつけ裏でまつります。

最後に鍔の端にスナップ二組つけておきます。

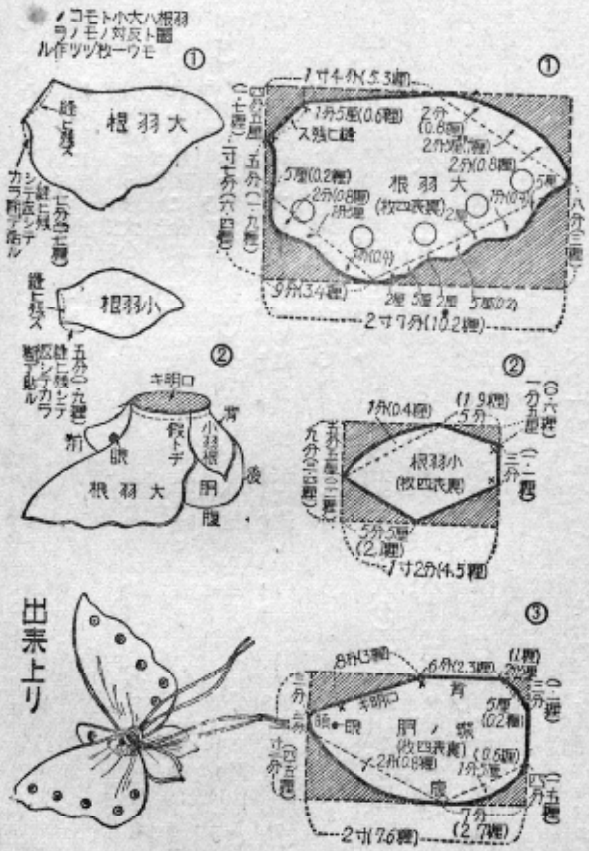
かぶる時は、スナツプを止め、紐を輪に通して結んで下さい。風通しがよいので、頭がむれず、涼しい帽子が出來上ります。

黒胡蝶型の美しい小物入れ

黒胡蝶を象つた小布應用の綺麗な小物入れです。これは赤い蝶でも白い蝶、黄色い蝶と色ちがひで御姉妹お揃ひに作つてあげても、喜ばれることと存じます。洋服の殘り布などを使つて、柄の蝶なども一寸面白うございます。

材料　蝶の羽根及び胴の表布として黒紋紗巾十八糎（五寸）丈十五糎（四寸）羽根の裏布に黄縮緬巾二十六糎五粍（七寸）丈七糎五粍（二寸）胴の裏に白ボイル九糎五粍、（二寸五分）角、縁布に緑縮緬巾三糎八粍（一寸）丈三糎（八分）細い赤の打紐五十七糎（一尺五寸）他に生半紙、綿少々、蝶の目玉にビーズ絲十二個、赤二個。

作り方　生半紙で型紙圖の通りに大羽根四枚、小羽根四枚、胴四枚の型紙を作り、これ



に縁糊して、それ〴〵の用布に貼り合せてから布を裁ちます。羽根も胴も向ひ合せになるやう、型紙を貼る時に御注意下さい。

先づ羽根を作りませう。大小とも表は黒の紋紗、裏には黄の縮緬で裁つてありませう。表裏の布をそれ〴〵中表に合せ、羽根の付根とそれに續いた下方の部分を、大羽根は二糎七粍（七分）小羽根は一糎九粍（五分）づつ縫ひ殘し、他は全部三粍（一分）の縫代でぐるりと縫ひます。縫代の丸みの所は切り込を入れて表に返し、付根でない部分の縫ひ殘した所は衍け難いですから、糊で貼りつけておきます。（1圖參照）

胴は巾着になりますから、口明として背中の一部分を三糎（八分）だけ縫ひ殘して表に返し、（2）圖のやうに、この口明の左右に、大きい羽根を前、小さい羽根を後側へ並べ、假とぢしておいてから、廻りを緣布と一緒に縫ひ、裏でくけます。この緣布は巾二つに切つて、片側づつにつけ、紐通しにいたします。

目玉は適當に位置を見計つて、赤ビーズを一つづつ先につけ、その周りに綠色のを六つづつ付けます。

これで大體形が出來上りましたから羽根の模樣をつけます。先づ黄の布で、直徑六粍、（一分五厘）の丸と、綠色で直徑四粍（一分）の丸を十枚づつ切り、黄の中央に緣を貼りつけ、それを出來上り圖の位置に大羽根に貼りつけます。

終りに打紐を二等分して、紐通しの兩側へ一本づつ通して出來上りとなります。

お子樣と一緒に遊べる新聞粘土の作り方

今日はお子樣と一緒に粘土細工をしようではありませんか？　これは新聞紙で出來る簡單な粘土です。

材料　新聞紙と生麩糊と磨砂。分量は新聞紙五枚に對して、生麩糊二錢、磨粉二錢の割合。

作り方　新聞紙五枚を四糎（一寸一分）平方位に千切り、一晩水につけておきます。

翌日これを水から上げ、お鍋に入れて、被る程度に水を加へ、焦げつかないやうに絶え ず掻き廻しながら二、三十分煮込みます。新聞紙がドロ〳〵になるのを度として、鍋から笊にあげ、水氣を切つておきます。

次に生麩糊を鍋に入れ、水少々を加へて火にかけ、ドロリとした糊を作ります。

笊に上げて水氣を切つた新聞紙を、兩手で硬く絞つて擂鉢に入れ、擂木で叩きつぶしながら、生麩糊、磨き砂を徐々に加へて練つて行きます。

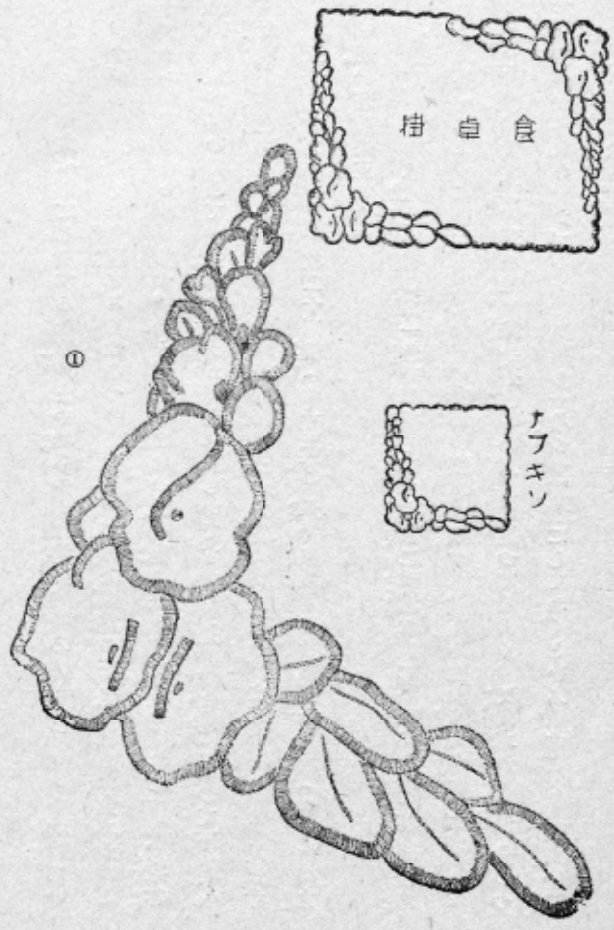
これで粘土が出來ましたから、お人形や動物やお皿やいろんなものを拵へませう。形が出來ましたら、日蔭において充分に乾かします。完全に乾くと白くなり、カサ〳〵したものになりますから、泥繪具で適當に彩色いたします。これは油繪具でも結構です。そこらで買ふ安物の博多人形などより、ずつと面白い味の出るものです。

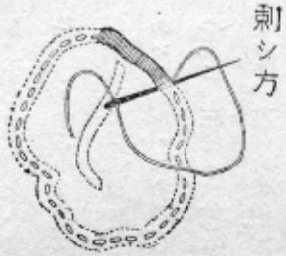
立葵の花を刺繍した清新な食卓セット一組

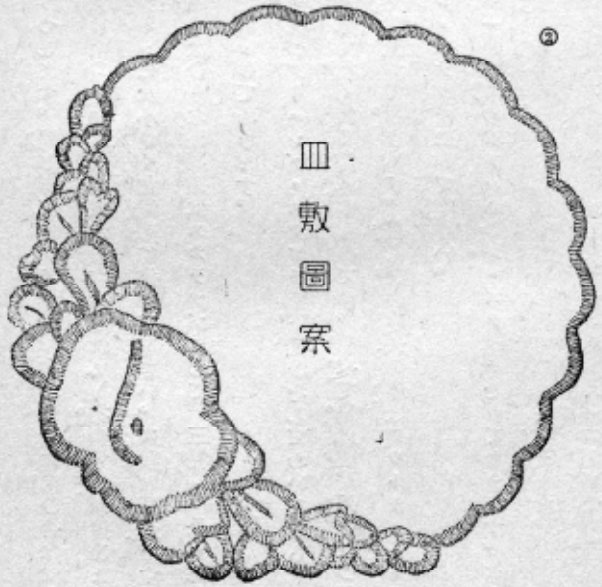
まだとても食べこぼしをするお嬢さまや坊ちやんは格別、そろ〳〵エプロンをかけないで、ナプキンだけでお食事するくせをつけませう。これは葵の花を刺繍した食卓かけとナプキン、皿敷のセットです。かうした一組は、贈り物に差上げても喜ばれますし、來客の時も氣が利いてゐて、主婦の心掛が偲ばれるものですから、是非御利用になつて下さい。

材料　水色オックスフォード食卓かけ用巾三十六糎（九寸五分）丈五十一糎（一尺三寸五分）ナプキン用一枚二十四糎（六寸三分）角、皿敷用一枚直徑十五糎（四寸）の丸形、刺繍糸五番白。

作り方　これは水色の布に白一色で刺繍して、非常に清潔な感じを出すと共に、お洗濯によく耐へるようにいたしましたが、染めの堅牢な糸なら、布を白か生地色にして花をピンクとか赤、黄、青、葉を綠、綠を茶色といふ風に縫つてもよく、又食卓かけの一角づつ花の色をかへたり、ナプキン、皿敷も一枚づつ別色にしておくといふ風なことも面白いやり方だと思ひます。


①
食卓掛
ナプキン


刺シ方
③


②
皿敷圖案

先づそれ〴〵の布に圖案をうつします。同じデザインですが、食卓かけは向ひ合はせた二つの角へ、ナプキンは一角だけに(1)の圖案を入れます。それ〴〵布の寸法が違ひますから食卓かけには大きく、ナプキンには小さく加減して描いて下さい。皿敷は圓形ですから、(2)の圖案を入れます。圖のはひらない周圍はスカラップにして、三粍（一分）位の縁縫ひをするやうに、ぐるりとつゞけておきます。

刺し方は(3)圖のやうに全部先づダーニング・ステッチで下縫ひをしておいてから、ボタンホール・ステッチだけで刺して行く極く簡單なものです。すべて輪廓線が外側につくやうに、三粍（一分）程の針足で縫つて行きます。但し葉の中央の線はアウトライン・ステッチ、花の中央の芯はサテン・ステッチにして下さい。

縁のスカラップの所も三粍（一分）巾のボタンホール・ステッチをしておきます。ボタンホール・ステッチはどれも間があかないやうにきつちりつめて刺して行きます。

全部刺繍が出來ましたら、よく切れる先の細い鉄で、ボタンホール・ステッチの際から廻りの餘分の布を、刺繍糸を切らないやうに注意して、裁ち落します。糸の切れ端がピンピン飛び出してゐては、いくら裏でも感じがよくありませんから、適當に切つて、殘りはボタンホール・ステッチの針足の中へさし込んで始末しておきます。

最後に裏からアイロンをかけて、仕上げをいたします。

このセットは是非一組は御家庭にほしいもので、この他色々な圖案でお試み下さい。夏ならば全部レース編にするか、中央に白いキャラコでもつけて周圍にレースを編みつけるといつた風なものも、涼しい感じでよろしうございます。又お子様のものではありませんが、お母様の鏡臺の上において、化粧瓶の敷物にしても、中々優美なものです。

飾り文字の縫ひ方いろ〳〵

ハンカチーフ、シーツなど洗濯屋へ始終出すものには、片端に姓名を入れておかねばなりません。墨で書いたのや、赤いカタン糸で印をつけたのはよく見受けますが、あまり感

じのよいものではありませんから、これもちよつとした工夫で、刺繍にでもしておきますと、便利で氣持がよろしうございます。

少し裝飾風にしますと、ハンド・バツクやショール、手袋などにつけても決して不調和でなく、子供のカバン、お辨當袋その他種々なものに應用することが出來ます。

ここに揭げました圖案は、裝飾風のものと實用向のものとを取りまぜてありますが、ハンカチーフなどを刺します時には、出來るだけ小さい方が氣が利いて居ます。洋服の飾りとして胸などに入れる場合は、草や花を配ふより、文字だけの工夫をこらした方が、きりつとして見えます。

日本の本字は、裝飾風な意味では劃が多いために、一寸こなし難く、使ふなら、やはり假名の程度でせう。

片假名はきちんとはなして一字づつ刺す方がよく、チエイン・ステツチか、アウトライン・ステツチ、フラット・ステツチなど、線をきちんと出せるものを選びませう。

平假名は着物の柄などで見受けるやうに、さら〳〵書き流した感じのする、續いた文字が美しいものです。これは普通細い線の部分はアウトライン・ステツチ、太い部分はフラツト・ステツチを斜めにつかつて、續けて行く方法がよろしいでせう。但し、平假名のつづけ文字は、非常に日本趣味なものに使はないと、滑稽な感じがしますから、洋服の飾りなどには不適當です。風呂敷や、極く日本風のクツション、のれんなどに御利用下さい。

飾り文字として、一番面白く、且應用範圍の廣いのは、やはりローマ字です。ローマ字はお子樣自身に讀めないかも知れませんが、これがあなたのお名前の首文字ですよといふ風に敎へる程度なら、差支へありますまい。

さてローマ字飾りをする時、自分の名の頭字を美しく表はさうとするには、書物も參考にしなければなりません。二字用ひる場合には、よく配合してゐないとをかしいものです。裝飾用なら一色でなく、いろ〳〵配合のよい色を組合せても面白いものです。

ローマ字の綴ひ方は、オーバーコステイング・ステツチが一番多く用ひられますが、そ

の他、チエイン・ステッチでも、サテン・ステッチでも、アウトライン・ステッチでも、線をかけるものなら何でも結構です。

以下圖について御説明申上げませう。ここでは、普通の活字體のものは皆さま御存じとして略し、變り體のものや、組合せの面白いものを擧げました。

(1)圖……ABCD單獨に一字づつのものですが、各に丸い玉が三つづつつけられて、裝飾をしてゐます。これは、文字の輪廓だけ（外廻りも内廻りも）アウトライン・ステッチなどで表はし、玉を別色で配つてもよし、サテン・ステッチにして縫ひつぶすのも一法です。又布をこの形に切抜いて、アプリケしても、よろしいでせう。

(2)圖……これは大變面白い字體を、二字づつ組合せた場合の見本です。假にAB、CDEF、GHとして見ました。ABは丸型、CDは矩形、EFは菱形、GHは斜めに二字並べたもの。各字とも、輪廓線は濃い色でアウトライン・ステッチし、淺色のダーニング・ステッチで内部を埋めてあります。

(3)圖……BDの組合せ、三角の感じを出したものです。Bの字は巾廣く、その他の線はや、細めにオーバーコスティング・ステッチで縫ひます。

(4)圖……DHの組合せ、補助の圖案を使つて丸形になつて居ります。刺し方は文字と模様の輪廓をオーバーコスティング・ステッチ、横様の内部はダーニング・ステッチで埋めてあります。

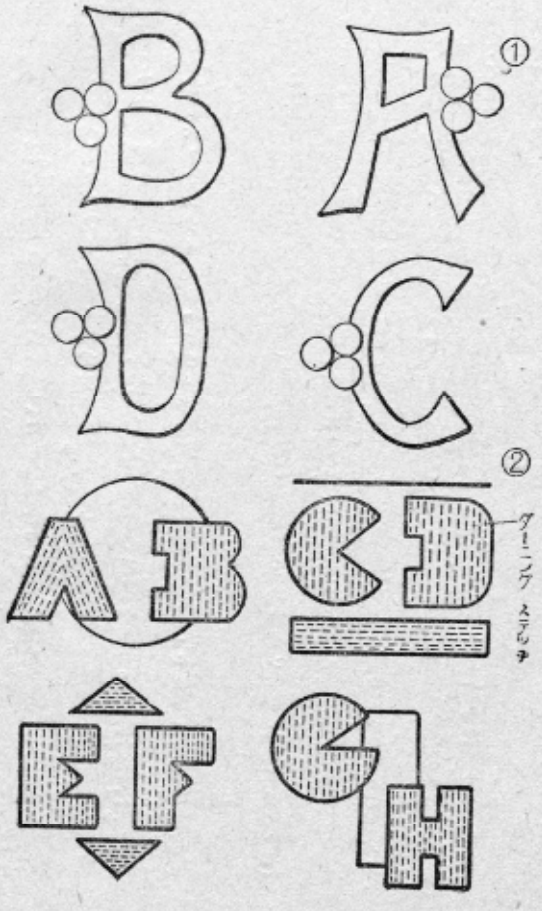
(5)圖……THの組合せになる丸形。Tは輪廓をオーバーコスティング・ステッチ、中にダーニング・ステッチをし、Hは少し太目にTと同じ刺し方をします。

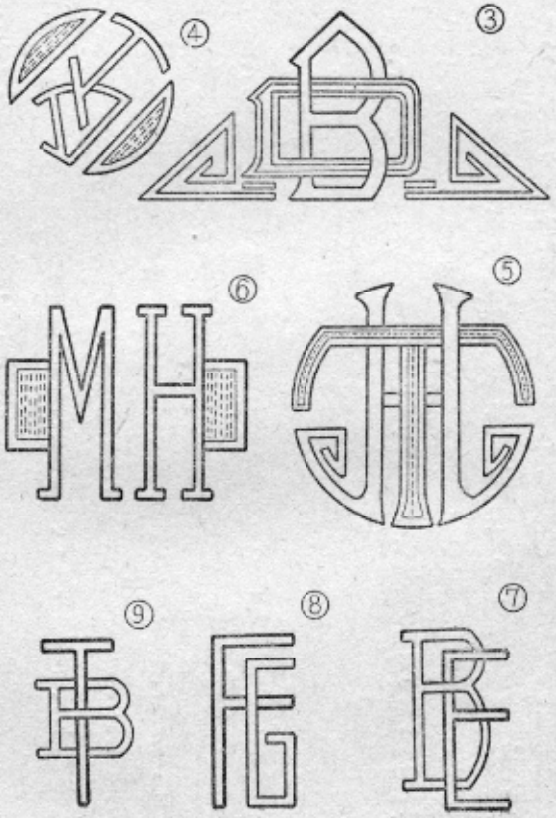
(6)圖……MHを横形に組合せたもの。文字はサテン・ステッチ、兩脇の横様はオーバーコスティングで輪廓し、ダーニングで埋めるだけです。

(7)圖……BEの組合せ、細くするならオーバーコスティング、太くするならサテン・ステッチで刺します。

(8)圖……FGの組合せ、縦の方が横の線より少し太目になつてゐます。刺し方は(7)と

同じ。





(9)圖……TBの組合せ、刺し方は(7)と同じ。

(10)圖……ATの組合せで、縦長な菱形です。これはサテン・ステッチにします。

(11)圖……AJの組合せで丸味を持たせたもの。共にオーバーコスティング・ステッチです

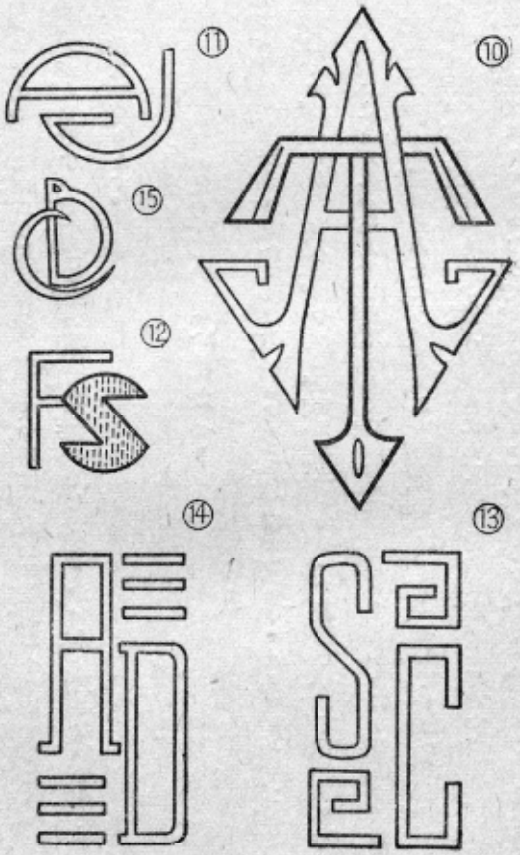
(12)圖……FSの組合せ、全然書體の違ふ二字ですが、面白い調和を見せてゐます。Fはオーバーコスティング、Sは(2)圖の刺し方と同じですが、一色にします。

(13)圖……SCの長方形になつた組合せ。刺し方は全部オーバーコスティング・ステッチに致します。

(14)圖……ADの組合せ(13)と同樣に刺します。

(15)圖……BCの組合せ、オーバーコスティングで刺しますが、太めの所や細めの所を綺麗に變化づけていたゞきたいものです。

以上で大體おわかりと存じますが、自分の頭文字の組合せを新しく作る場合、丸や四角や菱形の中へ宛はめるやうに字をくづして行くと、容易く面白い圖案が出來上ります。

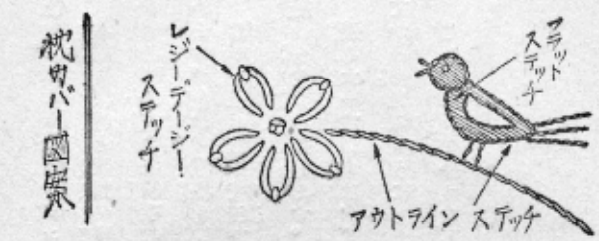


ハンカチのやうに兩面使用のものを刺します時は、表裏の區別のハッキリしたいやうに刺すことが大切です。ですから糸の端は縫ひ込めてしまふとか、糸を飛さないやうにするとかの注意が要ります。

衞生的で感じのよい枕カバー

枕カバーは洗濯がきゝさへすれば何でもいゝと考へられ勝ちですが、お子様用には、やはり動物とか小鳥とか、お人形のやうな子供の喜ぶものを一寸刺繍でもして下さい。自分のものといふことがしみ込んで、寢床をしく時の手傷ひも自らするやうになります。お名前も一緒に角の方へ縫ひ込みませう。たゞこの時刺繍糸は、洗濯をしても色が滲み出さないやうに、極く色の堅牢なものを選ぶか淡色にしておく位の注意が必要です。

材料 天竺一又はキャラコなど丈夫な生地巾三十二糎（九寸）丈五十糎（一尺三寸二分）のもの二枚、好みの色の刺繍糸少々、貝釦一個。





作り方 先づ模様と名前の刺繍をいたします。

ここでは花のある小枝にとまつた小鳥を刺しました。鳥の輪廓と尻尾の羽はアウト・ライン・ステッチ、黒くつぶしてある部分は、フラット・ステッチで埋めます。目は白く縫ひ殘しておけばよいのです。花はレジー・デージー・ステッチ眞中の芯はフレンチ・ナッツ、枝はアウトライン・ステッチにいたします。この刺繍は種々な

色を使ふより淡色かピンクなど一色で仕上げる方が清潔な感じがいたします。

名前は模様と反對の隅に、鉛筆で下描きしておいて、チエイン・ステッチで縫ひ入れます。これは或ひは前項に述べましたやうな花文字のイニシアルなどにしてもよろしうございます。色は、模様と同色にいたします。

次に二枚の布を中表に合せ、巾の一方だけ殘してぐるりと一糎（三分）位の縫代にして縫ひ合せ表へ返します。この周圍は丈夫にするために袋縫ひしておけば、なほ結構です。

殘した一方の口は、八粍（二分）上りの三つ折縞にして仕上げ、口の中央には釦をつけてかけ合せるやうにします。この釦は、表布の裏側につけ、裏布の方に釦穴をあけます。

これで御覽のやうな可愛い枕カバーが出來上りました。

五歳のお子様へ

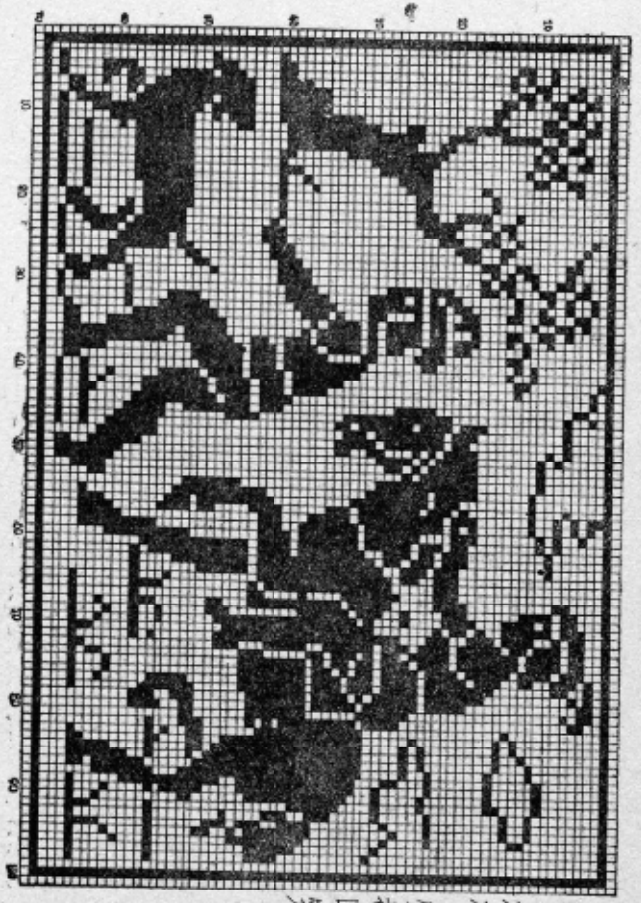
長編と鎖だけの騎士模様レース壁かけ

寫眞のやうに騎士模様を現はした、涼しさうな壁かけです。五つ六つの男のお子様に編んで上げませう。お馬や、騎士や犬等は、お母様のお伽話と一緒に興味深いものです。

材料　新カタン糸八番二綛、レース鉤針七番一本。

編み方　全部長編と鎖編だけで編んだものですから、出來上りが面白い割に簡單なものです。たゞ模様の廓數を間違へないやうに丹念にお編み下さい。

先づ鎖を三百七目編み、六目戻つて、七つ目に長編一つ、鎖二つ編んで下の鎖二つとばし、三つ目に長編一つの廓を編みます。以下は圖にしたがつて、注意深く間違はないやう



編み模様の例（其四）

に編んで行きます。模様の一廓が黒になつてゐる所は長編四つで埋めますが、二廓の時は七つ、三廓の時は十になります。

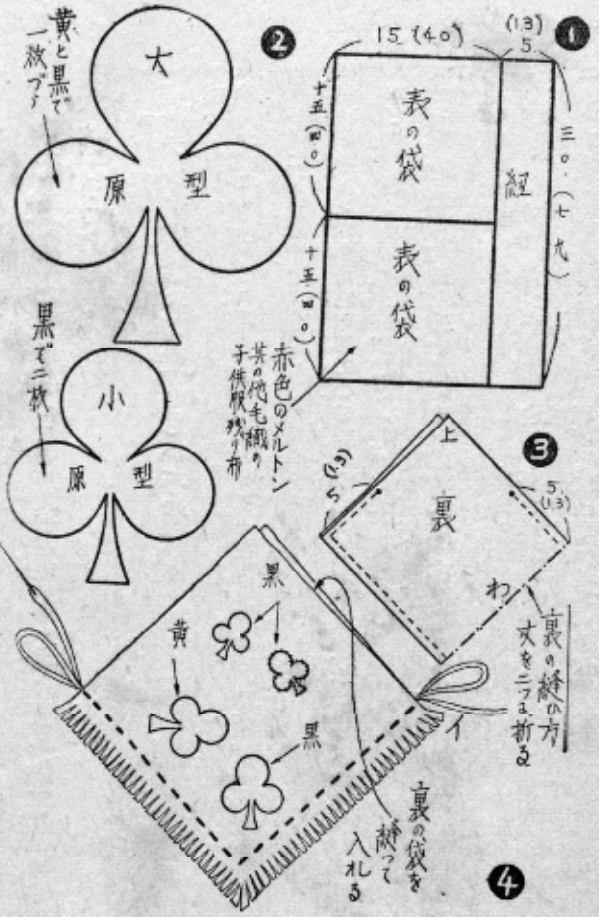
トランプ模様の可愛らしい手提げ

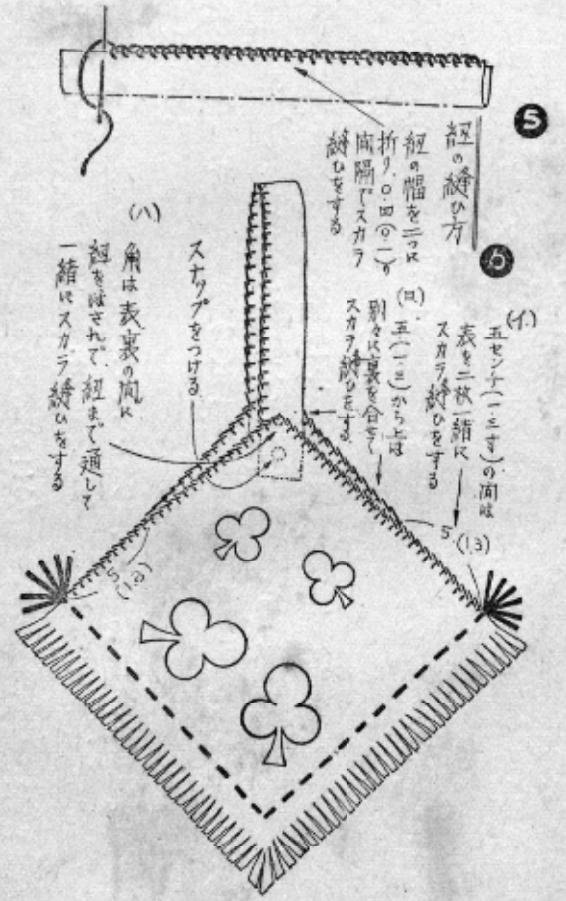
お母様と御一緒にお出かけの時に、こんなバッグを持たせて上げませう。お菓子やハンケチを入れるのに重寶です。

これは赤いメルトン地に黄色と黒で小さいトランプのクラブをアプリケしたもの。お洋服の殘りなど、裁端のほつれない毛織なら何でも結構です。

材料　表用布巾二十糎（五寸三分）丈三十糎（八寸）裏用新モス同寸、アプリケ用飾り布少々刺繍糸少々。

裁ち方　表用布は圖のやうに取り(1)裏は袋布だけ裁ちますが中央は切りはなしません アプリケのクラブ型は(2)圖のやうに、大型を黒と黄一枚づゝ、小型を黒二枚取ります。


大型原
小型原
黄と黒で一枚づゝ
黒で二枚
15 (4.0)
(13) 5
1
表の袋
表の袋
紐
三〇 (七九)
十五 (四〇)
十五 (四〇)
赤色のメルトン其の代毛織り子供服地少々
2
上裏
3
5 (13)
わ
裏の縫ひ方
丈を二つ折る
黒
黄
黒
イ
裏の袋を被って入れる
4


5
紐の縫ひ方
紐の幅を二つに折り、〇四(〇二)の両隅でスカラ縫ひをする
6
(イ) 五センチ(一・三寸)の両端を表を二枚一緒にスカラ縫ひをする
(ロ) 五(一・三)から上は別々に裏を合せてスカラ縫ひをする
スナップをつける
(ハ) 脇は表裏の脇を紐を被せて、紐まで通して一緒にスカラ縫ひをする
5 (1.3)
5 (1.3)

縫ひ方　先づ裏の袋布を(3)圖のやうに丈を二つに折つて縫ひます。縫代は兩横を五粍（一分五厘）下を六粍（一分七厘）にします。

表用布の一枚を取り(4)圖のやうにクラブをおいて、端を四粍（一分三厘）の針目でまつりつけます。

次に表用布を二枚合せ、横の角(イ)は一針からげて六糎（一寸六分）位の輪にし、端から二糎（五分）はひつた所を一糎（三分）の針目で縫ひます。

下部の三角になる部分は巾三粍（一分）深さ一糎（三分）の切り込みを入れて、飾りをつけます。この中へ先に縫つておいた裏の袋を入れます。

紐は巾を二つに折り、四粍（一分三厘）位の間隔でスカラ縫ひ（ボタンホール・ステツチ）をいたします。(5圖)

この紐を裏表の袋布の間に(6)圖のやうに挟んで、口許をスカラ縫ひします。口許は角から五糎（一寸三分）の間は二枚一緒にスカラ縫ひでとぢ合せ、それから上は別々に裏と合せてスカラ縫ひします。これで出來ました。

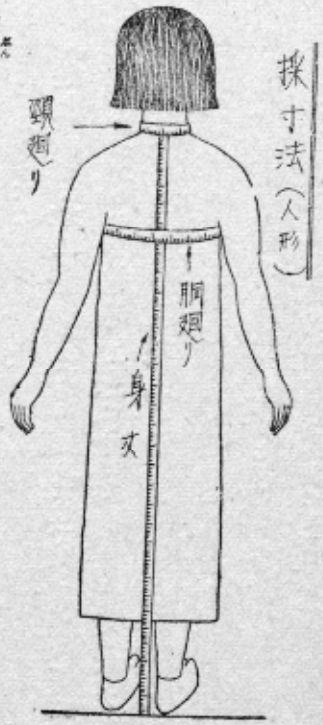
しつくりと出來上るお人形の着物

そろ〳〵お嬢さんが大きくおなりになりますと、お人形も眺めるだけでは氣が濟まず、何枚も著替への着物をこしらへていたゞいて眺がしたり、着せたり、小さいママさん振りを發揮するやうになります。

寸法の割り出し方　洋服の方は丈と胸周りだけで簡單に割出せませうが、日本人形の着物は中々むづかしいものです。人形は普通の人の身體と比べて、大分割合ひが違つて居りますのと、生きた人のやうに上手に着こなすといふことが出來ませんから、着物の寸法を餘程上手にしつくり縫上げませんと、恰好のよい着付が出來ません。それで人形の着物は次の諸點で寸法をきめて、それから割出して行きます。

圖のやうに身丈、首の廻り、胴の廻りを計つて下さい。

採寸法（人形）



身丈　背中心から足底まで。

衿肩明　首廻りの八分の一。

繰越　衿肩よも四糎少くします

後巾　胴廻の四分の一。

前巾　後巾と同寸にして衽下りをすつと斜めにします。

衽巾　前巾の三分の二より一糎（三分）廣くします。

衽下り　首廻りの三分の一。

衿下　着丈の三分の一。

袖丈　着丈の三分の二。

袖附　首廻りの三分の一。

袖口　袖附より八糎（二分）多く。

袖巾　後巾より二糎（五分）廣く。

衿巾　首廻りの十分の一。

縫ひ方　以上のやうにして布が裁てましたら、縫ひにかゝりませう。縫ひ方は普通の着物と同じですが、人形は胸が張つてゐますから、胸巾を餘程廣くしないと、前の合さりが上手に行きません。それが衽下りの間の斜を多くして、衽附は殆んど眞直に近い位にし、なほ衿附の時、衽を充分にふくらませておきます。袖は袖口も裾も普通の着物に比べてずつと大きくいたします。

腰揚げがあまり少いと貧弱に見えますから充分揚げの出來るやうに、身丈の裁切りを長くしておきます。揚げの位置は丈を四と六の割合にして、上から四のところへ、縫ひ糸が

行く位の位置にすると、恰好よく出來ます。

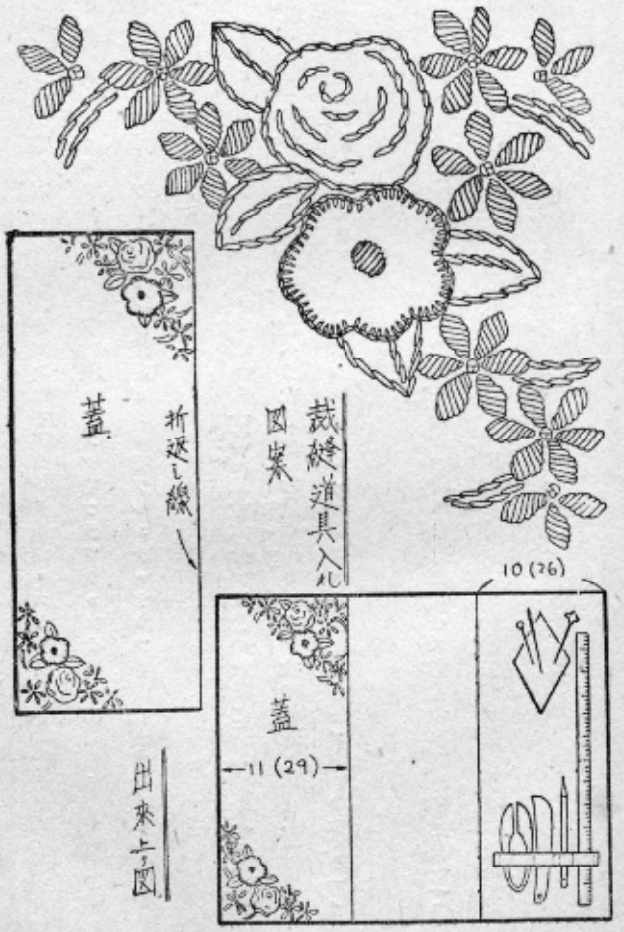
肩揚げは縫ひ糸が、衿附から四粍（一分）位はなれた邊に出る位が一番自然です。

氣の利いたお裁縫道具入れ

南京玉をつないだり、折紙や切紙をなさる時のはさみ、針、糸巻などを、こんな可愛いお裁縫袋に入れて上げて下さい。針やお道具を一々仕舞ふ習慣をつけるのに好適なものです。糸や南京玉などは袋の中へ入れます。

材料　淡い水色ラシヤ巾二十二糎五粍（五寸九分）丈三十二糎（八寸五分）針差用紅絹少々、刺繍糸濃いブルー、ピンク濃淡、紫、綠各少々づつ。

作り方　先づ表の刺繍をいたします。水色ラシヤの左端から十一糎（二寸九分）の所が蓋になりますから、その上に、圖案を描きます。圖案は上下反對にむき合ふやうにいたします。



刺繍は上の方の大きい花は濃いピンクでアウトライン・ステッチ、下の花は廻りを紫でボタンホール・ステッチにし、芯は淡いピンクでフラット・ステッチにします。周圍の小さい花はブルーでフラット、芯は淡いピンクでフレンチ・ナットを刺します。葉と莖はいづれも綠でアウトライン・ステッチにいたします。

刺繍が出來ましたら、今度は右端から十糎（二寸六分）はひつた所に折る標をつけ、圖のやうに、針差しと、鋏、鉛筆、ヘラなどを挾む所を作ります。次に針差しのついてゐる方を折り、兩横を共糸かブルーのボタンホール・ステッチできれいにかゞつて、袋にこしらへます。

これはラシヤのやうなしつかりした布でない時には裏に新モスでもつけて、袷にしたてればよろしい。色もお好みでお變へ下さい。刺繍の中、大きい花二つは何か配合のよい布をのせて、アプリクにして下さつても結構だと思ひます。

子供用の可愛らしいハンカチーフ

御主人にいつも眞白なハンカチーフを持たせて上げるのが主婦のつとめであるやうに、お子様にも可愛いハンカチーフを作つて上げませう。いつもポケツトに清潔な手拭きのハンカチーフを持つてゐるお子様はきつとよいお母様の躾のほどが伺はれます。一寸した小布を接ぎ合せたり、可愛い刺繍を配つたりすることで、お子様用らしい、氣の利いたものが出來上ります。又無地のハンカチーフを求めて、それに一寸加工しても、お子様を喜ばすものが出來ませう。

小花刺繍のハンカチーフ

これはお父さまの廊のワイシャツが、袖口や衿に破れが出來て、使へなくなつたのでよい所を切取つて作つたものですが、用布はキヤラコでも何でも結構です。

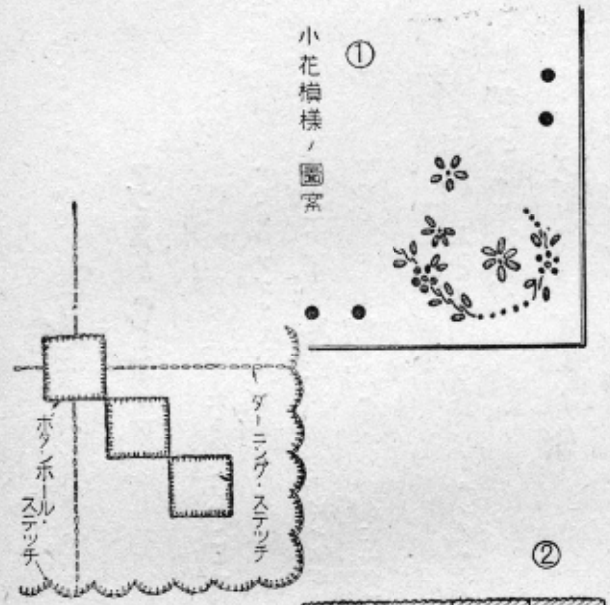
材料　用布二十七糎（七寸一分）角一枚、二十五番刺繍糸少々。

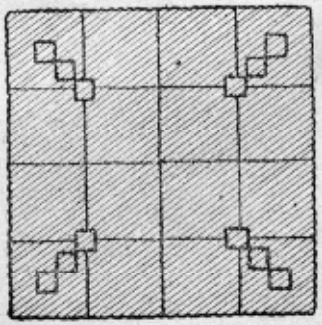
作り方　先づ圖案を用布に寫します。これは一つの角だけに模様をつけましたが、圖案の形やお好みで四方全部入れるとか、向ひ合せの二つの角だけ入れるとか、いろ〳〵に御工夫下さい。

刺し方は非常に簡單です。兩脇に飛び出してゐる玉は赤の糸二本取でサテン・ステッチをいたします。花瓣の葉と莖は綠色の糸一本で、葉はレジー・デージー・ステッチ、莖はアウトライン・ステッチをいたします。花瓣の中の花は全部フレンチ・ナッツで、蕾は淡紅色、開花は青で刺し、芯は赤を入れます。

環の外の大きな花は全開は青、半びらきは淡紅色で、いづれもレジー・デージー・ステッチを用ひます。芯はみなフレンチ・ナッツを赤で刺しておきます。絲以外の色の糸は全部二本取りにします。

緣かゞりは、周圍の糸を拔いて、ヘム・ステッチにすれば一番結構ですが、細い三つ折





出来上り

にしてミシンをかけても、又は細く撚り紐にしてもよろしうございます。

アプリケのハンカチーフ

これも持合せの洋服地の殘りを使つたものです。こゝでは幾何模様のものを發表しましたが、花でも動物でも、アプリケして下さい。

材料　水色ボイル二十一糎（五寸五分）四角、ピンクボイル少々、白二十五番刺繍糸。

作り方　ピンクのボイルは一糎九粍（四分）の角に一角三枚づつ、全部で十二枚切つておきます。

先づ全體に白の線を入れますが、これはダーニング・ステッチを縦横とも三本づついたします。糸はどの刺繍も二本取りにします。

次にピンクのアプリケ布を、圖のやうな位置におき、輕くしつけをしてとめます。その周圍をボタンホール・ステッチで、しつかりとかゞりつけます。

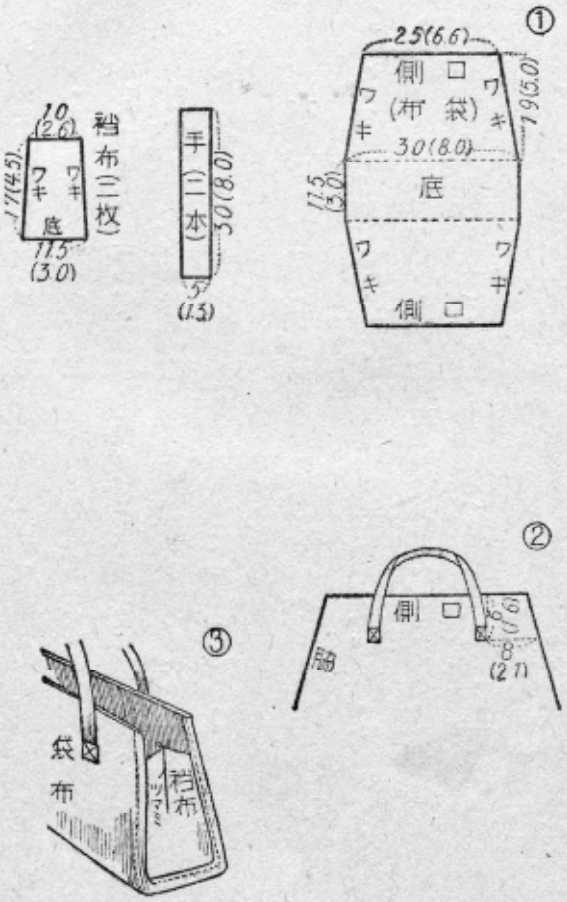
最後にハンカチーフの周りをスカラツプ形にし、それに沿うて、なるべく針足を短くしたボタンホール・ステッチで、きつちりと縫ひ上げると出來上ります。

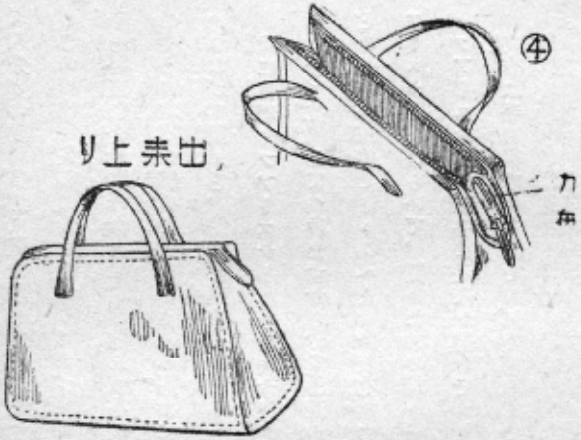
この他、小さい布を二つ、三つ、或は四つに接ぎ合せて、接ぎ目に刺繍を配へば、スマートなものが出來上りますし、洋服用の飾りレースを一角にとぢつけたり、細く廻りにつけたりしてもよろしうございます。皆さまでいろ〳〵御工夫遊ばして下さい。

海水袋にもなるピクニック用のバッグ

ピクニックの時のお辨當入れに、こんな氣の利いた袋が簡單に出來ます。裏に防水した布をつければ、水泳にいらつしやる時の海水袋にもなります。こゝでは袋の作り方だけを說明いたしましたが、刺繍や、アプリケなどで模樣をつけますと、一層可愛らしいものとなります。

材料　表用布巾五十三糎（一尺四寸）丈五十五糎（一尺四寸五分）裏用布四十九糎（一





尺三寸）四角、フアースナー。

裁ち方　（1）圖のやうな寸法に、表布を裁ちます。縫代はいづれも二糎（五分）づつつけて下さい。裏布は表と同じく袋布と裕布を裁ちますが、縫代分だけ控へます。

作り方　手の布を袋に縫つておき、（2）圖のやうな位置に、袋布の口許へのせて、しつかりと縫ひつけておきます。

裕布は裏表の布を外表に合せ、表布の上方の縫代を一糎（三分）巾上りの三つ折にして表布にまつりつけます。この上部は巾の中央の所で、八粍（二分）位つまみ、上から三糎

（八分）の間で自然に縫ひ消しておきます。

この襠布を袋布につけませう。先づ表の袋布の脇縫代を一糎（三分）の三つ折にし、裏布と外表に合せておきます。襠布と袋布の底を、外表に揃へて脇を合せましたら、（3）圖のやうに表布の縫代で襠布をくるみ附けにいたします。底の兩角は丸味をつけて、表布をいれながら縫ふと、綺麗に出來ます。

次に口明のファースナーをつけます。これは口を廣く開かせるために、口の巾より三糎（八分）位出してつけますから、（4）圖のやうに力布を挾み、端から七糎（一寸九分）ほどを斜布の玉緣でとゝのへます。表布の口の縫代をやはり一糎（三分）の三つ折にし、ファースナーをひらいて、開いた方の端を一糎五粍（四分）ほど揃へて兩側を縫ひつけます。

ファースナーの引手に毛糸か何かでつまみ紐をつけると出來上ります。

表布は毛織物でも人絹でも何でも結構ですが、裏布はなるべく地の厚いしつかりした物を用意します。裏表とも薄地の場合は、間に芯布を一枚入れて仕立てますと大丈夫です。

兎さんを刺繍したクッション

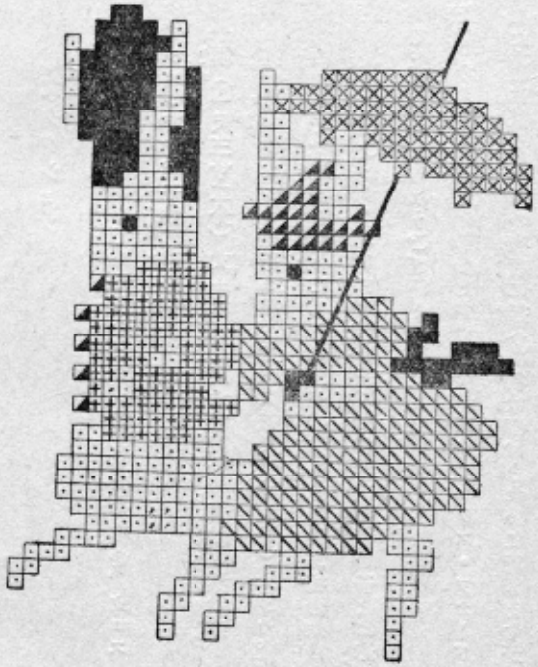
軍服に身をかためたピヨン吉と、日傘をさしてお得意なピヨン子のお散歩姿を、クロスステッチで刺した可愛いクッションです。子供部屋の椅子を飾つて下さい。

材料　鼠色ボプリン巾五十糎（一尺三寸二分）丈一米（一尺六寸四分）刺繍糸紫、赤、黄、橙、桃色、白、青、茶、黒、クッション用コード二米（五尺二寸八分）バンヤ。

作り方　これを兎の身體が白なので、地布を鼠色にしましたが、他の色を使ふ場合は白が目立つて綺麗に出る程度の淡色を用ひます。コードは男の子用なら青、女のお子には赤を使ひ、姉弟お揃ひに作つて上げてもよろしうございませう。

先づ用布の半分、即ち表側になる方に下繪を寫します。これが麻やオックス・フォードのやうな布目のはつきりした布なら、クロスを布目に揃へて行けば、きれいに行きますがさうでない場合にはよほどうまく針目を揃へないと、上りがよく見えませんから、御注意





出来上り



願ひます。

刺繍は圖案をよくみて、ステッチの數を間違ひのないやうに刺して行けば、可愛らしい形がだん〳〵に浮いて來ます。

全體のクロス・ステッチが終りましたら、傘の柄を茶色でアウトライン・ステッチ・ヒゲを黒で綿縫ひして入れます。

刺繍がすつかりすみましたら、クッションに仕立てます。用布を袋に縫つて、パンヤを適當に入れ、周圍にコードをとぢつけると出來上ります。角々は飾りといたします。

子供服を引立てる手藝的な飾り

洋服でもエプロンでも、子供のものは、形そのものはごく簡單なデザインにして、それにアプリケや刺繍などで可愛らしい感じを添へると、非常に好ましいものが出來ます。御參考までに、いろ〳〵な圖案を挿入いたしましたから、それ〴〵工夫して見て下さい。これは古いものを更生させた時など、一際引立てる役をいたしますから、是非お母さま方に心得てゐていたゞきたいと思ひます。

(1)圖は洋服の裾やベルトにふさはしい連續模樣です。山形はアウトライン・ステッチ丸はフラット・ステッチで縫ひつぶし、花は一本づつの線縫ひにします。夏ならラフィヤなどを應用しても面白く、冬なら毛糸刺繍にすると又變つた味が出ます。

(2)圖は同じく連續模樣の一部ですが裾やベルトの他、首飾り、ボレロの縁など應用の場所は澤山ありませう。紺地に白、ピンク地に黒など、色鮮やかな一色を使ひます。アウトライン・ステッチで刺繍してもよく、細いコードを綴ぢつけて行つても、面白いものが出來ます。

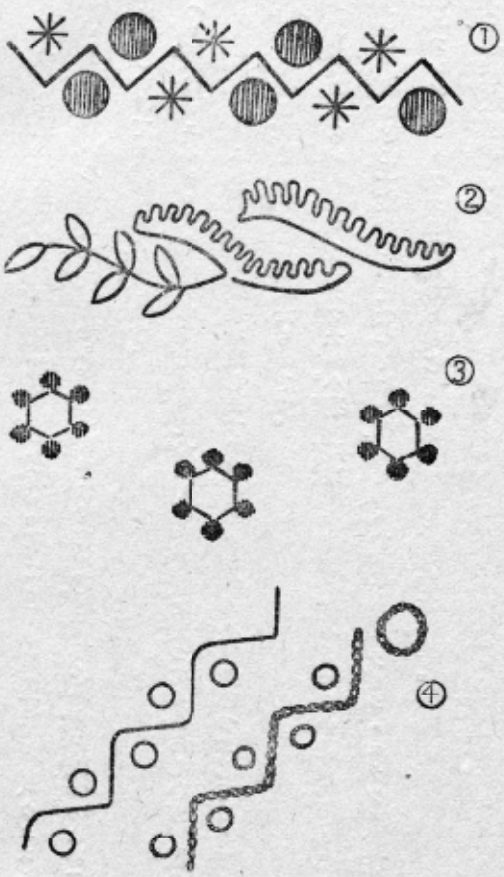
(3)圖は花模樣、花瓣はフラット・ステッチの丸、芯はダーニング・ステッチで六角に縫ひます。使途は前述の外、衿全部を埋めるとか肩の邊りにヨーク風に刺すとか、ウエストに散らすとか、いろ〳〵ございませう。色も單色にせず、芯と花瓣を地色と配合のよい二色に使ひわけても結構だと思ひます。

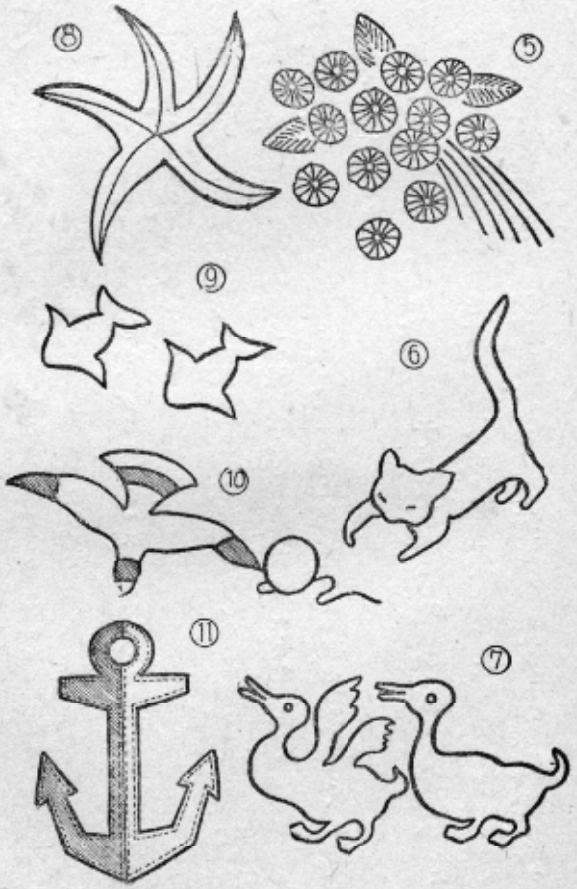
(4)圖はチエイン・ステッチの線と丸を配つたもの。眞直に使つてもよろしいが、圖のやうな方向に使ふと絣め繩の效果を出します。袖とポケットを全部縫ひつぶして、身頃だけ無地なんて洋服も中々しやれたものです。

(5)圖はボタンホール・ステッチの小菊の花束です。赤や青や白や紫や花を色とり〳〵にして、胸などに一束おつけになつては如何でせう。莖はアウトライン・ステッチ、花の芯はフレンチ・ナツツ、葉は花と同じくボタンホールで仕上げます。

(6)以下は全部アプリケの圖案です。ポケットや胸につけて上げて下さい。

(6)圖は毬にじやれてゐる猫。


①
②
③
④


⑧
⑤
⑨
⑥
⑩
⑪
⑦

(7)圖はアヒルのひよこですが、二羽でなく裾のぐるりにアヒルの行列をつけて上げたら、きつと、お子様は大喜びなさるに違ひありません。

(8)圖は人手。筋はアウトラインか、ダーニング・ステッチで入れます。波の線でも配らつたら、朝の濱邊の感じが出ませう。

(9)圖は金魚。これは小さいものを澤山つける方が可愛らしくなります。洋服の端り布を組合せて、格子縞や花模様の金魚が泳いだらとても面白い洋服になります。

(10)圖はかもめ。圖のやうに羽と首と尻尾の先に少し濃い目の布をつけますと、一層かもめらしくなつて參ります。

(11)圖のいさましい海軍の印の錨は、男の子にも女の子にも歡迎されませう。單色でもよいが、圖のやうに半分づつ別の色を使つても、中々氣の利いたものになります。

以上ほんの一例を示しただけですから、いろ〳〵工夫して、お子さまの服に可愛い飾りをつけて上げて下さい。

六歳のお子様へ

涼しげなレースのハンカチーフ入れ

レース編でこんな美しいハンカチーフ入れが出來ます。これは外出用に使つて、ハンカチーフや紙などを入れて持つて歩いても結構です。夏は殊に涼しさうに見えます。實物は白で編みましたが、赤や青や色糸でお作りになつても綺麗です。

材料　白レース糸又は三十番の新カタン糸一卷、レース用鈎針。

編み方　始め丸く輪にして口から底へ向つて編み、ぐる〳〵袋を編みます。被せと紐は後から編みます。

先づ鎖を百二十六編んで輪にします。二段目は鎖三つして前段の鎖一目へ一つづつ長編

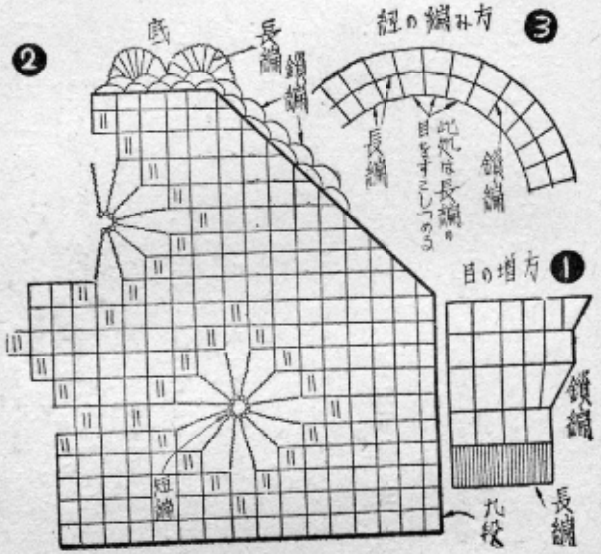
レースのハンカチケース

出來上り圖



をして一廻りします。三段目は、二段目からのうつり目に鎖三つとつゞいて二つ、都合五つの鎖を編んで、二段の長編の目二つとばして三つ目に長編を入れます。次から鎖二つしては二目とばして長編を繰返して、一廻りいたします。

四段目は三段と同じですが、初めと終りで、裏側の初めと終りで、一廻りすめと終りで増し目をします。増し目は表側の初めと終り、る間に四つだけ増すこととなります。この増し目は一段おきに三回いたします。つまり五段目七段目は三段と同じ。六段、八段は四段と同じく増し目をして、袋が口より廣くなつて參ります。



九段目から模樣を入れます。模樣は(2)圖のやうに花菱を片側に三つ入れるのです。

三つ目の模樣の二段目から、左右の端で一段づつ圖のやうに減じて、袋の底をだん〳〵せばめて行きます。模樣を編み終つてから一段あんでとめますと、底に六糎（一寸六分）ほど孔のあいた袋が出來ます。

今度は上の被せを編みます。今編んだ袋の口の片側だけへ長編で

一段編み、二段目から袋の方と同じ方で、中央に花菱の模様を入れて編んで行きます。ここは輪ではありませんから、裏表にひき返して編むことになります。

次は飾りを編みます。飾は鎖五つを編んで短編でとめ、また鎖五つしては短編と、これを繰返します。底は二枚一緒に合せて編みます。二段しましたら、三段目は前段の鎖の輪の中で長編六つしては次の鎖の中へ短編でとめるのを繰返します。この上にピコットをつけます。

被せも同じ飾り編をして、釦をつけます。

ボタンは全部短編で、直徑八粍（二分）位の玉を作り、芯に脱脂綿を入れ、被せの模様の中央下へつけます。

紐は(3)圖のやうに全部鎖と長編で、袋の一方の端から編み始め、丁度よい長さになりましたら、他の一方でとめます。

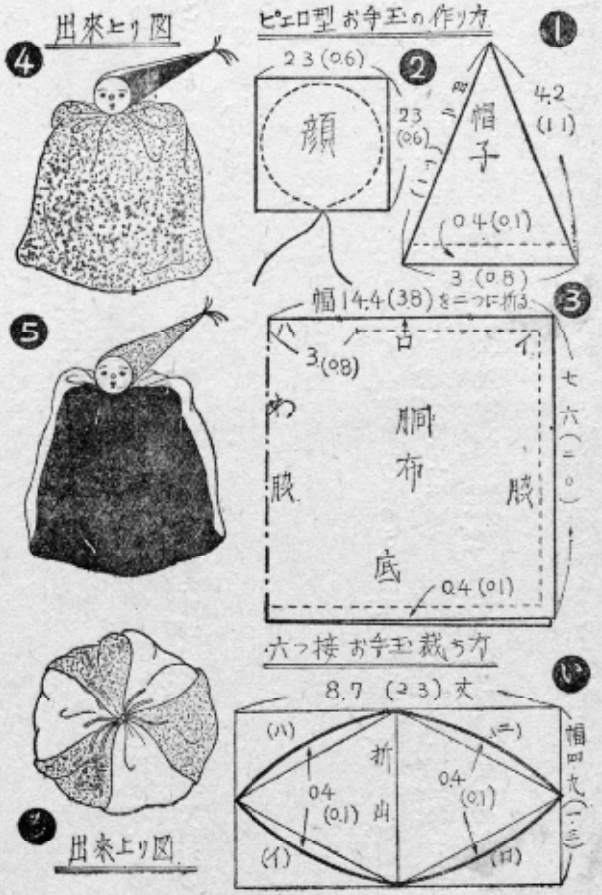
小布利用のお手玉三種の作り方

いろ〳〵な遊び道具が出來てゐても、女の子とお手玉は今でも離すことの出來ないものでございませう。三角や四角や六角や俵や種々な形がありますが、有合せの小布で出來る變り型のお手玉の作り方を御紹介申上げます。

ピエロ型お手玉

材料　布地や配色は有合せの小布の中から選びませう。お手玉一つ分の材料は、圖のやうに、帽子布巾三糎（八分）丈四糎（一寸一分）の三角形一枚、顏布一糎三粍（六分）角一枚、胴布巾十四糎五粍（三寸八分）丈七糎五粍（二寸）を一枚、小豆一握り。これを五つ分用意します。

作り方　縫代は三粍（一分）で、帽子は巾の側を裏へ折り、丈二つ折にして、筒形に縫



ひます。

顔は圓の點線通りに丸く縫ひ、大豆粒位に綿を入れて、丸く絞り、帽子の口へ恰好よく挿し込んでとぢつけると頭が出來ますから、墨で目と口を描き、帽子の尖へ糸で總てを結びつけます。

胴は巾二つ折りにして、表へ返す分を片方で三糎（八分）殘して、他の周圍を點線通りに縫ひ、引返して小豆を入れ、口を紐けます。そして（イ）（ハ）の兩隅を眞中の（ロ）へ折つてとぢつけ、その糸で、顔の下方を恰好よくとぢつけます。すると（4）のやうに出來上ります。

（5）は胴を片側づつ色變りにしたものです。

六つ接ぎのお手玉

材料　これはもつと小さい布をよせ集めて作れます。巾五糎（一寸三分）丈九糎（二寸

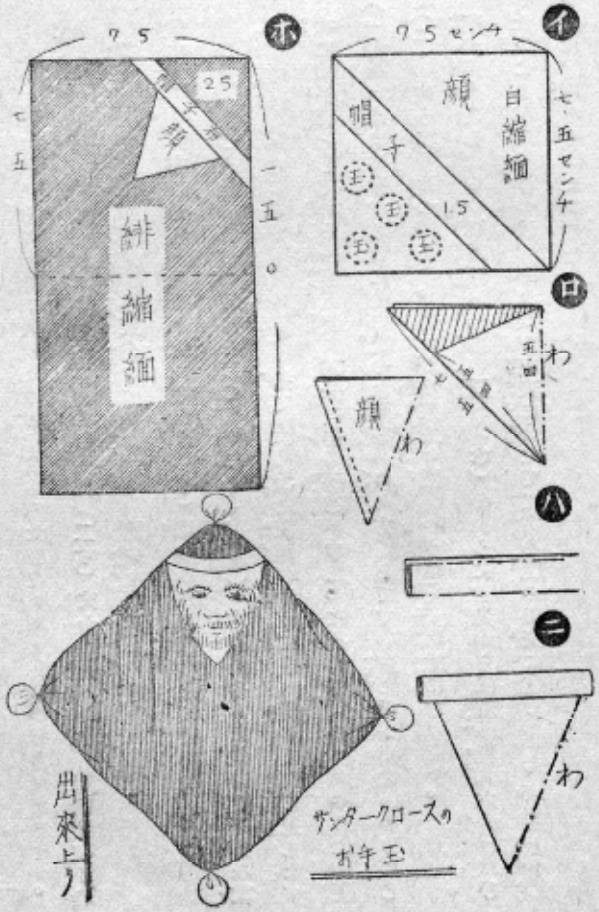
四分）の布を圖の太糸通りの菱形に裁つてこの菱布をお手玉一つに六枚と、一握りの小豆、これを五つ分揃へます。六枚の菱布は出來上り圖のやうに半々の色變りを交互につけてもよく、全部ちがふ色や柄の布を使つても結構です。

作り方　(い)圖のやうに裁つた六枚の布を一枚づつの色變りに二枚づつ合せ、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)と各側を接いでしまひます。小豆を入れる口を少し明けておき、表に返して、小豆を入れて口を絎けます。

これを圖の折山通りに折ると、(ろ)圖の形にできますから、二ケ所の中心を止めて、糸で總をつけます。これを五つ作りますが、片側の中心へ鈴を一つづつつけると可愛くなります。

サンタクロースのお手玉

これは四角型のお手玉ですが、サンタクロースの顏をつけ、全體を赤にしたので、可愛



いらしいものです。中に小鈴を入れますと、なさるたびにチリ〳〵鳴つて喜ばれませう。

材料　絣縮緬、紅絣、赤メリンス等巾七糎五粍（二寸）丈十五糎（四寸）白縮緬又は白絹七糎五粍（二寸）角、小豆少々。小鈴一ケ、綿少々（以上一個分の材料）

裁ち方　赤い布はそのままで、白い方だけ（イ）圖のやうに裁ちます。

縫ひ方　先づ三角に切つた顔布を二つ切りにして、（ロ）の右圖のやうに裁ち目の方を輪の方の寸法と同寸にして、餘分は切り捨てます。次に左圖のやうに袋に縫つて表に返します。次に帽子布としてある一糎五粍（四分）巾の斜布を巾二つに折つて（ハ）のやうに四粍（一分強）巾にくけ、これに先に縫つた顔布の口の方をあてて、表に針が出ないやうにして（ニ）のやうにくけつけます。これが出來上り圖のやうに帽子の緣になります。

顔が出來ましたら、絣縮緬の一方の隅へ（ホ）のやうに、角から二糎五粍（六分）はひつた所にあててくけつけ、それから中表に合せて二方を縫つて表に返します。小豆と小鈴を入れ、口をくけます。

四隅につける小さい玉は、顔布、帽子布を取つた殘りから、徑一糎五粍（四分）位の丸い布を四つ取り、この廻りを細く縫ひ、中に綿をまるめて入れて糸をひきしめ、口をかがつたものを出來上り圖のやうにつけます。

サンタクロースのおぢいさんのやうな、鬚の生えたやさしい顔を畫くと出來上ります。これを五つつくつて一組といたします。

御飯がいつまでも暖い毛糸のお辨當袋

冬の間はお晝のおべん當が冷くなつて、誠に情ないものですが、こんな毛糸の袋を作つてごらんなさいませ。中々御飯がさめず、お子樣方に歡迎されます。これは黃色と黑で、二色のだんだら絹に編みましたが、色はお好みでよく、又無地にして、お子樣のお名前をふたの上に刺繍し、飾りになさつてもよろしうございます。

材料　並太毛糸黑と黃色各一オンス、スナップ一個、鉤針一本。



編み方　全部短編ばかりにし、底を丸く編み出して、三角の被せを作ります。横縞は三段毎に色をかへて行つて出します。

先づ鎖四十編み、鎖編の兩側に短編を一通りします。(イ)圖のやうに、兩端の角には短編を一目に三つ入れ、平らな所はそのまま編んで行きます。次の段には端の三目だけに二つづつ入れ、後は前段のやうにして、初めから五段まで編むと底が出來ます。

次からは增減なく、そのままで十糎（二寸六分）の深さになるまで編みますと、袋が出來上ります。

被せはそのまま糸を續けて、全體の半分の目數だけ編みます。三角になるやう、(ロ)圖のやうに、兩端で二目づつ減して行き、最後に目が三つ位になりましたら止めます。

被せの廻りに鎖三つのピコットを編んで飾りとし、被せの三角の

角と、袋のこれに合ふ所にスナップをつけて、出來上りといたします。

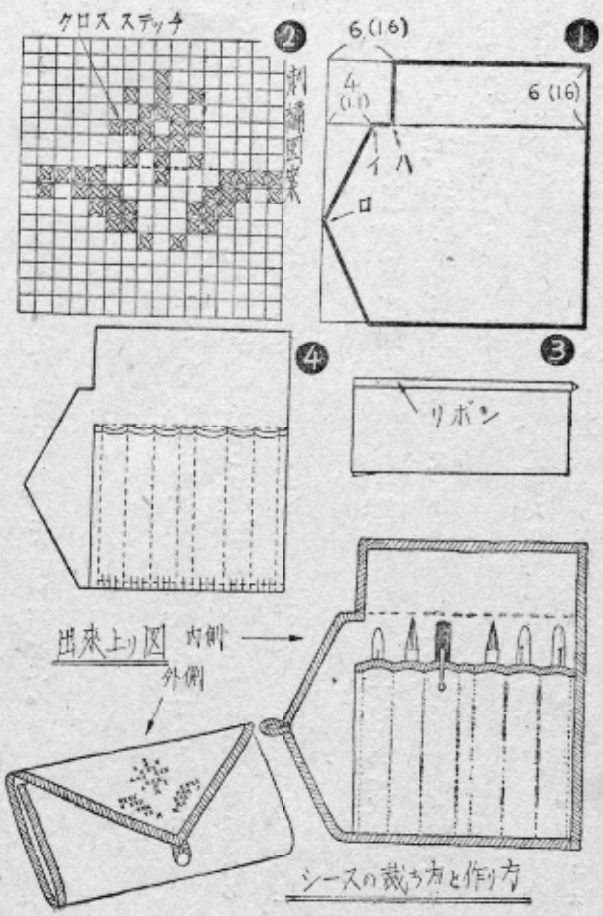
子供の喜ぶ筆差の作り方

革の筆差はどこでも賣つてゐますが、近頃は皮革製品が統制を受けてゐる時ではあり、美しい模様のついた自家製のものが、お子様には母の贈り物として喜ばれ、大切にされるものです。又知合ひのお子へ、新入學や進級のお祝ひに差上げても、大層喜ばれるものと思ひます。

材料　表用布二十一糎（五寸五分）角のもの一枚、裏用布表と同寸のもの一枚とかくし用巾十二糎（三寸二分）丈三十八糎（一尺）のもの一枚、表と同色又は配合のよい絲、布少々、刺繍糸少々。

裁ち方　表裏の用布を(1)圖のやうに切込みを入れます。

作り方　表用布の蓋となる部分へ、(2)圖のやうな刺繍を入れます。これは全部クロス



ステッチで女のお子なら、花は赤、莖と葉は綠、男のお子なら、花を黃色か水色で入れるとよいのです。

かくし布は(3)圖のやうに丈を二つに折り、巾の一方に斜布をつけてくるみます。これを(4)圖のやうに裏布の表につけます。鉛筆やナイフを入れるのですから、それ等がはひるやうに、かくし布は適當にゆるませてつけ、布丈が殘りましたら、裏布一ぱいに切つておくのです。

次に表裏の用布を外表に合せて、廻りに鉸をかけ、ぐるりを斜布で緣取りします。三角形の頂點には、羽織のちのやうなボタンかけを作り、表の適當な場所に、ボタンを一つつけてかけるやうに致します。

これで出來ましたから、鉛筆やナイフ、萬年筆、シャープ、ペンシルなどをそれ〳〵適當に入れ、出來上り圖の點線の所から一應內側に折り、次に袋布を二つに折つて、蓋をかぶせてボタンでとめます。

應用といたしまして、ラシャなどの少ししつかりした毛織物などで石筆入れを作るとよろしうございます。石筆はとても折れ易いものですけれど、このやうに一本づつくぎりをつけて入れておけば、その心配がありません。その場合には石筆の太さがはひる位に、一本づつのポケットの巾を小さくして下さいませ。

キャンバス刺繍の豪華なクッション

格子織になつたキャンバスに、色々な刺繍を施すと、非常に面白いものが出來上ります。ここでは毛糸で全部刺し埋めて、織物の絨毯のやうな感じを出した綺麗なクッションを作りました。夏向きには、普通の刺繍糸やラフィヤなどを使つてもよく、すつかり刺し埋めずに、孔のあいたキャンバス目を殘して透しにしておいても、涼しげでよいものです。材料のキャンバス地が手にはひらない場合は、カーテン用の細かい格子レースを應用なさるとよろしうございます。又絹刺に使ふ絹の布でも充分に間に合ひます。

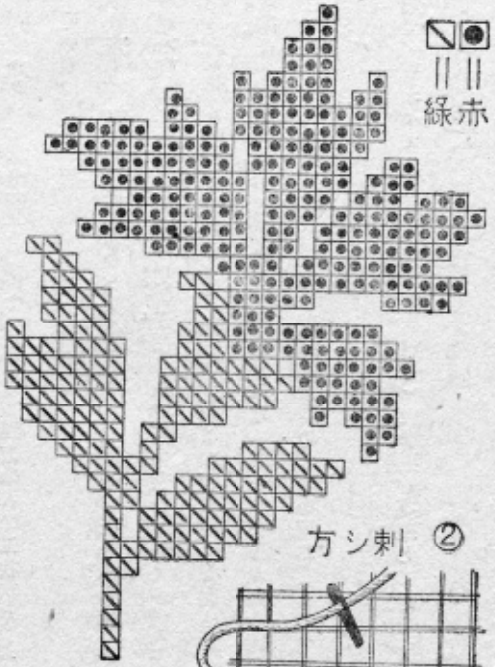
材料　キャンバス地四十六糎（一尺二寸）四方のもの二枚、バンヤ、毛糸鼠、赤、綠、毛糸針。

作り方　これは地を鼠で刺し、(1)のやうな圖案の花を少し肉色がゝつたきれいな赤、葉を綠で刺したものですが、男の子用には、花の色をブルーか黃色にするとよいのです。又花の色を所々違へて赤やピンク、黃色、ブルーなどとりゞゝのものにしても、花園のやうな豪華さを出すことが出來ます。配色はみなさまそれゞゝお好きな色を考へて下さい。毛糸はキャンバスの目がかくれる位の太さのものを選ぶことです。並太毛糸か、太めの中細位が一番適當でせう。

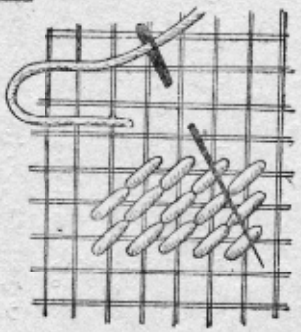
先づキャンバスの地に縫代二糎（五分）だけ廻りを殘して標をつけ、次に花の位置をきめて、その場所への圖案を寫します。

刺し方は(2)圖を御覽下さい。圖のやうに、キャンバスの一目一目を斜めに拾つて刺して行くだけの簡單なものです。

① 花ノ圖案



② 刺シ方



出来上リ



最初花から刺して行きます。花彎と葉や莖がすつかり刺せましたら、次の花を刺します。かうして花が全部出來ましたら、同じ方法で地を刺します。縫代の所は刺さずに殘したままにしておきます。

二枚共同じものが出來上りましたら、中表に合せて、縫代の白い所が出ないやう、刺した端をきち〳〵に縫ひ合せて袋に作り、中にパンヤを入れて普通のクツションのやうに仕立てます。これは全部が織物のやうな感じに上つてゐますから、コードなどで縁飾りをつけない方が、却つてすつきりといたします。

千草糸の夏向き手提袋二種

千草糸は夏向きで、すが〳〵しく、丈夫なものです。ここでは小型の手提二種の作り方をのせましたが、もつと大きくして、買物袋や海水袋になさつてもよろしうございます。

丸型手提袋

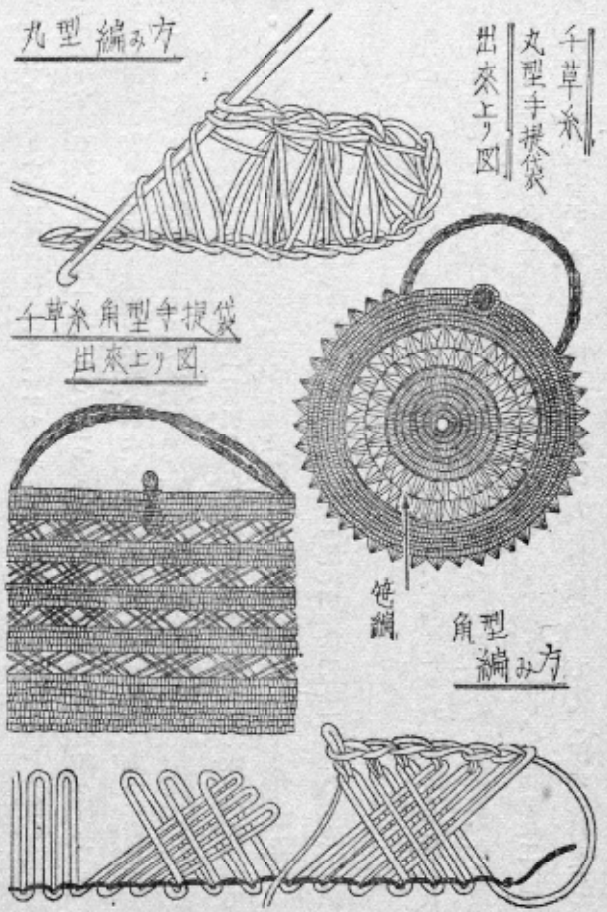
材料　赤千草糸一玉、金屬製鉤針一本。

編み方　千草糸は毛糸やレース糸よりは少し編みにくいものですが、太糸のときは濡れた布巾を用意して、千草糸をしごきながら編むと大丈夫です。細糸の時はそれほどでもありませんが、小皿に椿油を二、三滴たらしておいて、針先に時々つけて編みますと、大層編みよくなります。

先づ鎖四目作り、丸くしてその中へ短編を六つ入れます。二段目は一目に短編を二つづつ入れて廻ります。三段目は「一目に一つ、次の目に二つ」を繰返します。四段目は三段と同じです。五段目は「短編一つ、一つ、二つ」を繰返します。六段目は五段と同じです。

次の段から飾り編として筆編を二段入れます。筆編は二目の倍數に三を加へた目數が基本になりますから、鎖三つ編み、次の目より引出し、鎖の目のあるだけ二目引出すことになります。次にもう一つ短編の目を二目引く、都合四目を一度に引抜いて鎖一つ編むのです。次は今結んだ目の中から糸を引出し、筆の後側からも糸を引出し、次の短編二目から各々糸を引出して、針に五つの輪がかゝりましたら一度に引抜いて鎖一つ編みます。（圖參照）

これは平らな時の筆編ですが、この手提のやうな丸いものの時には、增し目をして行かねばなりません。それには前の筆の終りの目に次の筆の三つ目の針を入れて引出し、次の鎖の目から一つだけ引出して、筆を作つて行けばよいのです。平らな物では鎖の目に二つづつの輪を作るのですが、丸いものは、時々鎖一つしか作らないのです。この增し目を三つ



目毎にして、笹編を二段いたします。

後は再び短編をして、これで直徑が約十三糎五粍（三寸六分）になりましたら糸を切ります。同様のものをもう一枚編んでおきます。

外表にして二枚を合せ、周圍の三分の二だけ短編で編合せて行き、その上をピコットで飾ります。ピコットの編み方は、鎖三つ編んで元の目に短編でつけ、一目とばして短編を繰返します。

手は鎖六つを輪にして、丸く一目に一つづつの短編をあんでぐる〳〵廻ります。丈が二十三糎（六寸）位になりましたら止めて、前の三分の一のあいてゐる兩側にしつかりと綴ぢつけます。

最後にかけボタンを編みませう。ボタンは出來るだけきつちりとかたく編んで下さい。初め鎖三つ編み、丸くしてその中へ短編六つ入れます。次に一目に二つづつ入れて一周りし、次よりは一目に一つづつで二周り編みます。その中へ綿を入れ、後三段位で全部減ら

し切るやうに目をとばして編みます。

かける方は鎖十五位編み、一段引抜き編をして、ボタンの反對側につけます。これで出來上りました。

角型手提袋

材料　この袋は巾十九糎（五寸）丈十五糎（四寸）位のもので、一玉用ひます。この編み方で大きくすれば、買物袋にしても大變重寶です。買物袋の大きさになれば、糸は四、五倍かゝります。

編み方　始め六の倍數にして、必要な長さだけ編み、この鎖の廻りを短編で一目に一つづつ入れて、ぐる〳〵と六段編みます。

七段目に糸を五分位にのばして、一目に一つづつ入れて引出し、全部同じ長さにのばしておきます。のばし終りましたら、六つの目を三つづつ綾にして行きます。（圖參照）その通りに短編一つづつ入れて行き、次より短編を六段して又この綾編をします。このやうにして、綾編が四回出來ましたら、短編六段して糸を切ります。

かけボタンや手は丸型と同じですが、手は二本作つて、兩側に一本づつつけます。

お辨當袋にもなる幼稚園用のカバン

肩からぶら下げるやうに作つた幼稚園用のカバンです。かぶせ蓋にして紐で結び、蓋に鳩に豆をやつてゐる女の子の刺繍を入れました。これは蓋なしにして、上部をファースナーで開閉するやうに作つても結構です。

材料　無地のウール巾二十糎（五寸三分）丈三十六糎（丸寸五分）同肩紐用として巾三糎（八分）丈七十六糎（二尺）リボン少々、刺繍糸五番糸。

作り方　用布が地厚で裁ちつぱなしでもほつれないものならそのままでよろしいが、ほつれるものはこの寸法に折代一糎（三分）づつを加へただけ用意します。その場合にはそ

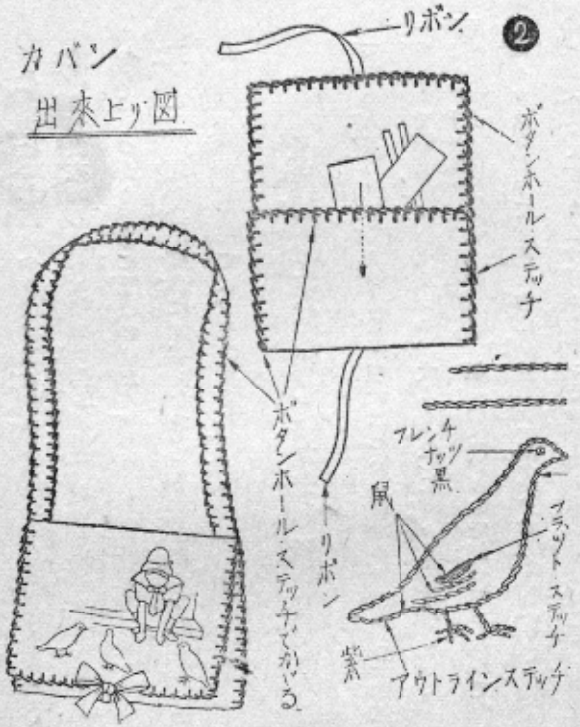
幼稚園用カバン刺繍図案



の分だけ裏に折つて、輕くしつけをかけておきます。

先づ全體を三つに折り、被せになる部分に（1）圖のやうな刺繍を入れます。色分けは圖をよく御參照下さい。刺し方は大體アウトライン・ステッチですが、髪

カバン出來上り図



の毛とネクタイ、鳩の羽根はフラット・ステッチ、靴はサテン・ステッチ、豆と鳩の目はフレンチ・ナッツで繍ひ取ります。

刺繍がすみましたら、縁縫ひをします。これは用布と共色の刺繍糸で蓋の方は一枚のま

ま、身の方は(2)圖のやうに、二枚重ねておいて、ボタンホール・ステッチでかゞります。袋の方が出來ましたら、紐の兩側も同樣にボタンホール・ステッチをして、出來上り圖のやうにしつかりと身に縫ひつけます。

最後に蓋の端と身の底側にリボンをつけて、結び合せるやうにいたします。

幼稚園を修業なさつても、そのままお辨當袋として使へます。

子供部屋にふさはしいカーテンの作り方

子供の部屋には子供獨特の雰圍氣がほしいものです。だから子供部屋のカーテンは實用一點張りで殺風景なキャラコや、大人と同じに重々しい布やレースを使ふことはよして、可愛い氣分を滿喫させるやうに、氣持のよいもので飾つてやらうではありませんか？　同じ白キャラコだつて、裾の方に一寸した刺繍やアプリケをすることで、見違へるほど情緒ゆたかなものになります。カーテンそのものの作り方は別に變りがありませんから、ここでは略しまして、子供らしい圖案の二つ三つを擧げて、皆さまの御參考に供したいと思ひます。

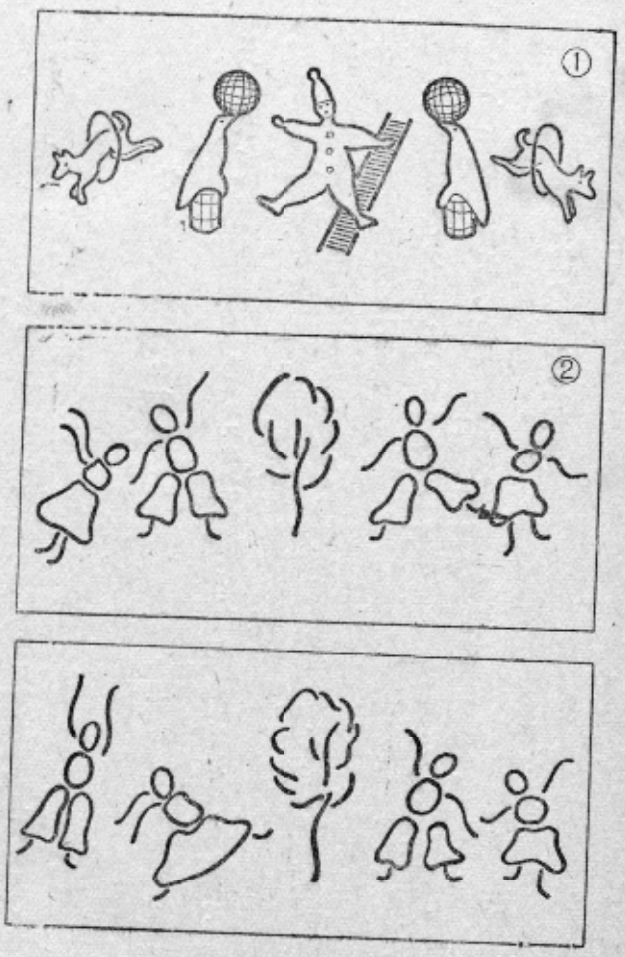
サーカス模樣の刺繍

なつかしいジンタの音と共に、サーカスはお子樣方にとつて魅力百パーセントの存在です。カーテンの裾にずつとサーカスの圖案を連續させては如何ですか。

輪をとび越える犬、玉ころがしのオツトセイ、梯子乘りのピエロなど、きつとお子樣から大喝采を浴びせられることでせう。

刺し方は全部アウトライン・ステッチにして、犬とピエロの洋服だけ、後から不規則に縫ひつぶして行くだけです。色彩りは子供らしい明るい色をお用ひ下さい。

黒ん坊のダンス模樣



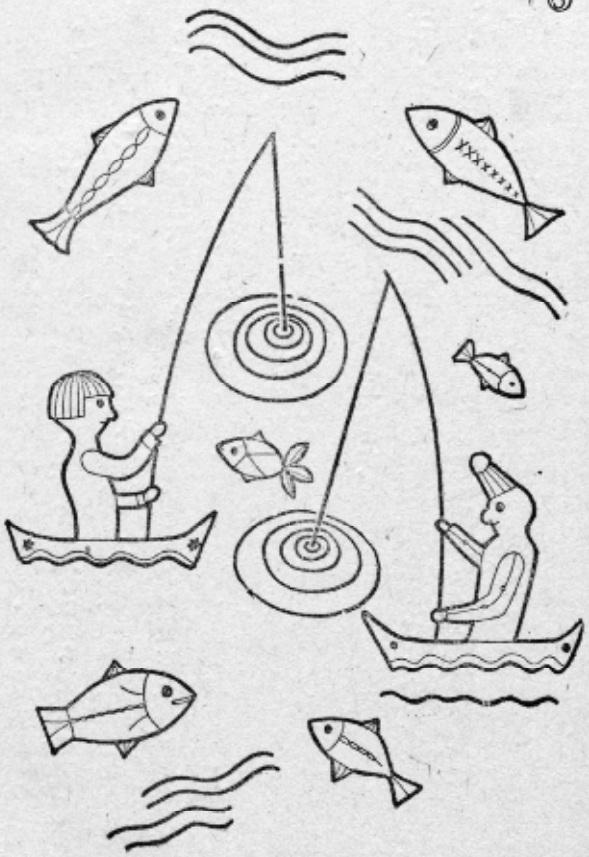
青い木立の間でダンスをする黒ん坊の群、これもアウトライン・ステッチだけの方が效果的です。黒ん坊と斷り書がしてあるのですから、頭と手足だけは必らず黒の糸で刺します。洋服は女子をピンク、男の子をブルーにしては如何？　綠の木といゝ對照になりませう。踊りのポーズも考へれば、もつと澤山出來ませう。こんな圖案はなるべく規則的でなく、稚拙の面白味をねらひたいものです。

釣する子供の刺繍

これもアウトライン・ステッチだけで仕上げます。

兩端に釣をする子供を二人向ひ合せに刺し、その間に大小さまゞゝなお魚を澤山浮かせるのです。所々に波の圖案を入れたり、空にかもめを飛ばせたり、お魚の形を考へるだけでも、作るお母さまの方がうんと樂しめます。刺繍だけでなく、アプリケを應用しても面白いものが出來上りませう。

③



涼しい夏向きのカーテンになります。

以上の外に「かちかち山」や「舌切り雀」「桃太郎」などのお伽話を圖案化しても、色々可愛らしいものが出來上りませう。

更にここに解說したのは、みんなカーテンの裾の方だけへ加工したものですが、お芝居の緞帳のやうに、カーテン一面に模樣をおいてもよいと思ひます。例へば「コドモノクニ」といつたやうなプランで、お家もあれば、木もある、空には小鳥が飛んでゐる、池には金魚が泳いでゐる、汽車が走つてもゐれば、飛行機の姿も見える、駈け出す子供がゐる、犬や猫、草花、太陽が慈愛の光をふりそゝいでゐるといつた風に、子供の世界のあらゆる事物、現象を圖案にして綴取るのです。どこかの隅の方に「コドモノクニ」といふ立札を刺すのも面白いことです。こんなカーテンがあれば、雨の日でもお家で樂しく遊べるでせうし、お母さまのお話の種もつきないと思ひます。要は頭の働かし方一つ、一寸した思ひつきが、すばらしい樂しみを作ります。

すつきりした草履袋二種

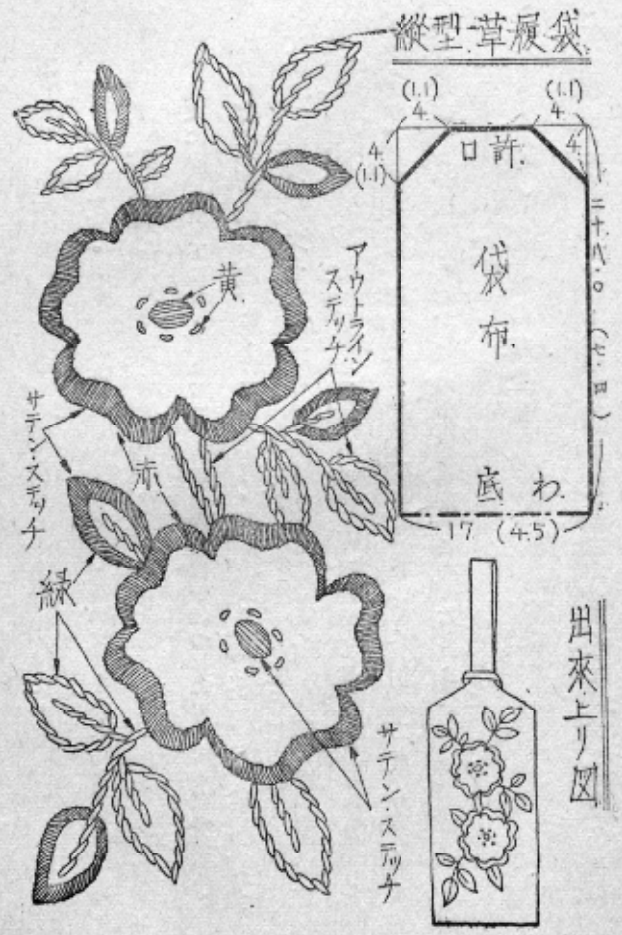
草履袋といふものは、毎日持つて歩く實用品ですから、用布を毛織や綿製品、麻など、しつかりしたものから選ぶことが大切です。ここではいづれも刺繍入りで、縦型のものと横型の二種を發表いたしました。

花模様の縦型袋

これは普通の縦型にし、花模様を配つた女の子向きです。

材料　用布巾二十二糎（五寸八分）丈五十七糎（一尺五寸）刺繍糸少々。

裁ち方　用布から丈三十四糎（九寸）巾六糎（一寸六分）の紐を一本取り、殘りの布を縦二つ折りにして、圖のやうに口許を切落しておきます。紐は二十七糎（七寸一分）のものを一本取り、殘りは口の止め紐に使ひます。

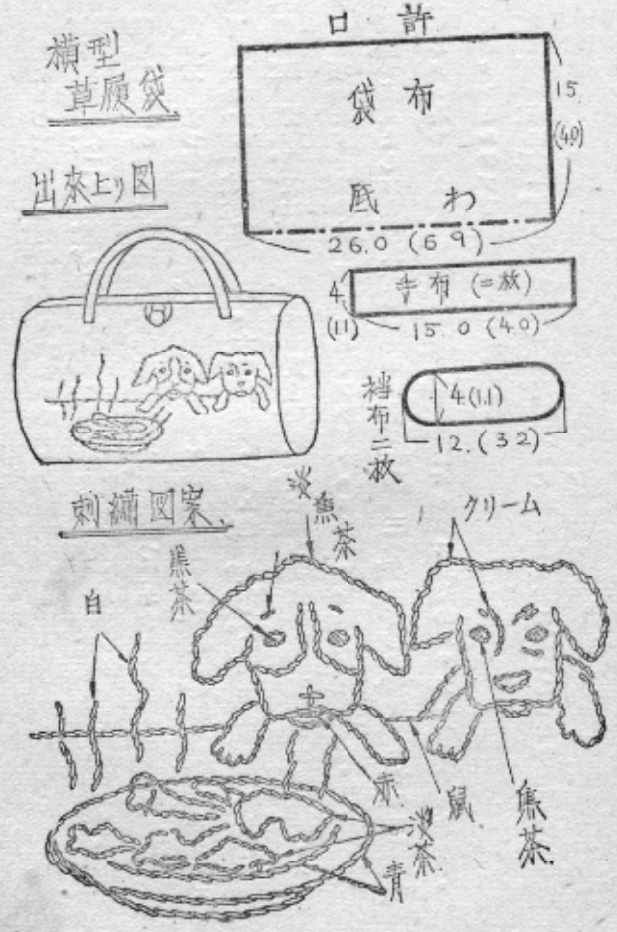


作り方　袋布の表側になる方に刺繍を入れますから、下絵をかいておきます。刺繍は花と葉がサテン・ステッチ、莖はアウトライン・ステッチをいたします。色は葉と莖が金部線、花は赤、花の芯は黄色で縫ひます。

刺繍が出來たら、仕立てにかゝりませう。口許は縫ひ目がほつれぬものなら二つ折、さうでなければ三つ折にして細かにくけておきます。手の布を二糎五粍（七分）上りの巾に縫つておき、眞二つに折つて、刺繍のついてゐる方の口許にしつかりと縫ひつけます。一方の口許には一糎（三分）巾上りの止め布を、出來上り圖のやうに横の輪になるか縫ひつけておきます。最後に兩脇を縫合せると出來上ります。使ふ時には手の方を、一方の輪に通して持てば、口が明きませんから、中の草履が落ちる心配なしです。

小犬模樣の横型袋

これは横に入れられるスマートな形です。刺繍は御馳走を貰ふ二匹の犬を刺した、圖案



配色共にさつぱりした男の子向きのものです。

材料　用布巾二十六糎（六寸九分）丈三十八糎（一尺）刺繍糸少々、ボタン一個。

裁ち方　圖のやうに袋布と、襠布二枚、手布二枚裁つておきます。

作り方　先づ表側になる方へ下絵をかき、刺繍をします。刺繍は全部アウトライン・ステッチですから、大變簡單です。右の犬はクリーム色、左の犬は淡い焦茶で、御臉走は淡茶、お皿は青、湯氣は白、臺の線は鼠色です。眼は兩方共焦茶で眼玉だけフラット・ステッチで埋めます。左の犬の舌も同じくフラット・ステッチを赤でいたします。

刺繍が出來ましたら、袋を縫ひます。先づ口許を三つ折絎にし、刺繍した方の口許の中央にボタンをつけます。反對側の同じ場所にはバイヤスか糸のルツプをつけておきます。このボタンとルツプで開閉をします。

次に手の布は巾一糎五粍（四分）の出來上りに袋に縫ひ、口許にしつかりと縫ひつけます。最後に袋布の脇に襠布をぐるりとつけると出來上ります。

七歳のお子様へ

ばらの花模様の通學用紙ばさみ

ボプリン地にきれいな薔薇の花を刺繍した紙ばさみです。お母さまがお作りになつたらどんなに喜ばれるかわかりません。これは女の子用ですが、刺繍を汽車か船のやうなものにすれば男のお子さまにも應用出來ませう。

材料　表用布クリーム色ボプリン巾三十八糎（一尺）丈五十五糎（一尺四寸五分）裏用布は表と同寸の物一枚を巾三十一糎（八寸二分）丈六十三糎（一尺六寸六分）のもの一枚、芯用厚い紙目紙又はボール紙巾二十二糎（五寸八分）丈三十一糎（八寸二分）のもの二枚、同巾十九糎（五寸）丈二十九糎（七寸六分）のもの二枚（内袋用）クリ

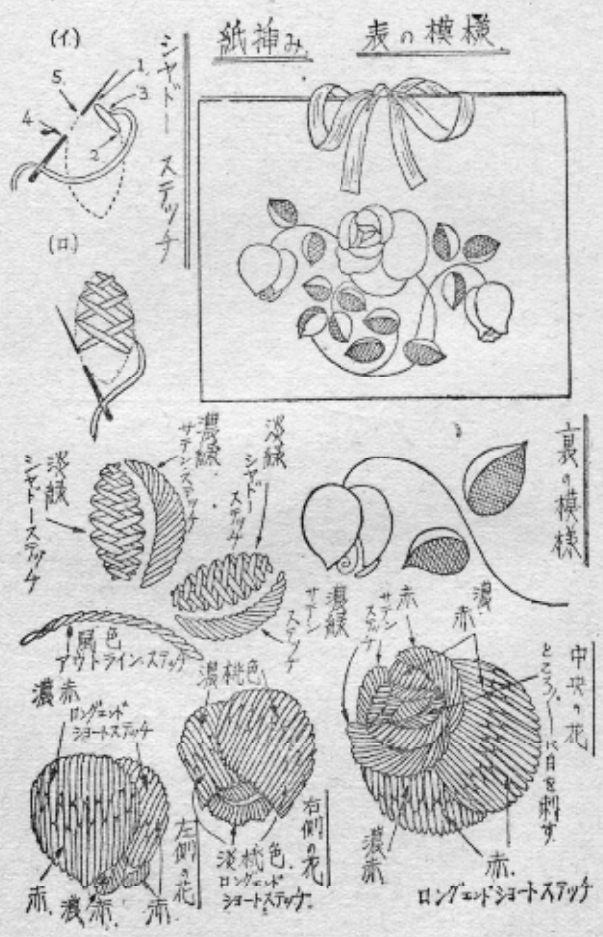
1ム色半吋巾リボン四十糎（一尺五分）刺繍糸太撚（五番）赤濃淡一把、桃色濃淡半把、緑濃淡一把、白、ねずみ色少々。

作り方　先づ表用布の巾の方から、巾五糎（一寸三分）丈二十一糎（五寸三分）の提手布を二枚取ります。これは二本とも、巾二糎（五分）上りに袋に縫つておきます。

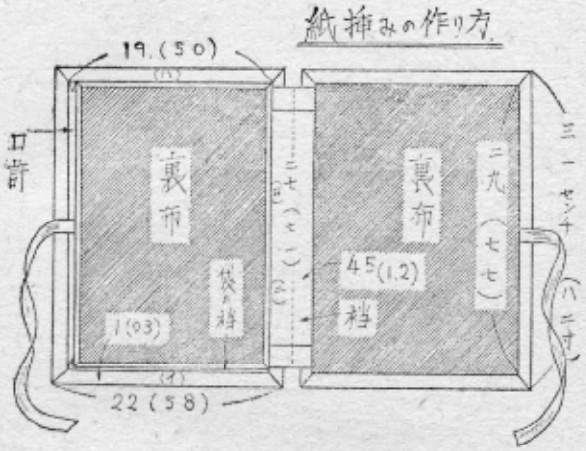
表用布は眞二つに二段に切り、各々に炭酸紙をはさんで下絵を描き、刺繍をします。これは兩面とも同じ柄でもよく一方は圖の裏の模様のやうに、小さいものでも結構です。

花はロングエンドショート・ステッチとサテン・ステッチの應用、葉は濃緑の方をサテン・ステッチに、淡緑の方はシヤドー・ステッチにいたします。花はあとから白を一部分入れて光りがあたつてゐる感じを出します。枝は太めのアウトライン・ステッチをします。色は圖を御參照下さい。

刺繍が出來たら、紙挟みに仕上げませう。先づ表用布を外側のボール紙に貼つて、四方を二糎（五分）位づつ折返して、内側にはります。この時提手をボール紙にしつかり縫ひ



紙挿みの作り方



つけておきます。

次に袋の襠を内袋のボール紙二枚の間に三枚にはりつけ（圖のイロハです）口元には五糎（一寸三分）ほどの巾の布を裏表にかゝるやうにはりつけておきます。

次に圖のやうな寸法の襠（ニ）を貼つて、二枚の表用布をつなぎます。

次に内側の袋になるボール紙に一面糊をつけて、一方の裏側にはります。袋がつく方のリボン（二本に切つておいた一本）はこの時この間に貼り込みます。

最後に裏布の四方を五粍（一分五厘）ほど揃へて折り、裏にべつたり貼りつけます。殘りのリボンはこの時つけます。

リボンを結んで、立派な手提の紙挟みが出來上りました。

矢管模様のレース花瓶敷

戰勝の象徴として、服飾品に流行してゐる矢羽根の模様を中央に、花を配つた美しい花瓶敷を編みませう。

材料　白レース糸一玉、ピンクレース糸一玉、草色レース糸少々。レース用鉤針。

編み方　初め白レース糸で二十六の鎖を編み、次の目より短編を一目に一つづつ入れて十二目まで編みます。（1）圖のやうに、十三目に短編三つ入れ、又次の目から一目に一つづつ短編を入れて、終りまで編みます。

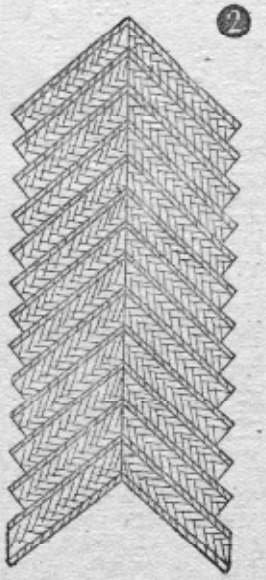
裏に返して鐙編をします。鐙編といふのは短編の應用で、短編の上に裏返して又短編を重ねて編む時、向ふ側の低い目をすくつて編む編み方で、表から見ますと、二段が一縞に

矢筈模様の花瓶敷作り方

❶



❷

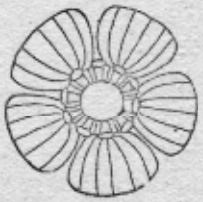


❹

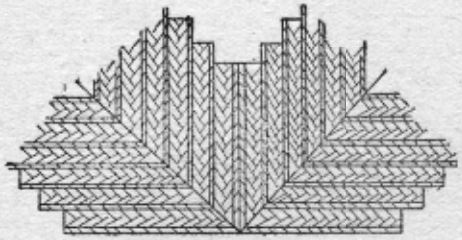
(イ)



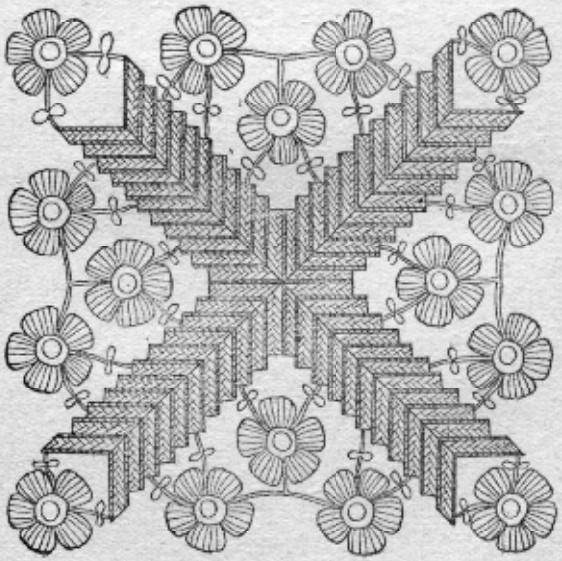
(ロ)



❸



出来上り図



なつて、矢羽根形に編めて行くのです。この段から後は、前段の三つの中央の目に三つの短編を入れて、他の目は全部一目に一つづつ短編を入れて、終り一目は殘して裏返し、次の段に移ります。これを繰返して二十六段編みますと、十三山出來ることになります(2圖)

これを四枚編み、各々の先の尖つた所を突合せにして、裏から引抜き編で編合せるのです(3圖)。かうして四枚が接ぎ合されましたら、次は花を編みます。

ピンクのレース糸で、(4)圖(イ)のやうに、初め鎖六つ編み、輪にして、その中へ短編を十目入れて、引きぬき止めにいたします。次に「鎖三つ編み、(ロ)圖のやうに、次の目に長々編を五つ入れ、鎖三つ編んで次の目に短編でつける」のを五回繰返しますと、一つの花が出來ますから、これを十六枚作つておきます。

花が全部出來上りましたら、出來上り圖のやうに前に用意しておいた草色の糸を、花瓣の低い所につけ鎖十を編み、五つ目にもどつて短編でつけますと、ピコットが一つ出來ます。叉鎖五つ編み、矢羽根の編み始めの所に短編でつけ、鎖五つ編んで、前のピコットの根元に短編でつけます。鎖五つ編んでピコット一つ作り、叉鎖五つ編み、初めに戻つて引きぬきで止めて糸を切ります。

次に花瓣を一つおいて糸をつけ前と同じやうに鎖十編み、戻つて五つ目に短編でつけてピコットを作ります。次に五つ鎖を編み、矢羽根の一方の端に短編でつけ、鎖五つ編み、前のピコットの根元に短編でつけて、叉鎖五つ編んでピコットを一つ作り、初めの花瓣に戻つて、引抜き止めにして糸を切ります。これを矢の端四ケ所につけます。

次は矢の內側三角の所に三つの花をつけます。花瓣の低い所に草色の糸をつけ、鎖十編み、後に戻つて五つ目に短編でつけます。五つ鎖を編み、矢羽根の三角に凹んだ所から三山目に短編でつけ、叉鎖五つを編み、前のピコットの中につけて、叉鎖五つを編んで、花瓣の編初めに戻つて、引きぬき止めにして糸を切ります。次に花瓣を一つおいて糸をつけ反對の側の三山目に前と同じ方法で付けるのです。

次は今の花の兩側に花をつけませう。別の花のひくい所に糸をつけて、前の花の付け方

と同じ方法で五山目につけます。次は花瓣一つおいて三山目につけるのです。これをもう片方の花もつけますと、三枚が離れ〳〵になつてゐますから、この三枚をT字形につなぎ合せます。

この方法は草色の糸で鎖七つ編み、中の花の上への二枚の花瓣の間に短編でつけ、七つ鎖を編み、鎖の編始めに短編でつけ、花の右の方の花瓣に短編でつけ、又鎖七つして、前に短編でつけたと同じ目に短編でつけます。次は左の方の花瓣に七つ鎖でつけて、七つ鎖で元の編み始めに戻ります。

編み終りましたら、裏から薄い糊を霧吹きし、アイロンをかけて仕上げます。

簡單に作れるピラミッド型銀貨入れ

印度更紗で作つたピラミッド型の銀貨入れで、二方に口をつけた變り型です。用布はし

つかりしたものであればなんでも出來ます。

材料　印度更紗巾九糎五粍（二寸五分）丈二十七糎（七寸一分）綠色ボプリン巾九糎七粍（二寸五分五厘）丈二十七糎五粍（七寸二分五厘）張子紙二十五番半枚、生半紙半枚、スナップ二組。

作り方　先づ張子紙で（1）圖のやうな表型紙を斜型にとり、裏型紙（2）は圖の寸法通りに裁つて、それ〴〵點線通り目打で折りの筋をつけておきます。

裏表の型紙が裁てましたら、表布（印度更紗）を型紙より六粍（一分五厘）まはり大きく裁ちますが、丈の方はそれよりも更に六粍（一分五厘）ほど大きく裁つておきます。裏布（綠色ボプリン）の方は裁型紙に合せて同寸に裁ちます。

裏表の布と型紙が出來ましたら、先づ表布の裏に張子紙を合せ、表布の周りをきつき大きくした六粍（一分五厘）だけ裏へ折返して、貼りつけます。この時表布の方は型紙より丈が六粍（一分五厘）餘計になつてゐますから、それだけのゆるみを（3）圖（イ）の折りの

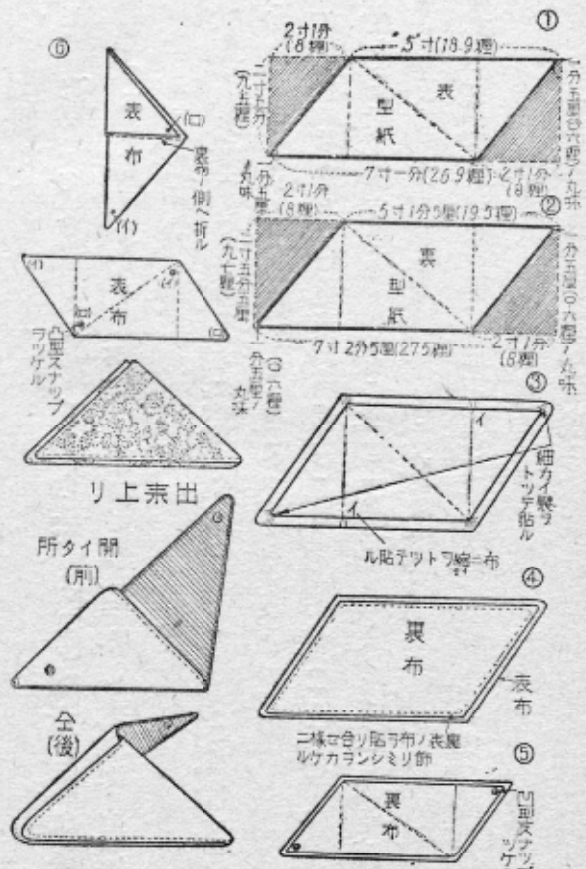
筋のある部分でくせをとつて貼ります。ここは後から折返しになりますので、かうしておかないと布がつつて折返せなくなるのです。尚兩角の丸味のところは、目打ちのやうなもので、布に細かい襞を取つておき、角立たないやうに形を整へて貼ります。

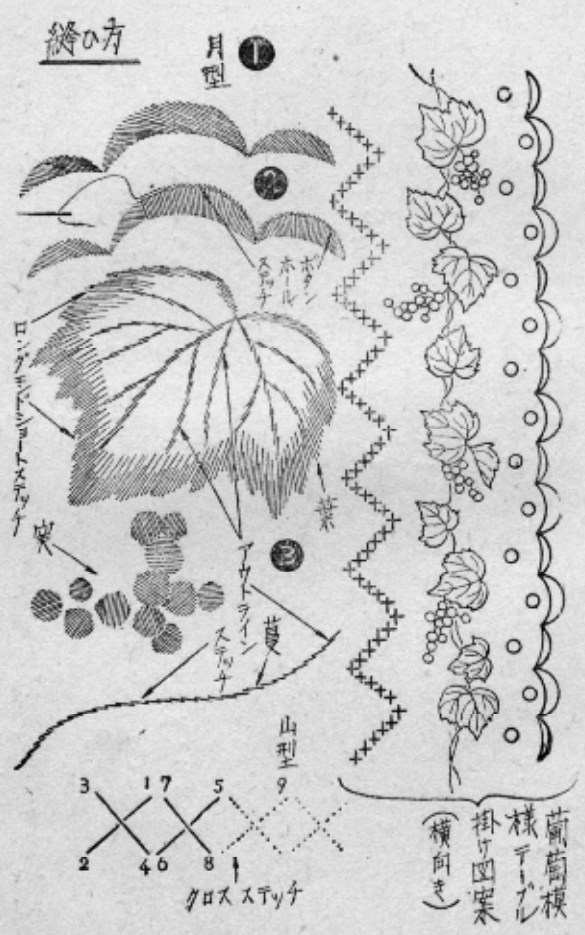
次に裏型紙の緣廻りに糊をつけて、裏布を貼り合せ、糊が乾いたら、緣廻りを三粍（一分）裏側へ折返します。兩角の丸味のところは切込みを入れて形をとゝのへます。

次に裏布の裏の緣廻りに糊をつけて、(4)圖のやうに表布の裏に心持ち捻へて貼合せ、糊が乾いてから、裏布の緣より二粍（五厘）ほど內側をぐるりと飾りミシンをかけます。

これで大體出來上りましたから、折り線のところを全部外表に折りをつけ、(5)圖のやうに裏側の兩端に凹形スナップを一つづつつけます。(6)圖のやうに折つて見て、表側には裏側の凹形スナップと見合つた位置に、凸形スナップを一つづつつけて出來上ります。

勉強机用のテーブルかけ二種





勉強机用のテーブルかけは、上に刺繍があつたりすると、かへつてごろ〳〵致しますから、周圍の垂れ下る部分にだけ模様を入れるとよろしうございます。こんな綺麗なテーブルかけをお母さまに作つていたゞいたら、お嬢さまも坊ちやんも、一層勉強がはかどることでせう。

葡萄模様のテーブルかけ

これは周圍にぐるりと、葡萄の連續模様をあしらつたものです。テーブルかけの寸法はお机によつて違ひますから、御宅のを計つて下さい。たれの部分は、十五糎（四寸）から二十糎（五寸三分）位が適當でせう。

材料　白キヤラコ地テーブルかけ一枚分、刺繍糸二十五番黒、綠、薄紫、水色各少々づつ。

刺し方　先づ下圖をまはりに描きましたら周圍のスカラップからいたしませう。黒の糸を二本取で、(1)のやうに斜に下縫ひしておき、その上を同じ糸で(2)のやうに

ボタンホール・ステッチをいたします。ここは後からこの形通りに切抜くのですが、御面倒なら、周圍を細い三つ折縫ひにしておくだけでかまひません。

次に葉を縫ひませう。緑を二本取にして、周圍をロングエンドショート・ステッチにし葉脈はアウトライン・ステッチで刺します。蔓も同じ糸でアウトライン・ステッチをいたします。

實は薄紫の糸を使ひ、二本取にして、(3)圖のやうに、色々の方向にフラット・ステッチで繡ひます。

下の山形は、水色の糸を三本取にして、クロス・ステッチをいたします。

周圍のスカラップのすぐ上にある丸は水色一本で、アイレット・ステッチをいたしますが、これもフラット・ステッチの丸になさつてもよろしうございます。

全體の刺繍が終りましたら、周圍を刺繍の際から山形に切り落し、裏からアイロンをかけて仕上げます。

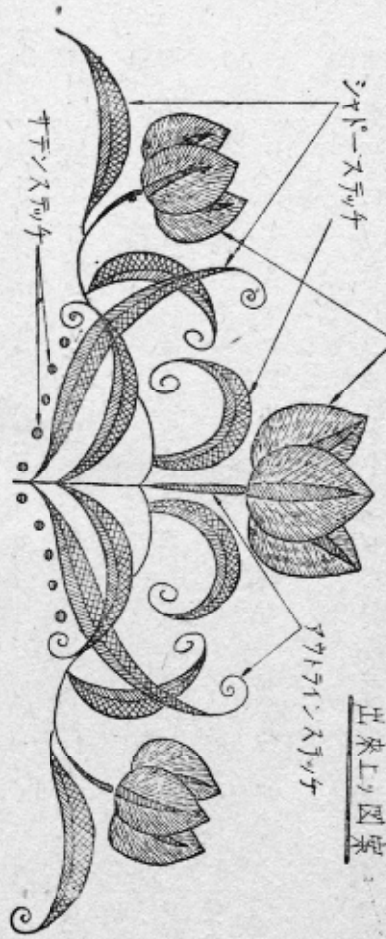
チューリップ模様のテーブルかけ

これはチューリップの花を圖案化した可愛い柄です。これは前のたれを二十五糎（六寸六分）ほどにして、前だけに刺繍を入れたものです。

材料　水色絹ボプリンテーブルかけ一枚分、刺繍糸五番淡茶、濃茶、濃ねずみ、黒、オレンヂ。

刺し方　先づ中央の花瓣から縫ひ始めませう。圖の如く、淡茶で周圍をロングエンドショート・ステッチで繡ひ、次に濃茶で同じ方法で刺して行きます。全體を四段位に分けてすつかり縫ひつぶします。中央の脈はオレンヂで、尖端から右斜めにフラット・ステッチをいたします。

葉は圖のやうに、初め下の方で黒で斜めにフラット・ステッチをし、上の方は濃ねずみで、尖端はアウトライン・ステッチではじめ、だん〳〵にシャドー・ステッチにして行き



チューリップ模様テーブル掛
上巻上ノ図参照

ます。莖は濃茶で針足を右方向に取り、アウトライン・ステッチをいたします。葉の下にある飾りの玉はオレンヂで、横にサテン・ステッチをいたします。周圍は細く三つ折紵にし、アイロンをかけて仕上げます。

この色彩はうんと濃くなつてゐますが、地味だとお思ひなら、花と紅の濃淡に、葉を綠の濃淡、花の蕊に黃色をお使ひになりますと、ぐつと派手になります。

洋服の氣分を變へるレースの衿三種

一枚の洋服でも衿をあれこれと變へるとで、かなり違つた感じが出せるものです。物資節約の折柄、お子様のお洋服にもかうした工夫をこらして下さいませ。ここには可愛いレース編のものを三種御紹介申し上げました。これは寸法さへ大きくすれば、大きいお嬢さまやお母さま自身のものにもなります。

花つなぎの衿

これは最初に花を八枚編み、後で編みつないで行つたものです。

材料 新カタン糸二十番一かせ、レース用鉤針一本。

編み方　先づ花を作りませう。一段目は鎖七つ編んで引抜き編で輪にします。二段目は鎖四つ編み、前段の輪の中へ長編を入れ、鎖一つしては長編を繰返します。始めの鎖四つを長編一つと數へて、二十二本の柱が出來ましたら、初めの鎖四つの中へ引抜きでとめます。

三段目は鎖五つ編み、(1)圖のやうに前段の長編と長編の間の鎖一つに、長編を入れます。これを繰返して、終りは始めの五つ鎖の三つ目に引抜きで止めます。

四段目は鎖四つ編み、次の鎖二つの中へ短編でとめます。この段は鎖四つ、短編一つを繰返して、終りは始めの鎖の二つ目に引抜きます。

五段目は、鎖六つ編み、前段の鎖の輪を一つとばして二つ目の鎖に短編でとめます。

六段は前段の鎖六つの中に短編を一つ入れ、次は長編を九つ入れ、短編の頭に短編でとめるのを繰返します。これで花形が一枚出來上りました。

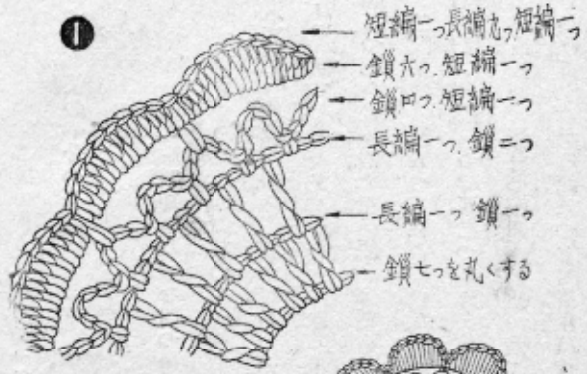
これと同じものを九枚作りますが、二枚目からは、(2)圖のやうに、終りの松編を一つ半殘しておき(3)圖のやうに始めの一枚の花瓣（長編九つ）の中程に針を通して、次の目を引出して後の半分の長編をします。次の花瓣も半分まで編んだら同樣に一枚目とつなぎ合せて編みます。

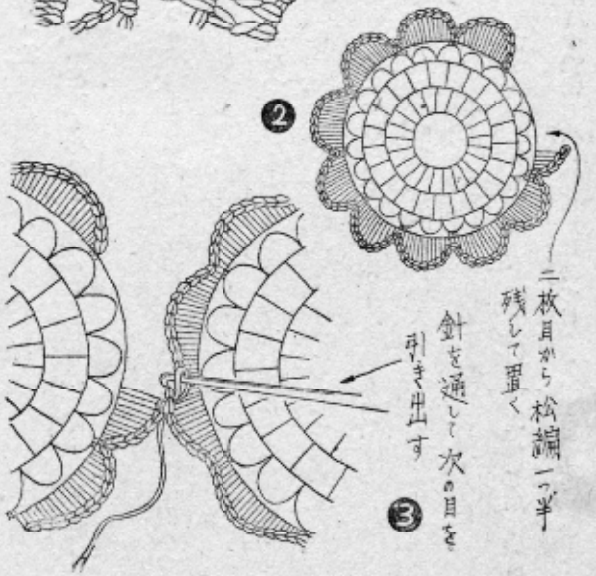
三枚目からは外側になる方を四つの花瓣とし、内側を三つにして、兩側二つづつ編みつけて行きます。これが九枚つなぎ合さりましたら、首廻りを編みます。

先づ第一段は内側の花瓣の始めに糸をつけ、(4)圖のやうに鎖五つ編み、次の花瓣の中央に短編でとめます。これを繰返して、次の花に移る時はその間が廣くなつてゐますから鎖五つ編み長々編で花の間の短編の中央につけ、五つ鎖を編んで次の花へ行きます。

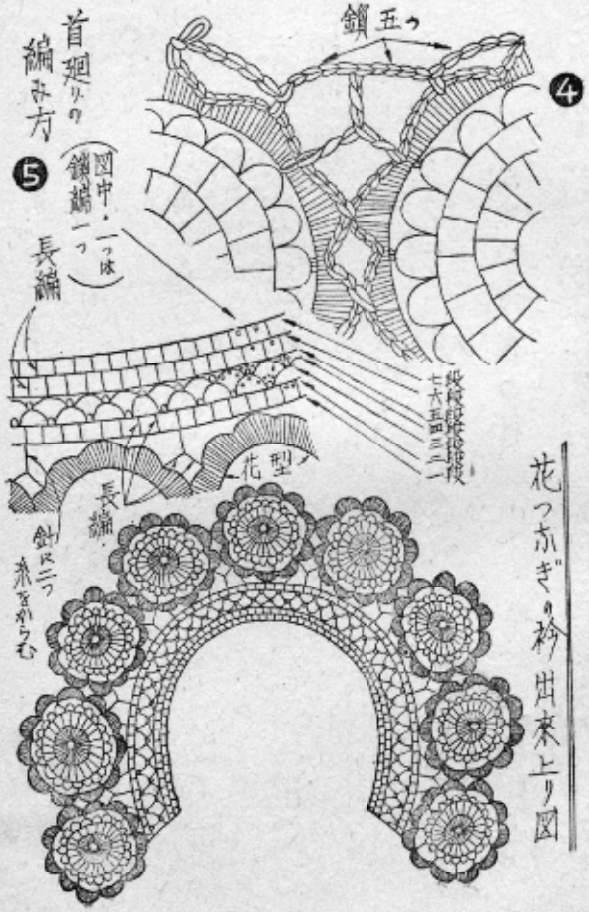
二段目は、鎖五つを編み、前段の鎖五つの中央に長編を一つ入れ、鎖二つ編んで次の短編の頭に長編一つ、鎖二つ編んで鎖五つの中央に長編一つを繰返します。（以下5圖）

三段目は、鎖三つ編み、前段の鎖二つの中に短編でつけ、三つ鎖を編んで同じ所に短編でつけます。次は鎖三つして長編二つ飛ばし次の鎖に短編でつけます。又鎖三つして同じ





首廻りの編み方



花つぶきの衿出来上り図

所に短編をつけるのを繰返します。

四段目は前段の鎖三つとばした所に三つ鎖を編んで短編でとめ、三段と同じ編み方を繰返します。

五段目は鎖四つ編み、前段の鎖三つの中央に短編でつけ、又鎖四つを編んでは一つ飛んで次の三つの鎖につけるのを繰返します。

六段目は鎖四つ編み、前段の鎖三つの中に長編一つ入れ、次からは前段の目を一つおきに拵目編して行きます。

七段目は六段と同じことを繰返します。

これで出來上りましたから、裏から薄糊の霧を吹き、アイロンをかけて仕上げます。

風車つなぎの衿

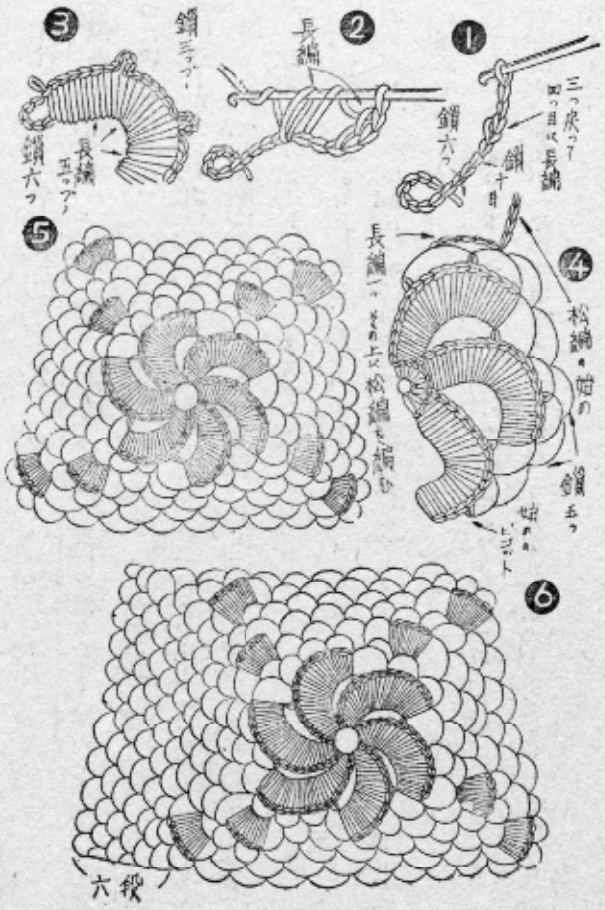
これは小さい風車形の模様を八枚接ぎ合せ、その周圍に飾り編をつけたものです。

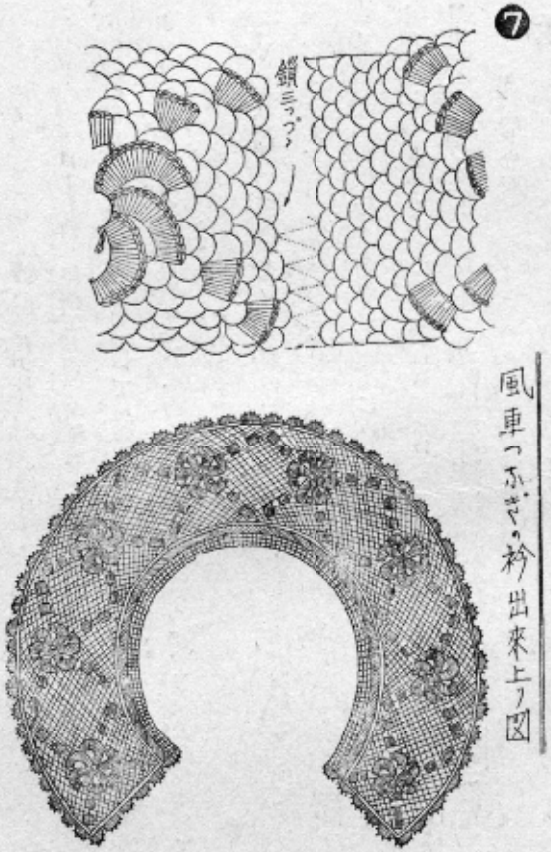
材料　新カタン糸三十番一玉の三分の一位、レース用鉤針一本。

編み方　先づ鎖六つ編んで輪にします。つづいて鎖十を編んで(1)圖のやうに、三つ戻つた四つ目に長編一つ、次は鎖をまくやうに長編四つ（2圖）を編みます。次に鎖三つ編み、鎖の根元の長編の頭に止めるやうに針を通して、一目抄ひ出し（この時針に二目かゝつたまま）次の長編に移り、又長編五つ、鎖三つのピコットを編み、次は長編五つを編んで、最初の輪の中に止めます。（3圖）

次に鎖七つ編んで裏に返し、前段の終りのピコットに短編で止め、鎖三つ、長編五つ、ピコット一つ、長編五つを二回編んで、最初の輪に止めます。かうして順次(4)圖のやうに編んで行きます。

このやうにピコットのついた長編の片を六つ編みます。最後の一片の二つ目のピコットを編む時、最初の一片の尖端をすくつて編み、又長編五つ編んで最初の輪に止めて糸を切ります。





風車つぶさ・衿出来上り図

切つた糸を(4)圖のやうに一片の初めの方のピコットにつけて、鎖五つ編み、次の長編の目を一つとばした所へ短編でとめ、又鎖五つして次の片の端にとめ、又鎖五つしてその片の初めのピコットに止め、つゞいて前の片のやうに一周しますと、鎖の網目が十八になります。この場合十八では都合が悪いので、十九にするために、最初糸をつけたピコットと、その片の端との間に一つ止めます。

次の段は四隅に松編を入れて、前のやうに波編で一周します。四隅といつても眞四角ではありませんから、十九の網目を四つ、七つ、四つ、四つに分けて、そこに松編を入れるのです。この松編は(4)圖のやうにはじめ、次の鎖の中に、鎖三つしてその前段の波編の中に長編七つを編みます。次の段は波編だけで一まはりしますが、長編七つの上は兩側と眞中を短編でつけてまはります。次の段は四隅に松編を入れる編方、最後に波編一周してとめます。(5參照)

同樣にして八枚同じものを編みますが、二枚目からは最初のと同じ所まで編んで、糸を

切らずに、(5)圖のやうに四角の一邊（巾の廣い方が衿の外まはりになるやうに）波編を六段編み、七段目を編む時に、(6)圖のやうに別の一片と鎖三つづつで編みとぢます。

以下全部同じやり方で八枚をつなぎ合せます。

次に內側は裏を見し、鎖三つしては長編一つを一段し、持かへて鎖三つしては長編四つを編んで、次の波編に短編でとめるのを一段します。次に鎖三つ編んで前段で四目づつ編んだ長編の初めの目に、短編で止める編み方を一段します。それから鎖二つと長編一つの編み方（拼目編）を三段して糸を止めます。

外廻りと左右も裏から鎖編五つと短編の波編を一段します。持替へて、表側からピコット付の松編を編むと出來上ります。

（前）の衿と同樣に仕上げして用ひます。

扇形つなぎの衿

長編を三角形に編んで、その間々へ松編を扇形にして入れた、非常に面白い編み方のネックレースです。

材料 新カタン糸三十番一線の三分の二、レース用鉤針一本。

編み方 先づ(1)圖のやうに鎖七つ編んで、編始めの目に長編三つ入れ、次に鎖二つして前と同じ目に長編三つ入れます。

二段目は持替へて、(2)圖のやうに編みます。以下各段共編始めは持替へます。

二段目は初め鎖六つ編んで、(3)圖のやうに編みます。以下八段まで偶數段は二段目の要領で、奇數段は三段目の要領で、一段に三目づつ增しながら、(4)圖のやうに三角形に編んで行きます。

九段目、十段目は(5)圖のやうに編みます。

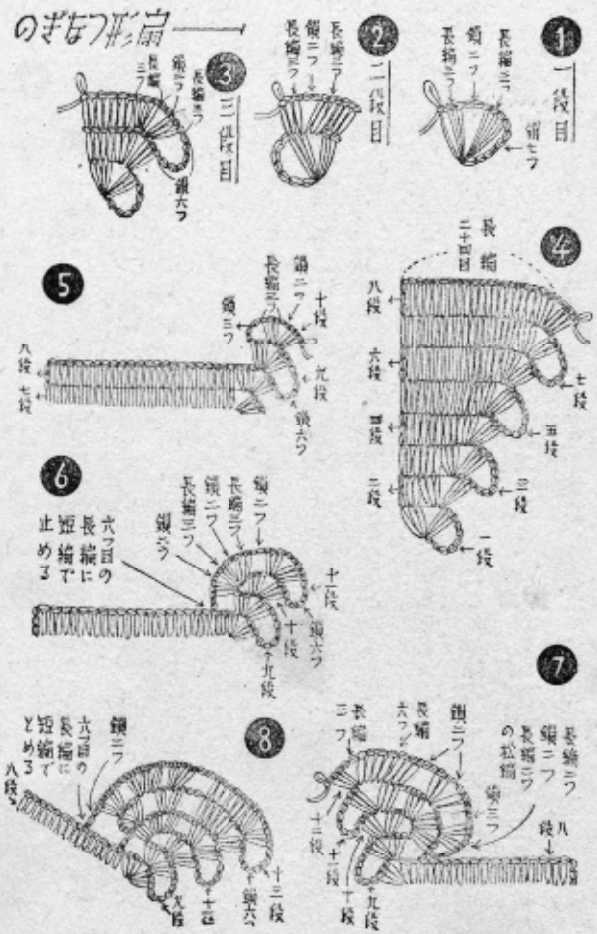
十一段目は(6)圖のやうに編んで、八段目の長編の右から六つ目に短編でとめます。

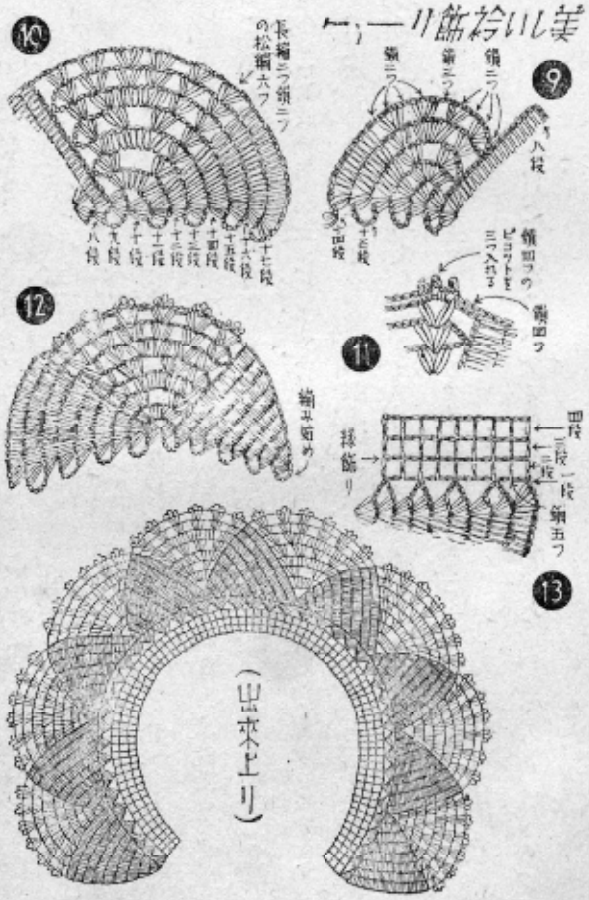
十二段は鎖二つ編んで、(7)圖のやうに編みますから、この段から又端の長編が三目づつ增して行きます。

十三段目は鎖六つ編み、前段の鎖二つの中に長編三つ、鎖二つ、長編三つ入れ、つゞいて前段の長編の上に一目づつ長編を入れて行き、次に鎖二つして、(8)圖のやうに編んで行きます。最後に鎖二つして、圖のやうに十一段目の短編をとめた目から六つ目の長編の頭に短編でとめます。

十四、十五、十六、十七の各段は(9)(10)圖のやうに編みます。

十八段は鎖四つ編んで、(11)圖のやうに松編の中に短編で止めます。次に鎖四つ編んで同じ目に短編で止め、又鎖四つして同じ目に短編でとめるといふ風に、松編の中に鎖四つのピコットを三つ作ります。次に又鎖四つ編んでは、次の松編に短編で止め、こゝでも又鎖四つのピコットを三つ作るといふ風に、(12)圖のやうにこれを繰返して、松編の上にピコットの飾りをつけましたら、つゞいて鎖を二つ編んで、次からは前段の長編の上に長編を一つづつ入れて行き、最後はやはり長編三、鎖二、長編三で終ります。


のぎなつ形扇
1 一段目
2 二段目
3 三段目
4
5
6
7
8


美しい飾りー
9
10
11
12
13
（出来上り）

これで一模様出來ましたから、以下九段から十八段までを繰返して、八回編みます。すると長編の三角形が九つ出來て、その間々に松編の扇形が八つはひることになります。

次は枠割廻りに緣編をします。先づ一段目は、終りの糸を切らずにそのまゝつゞけて、鎖五つ編み、(13)鎖のやうに地編の奇數段の初めに編んで鎖六つの中へ短編でとめ、又鎖五つ編んでは次の鎖六つの中に短編でとめるといふ風にこれを繰返して一段編みます。

二段は持替へて、鎖五つ編み、前段の鎖五つの中央の目に長編でとめ、次に鎖二つ編んで今度は前段の短編の上に、長編を入れるといふ風に、以上を繰返してこの段を終ります。

三段は持替へて鎖五つ編み、前段の長編の上に長編一つ、次から鎖二つ編んでは前段の長編の上に長編一つづつ入れて行きます。四段は三段と同樣に編みます。(以上13圖參照)

これですつかり出來上りましたから、仕上げをしてお着せ下さい。

壁かけにもなるベテイちやんの狀差し

戰地のお父さまからのお便りや、やさしい田舍のおぢいさまのお手紙など、可愛い狀差しに入れて上げて下さい。小さいお子でしたら、ハンケチや、折紙のお細工物などを入れるものにしても結構です。

材料 臺用赤色布二十四糎（六寸三分）角一枚と巾二十四糎丈十四糎（三寸七分）のもの一枚、臺用ボール紙二十二糎（五寸八分）角一枚と巾二十二糎四粍（五寸九分）丈十二糎（三寸二分）のもの一枚、裏用千代紙二十一糎四粍（五寸六分五厘）角一枚と巾二十一糎八粍（五寸八分弱）丈十一糎四粍（三寸）のもの一枚、黑と黃の縞リボン半吋巾丈九十六糎（二尺五寸三分）編物用の黑絹テープ丈二米（五尺二寸八分）赤リボン半吋巾丈六糎（一寸六分）白絹八糎（二寸一分）角一枚、厚さ一粍（三厘）位のボール紙六糎五粍（一寸七分）角一枚、薄茶色の人形用髪毛小束半分、赤ビーズ二十粒。

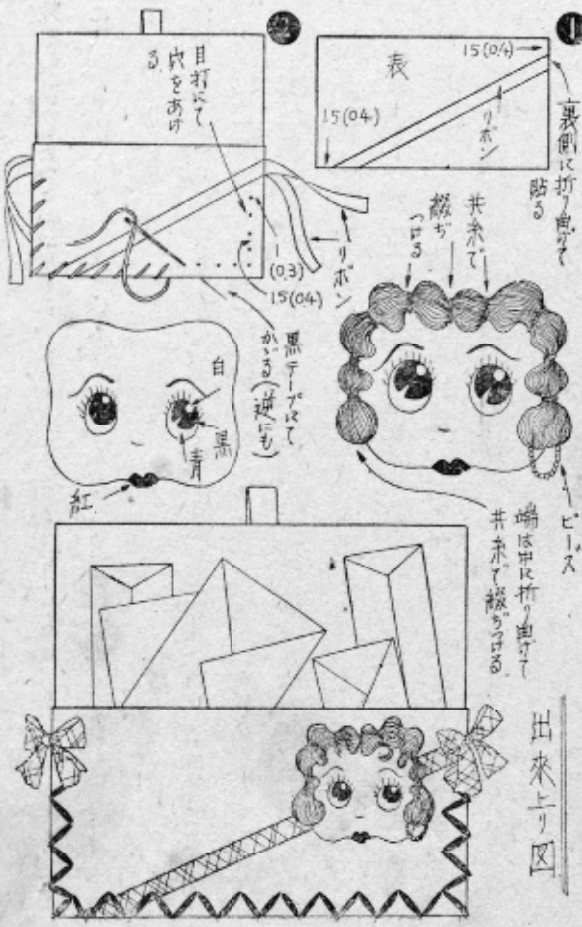
作り方 臺の赤い布の裏側にボール紙をのせ、ボール紙の緣に糊をつけて、布の四方を

折つて貼りつけます。大きい四角も半分の方も兩方共同じです。

次にリボンを二十四糎（六寸三分）一本、十八糎（四寸七分五厘）四本に切り、長いリボンを(1)圖のやうに小さい臺の表に渡します。

二つの臺の裏側の下から十糎（二寸六分）上つた所へ殘りの四本のリボンをそれ〳〵貼りつけ、大きい方には上部の中央に赤リボンを二つに折つて、吊手に作り、貼りつけておきます。千代紙の裏側の廻りに糊をつけ、大小の臺の裏に貼りつけたら(2)圖のやうに大小を重ねて二枚一緒に目打ちで孔をあけます。これに絹テープをリボン刺繍の針に通して圖のやうにかゞつて行き、兩横のリボンを出來上りのやうに蝶結びにします。

薄い小さい方のボール紙一ぱいに、ベティの顏の型をかき、輪廓通りに裁ち切ります。次に白絹をこの上にのせて、うすく鉛筆で眉、目、鼻、唇の型を寫し、その上を可愛らしく繪の具で塗ります。目の廻りや顏にはうすく紅をさしませう。白絹はボール紙より廻りを六粍（二分）位大きく裁ち切り、ぐるりと淺く縫ひ縮めます。ボール紙の上には綿をう



出來上り図

材料　二本入りの羊羹の木箱、千代紙、糊、ニス少々。

作り方　羊羹の箱はこのままでは深すぎるので、内法一糎（三分）位の深さに（1）圖のやうに鋸でひいてしまひます。

次に紙を裁ちます。外貼りの紙は、箱の底裏一糎（三分）位の所からぐるつと緣を廻して、内側へ五粍（一分五厘）程廻るだけの巾に裁ちます。次に底廻りは箱の内法にぴつたり合ふ寸法に裁ち、内側の緣貼りとして、二糎（五分）巾でぐるりと緣を廻す丈だけ取つておきます。

生麩糊を障子を貼る時位に、薄くといて、第一に外貼りをします。外貼りの紙が新聞紙か何かの上に、裏を上にして糊をひき、緣をぐるりと貼ります。角々はきちんと細緣になるやうに折つて、下の重なりはかさばらぬやうに切取ります。かうして底の折返りと内側の折返りを貼りつけてしまひます。

次に二糎（五分）巾の紙を箱の内側に貼ります。この角々は一寸したことで見苦しくなすく載せ、その上に顔の白絹をかぶせて、糸を引締め、顔の形をとゝのへます。

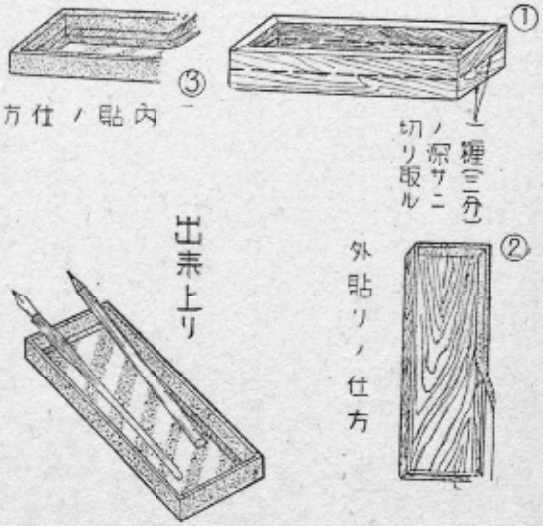
髪毛はとぢつけ用として、十本位別にとりのけておき、殘りを丈二十五糎（六寸六分）に切つて、兩端を共糸三、四本で束ね、人形用の髪アイロンで細かく、强いウエーヴをかけます。これを圖のやうに頭の上にのせ、ベティの顔らしく共糸でとぢつけ、右の耳に赤ビーズを耳輪にしてたらしておきます。

これで顔がすつかり濟みましたから、裏側に糊をべつたりとつけ、出來上り圖のやうに臺の上にしつかりと貼つておきます。

（222）

千代紙張りの趣味のペン皿

勉强机の上に、こんな綺麗なペン皿をのせて上げて下さい。これは羊羹の箱を應用して千代紙をはつただけですが、中々面白いものが出來ました。お子樣の手工の材料にして一緒にお作りになつてもいゝではありませんか。



りますから充分注意します。

先づ糊づけしない前に箱の形に合せてピツタリ紙を折り、角々を額縁にし、重なりは切取つてしまふのです。次に箱の方へ糊をひいて貼りこみます。糊が紙の外に出ないやうに氣をつけて下さい。

最後に内底を貼ります。底は一枚の紙ですから、皺にならぬやうにぴつたり貼ればよいのです。

内底と同じ方法で、裏底も貼りますと貼り方はおしまひです。

紙を貼る時は手でしないで、ブラシか乾いた布で叩くやうにいたしますと、皺にもならず、綺麗に貼られます。

このままでは使つてゐる中に毛羽立つて来ますから、糊がすつかり乾きましたらニスを引きます。乾いたら又塗りといふ風に、二、三回位繰返してニスを塗つておきますと、紙の色が落着き、非常に丈夫になります。

立派なペン皿が出来ましたでせう。このやうに色々な木の空箱や、ピクニツクの時使ふ薄板の箱も、粗末にしないでとつておき、千代紙をはつたり、小布をはつたりいたしますと、とても綺麗な手箱が出来上ります。化粧品の空箱でもいろ〳〵な小物入れやハンカチーフ入れ、文箱など楽しみなものが作れませう。又、同じやり方で、果物や松茸の空籠を千代紙ばりにしてニスを塗りますと、丈夫で美しい玩具入れや紙くづ籠になります。

外出用になるビーズ細工の首飾り

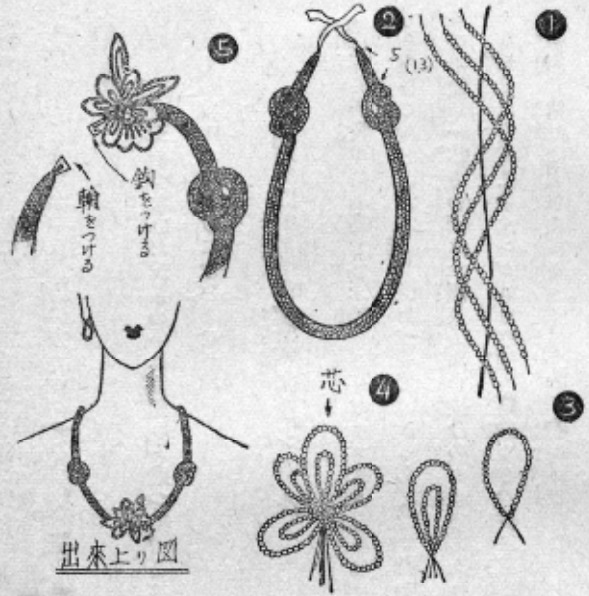
夏のお洋服に是非ほしい首飾りも、市場に賣つてゐる眞珠玉をつないだものばかりでは面白くありません。これはビーズを斜めによつて輪を作り、それに、ビーズ細工の飾り花をつけた、とても可愛らしいものです。

材料　綠色ビーズ五把、小花用ビーズ赤、白、黃、淡綠各少々づつ、綠色細打紐六十糎（一尺六寸）手藝用細針金少々、綠孔糸少々、鉤ホック一組。

作り方　綠色の孔糸は一米（二尺六寸四分）丈のもの三本取り、五把のビーズを分けて通しておきます。

細打紐にこの三本のビーズの紐を、(1)圖のやうにまきつけて行きます。全部まき終りましたら、(2)圖のやうに、兩端から五糎（一寸三分）の所を一つづつ結んでおきます。細針金に赤ビーズ十六粒通し、(3)圖のやうに輪にし、次に十二粒通してその中へ小さく輪にして入れ、二重の楕圓形を作ります。同樣の二重の輪を赤で四つ、白で六つ、黃色で五つ作り、それより二粒づつ多い輪を、淡綠で三つ作ります。

次に(4)圖のやうに、今作つた輪を束ねて、四彈の花を作ります。赤の花の芯は白、黃色の花に白の芯、白い花には黃色の芯をつけます。三つの花に淡綠の輪を葉に見立て



出來上り圖

て恰好よく組合せ、先に作つた紐の一方の端にしつかりとつけておきます。

花の下に目立たぬやうに鈎の方のホックをつけ、紐の一方に輪のホックをつけると出來上ります。

たゞ南京玉をつないだ玩具めいた首飾りと違つて、これならよそ行きのお洋服にも、大威張でつけておでかけになれませう。

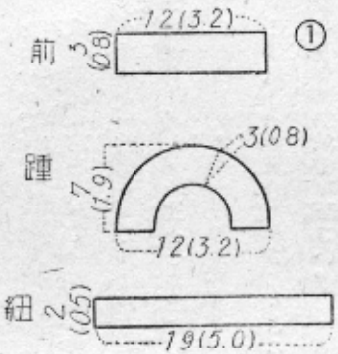
簡單に出來る輕快なサンダル

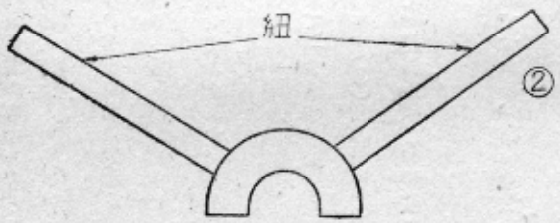
海岸のお散歩やお庭で遊ぶ時、こんなサンダルをおはかせになつては如何ですか？　一寸お使ひになどといふ時、いたづら着にきちんとした靴ではをかしいし、下駄をひつかけるのでは、一時さわがれた國策のはき違ひのやうであまり見よいものではありません。そんな場合にも、このサンダルは手輕で體裁よく、誠に重寶なものです。

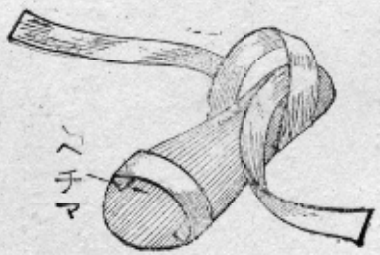
材料　靴底に入れるヘチマ二足分、小布少々。

出來上リ









作り方　ヘチマはそれ〴〵の足に合つた文數のものをもとめておきます。

洋服の殘り布か何か、しつかりした小布を用意し、(1)圖のやうに、前と踵と紐の布を裁らます。これは全部表裏裏りますから、前を四本、踵を四本、紐を八本取ります。

先づ紐布を裏表合せて、一足二本づつ袋に縫つておきます。これを(2)圖のやうに、踵布の表裏の間にはさんでしつかりと紐合せておきます。この踵布の中には何か芯地を入れるとよいのです。

次に前布も芯を入れて、表裏を紐合せておきます。

ヘチマを一枚取り、これに前布と踵布を、(3)圖のやうに、太い麻糸を二重にしたもので縫ひつけ、もう一枚をその上にのせて、縫目を被ひ、最後に上下のヘチマをかゞり合せてしまひます。

これは各自の足の大きさにもよることですから、布の寸法や、つける場所は、その人の足に合せて加減して下さい。

兩足とも出來上りましたら、丁度草鞋をはくやうな具合にはいて紐を結びますと、見るからに輕快なサンダルになりませう。結ぶ紐は別な色のリボンをつけても、可愛らしいものが出來ます。

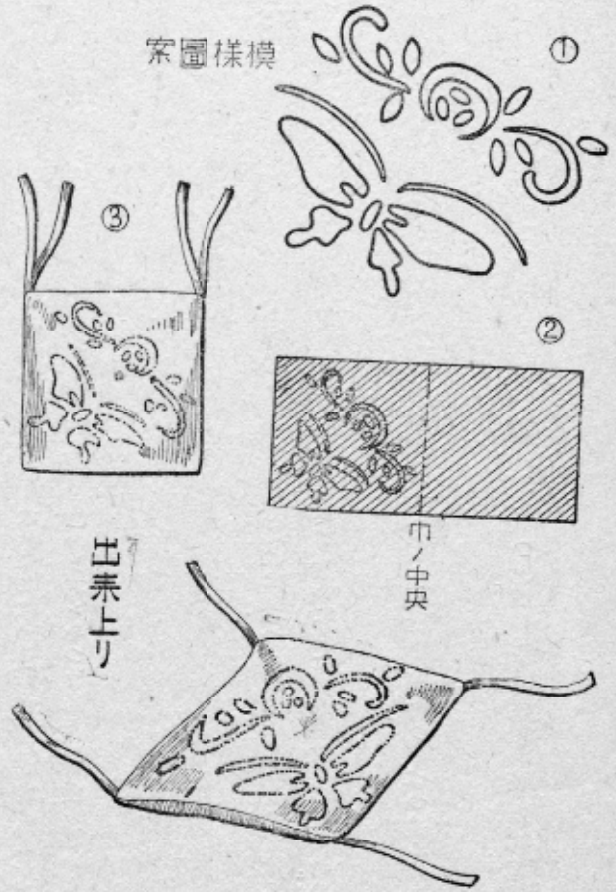
絞り染の學校用椅子ぶとん

學校の椅子にのせるふとんは、刺繍のこつたものよりは、あつさりしたものの方がよろしいと思ひます。ここには圓い薔薇の花と、胡蝶を絞り染めにしたのをのせました。お心づくしの染色の可愛い、ふとんが出來上ります。

材料　白の人絹大巾三十八糎（一尺）、染料赤、黃、綠、靑の直接染料少々づつ、ふのり、竹の皮。

作り方　用布の巾を二つに分け、どちらか一方へ、(1)圖のやうな薔薇の花と蝶の模樣を靑花で描きます。

模様圖案



下圖がかけましたら、薔薇の莖と蝶の觸角だけ殘して、その他の花や葉、蝶の羽根、胴などの輪廓をそれ〳〵平縫ひし、糸は全部引きしめずにおきます。

赤、黃、綠の染料を、それ〳〵小皿に入れ熱湯でときます。別にふのりを熱湯で濃い葛湯位にとき、布でかすをこして取り、先に溶いてあつた染料の中へ、約四分の一位の割にまぜ入れ、どろ〳〵の染液を作つておきます。

この染液を筆につけて、花は赤、葉は綠、蝶は黃色でべつたり塗ります。莖は綠、觸角は黃で四粍（一分）巾位に塗つておきます。

染料がすつかり乾きましたら、莖と觸角を摘み縫ひ絞りにします。平縫ひしておいた所はそれ〳〵糸を充分に引締めて卷き上げます。更にその上を竹の皮で防染して、地染めの色がこの部分に浸み込まぬやうにします。

絞りがすつかり出來上りましたら、地を淡い水色に染めます。充分に乾いてから絞りの糸をほどきます。

これをふとんに仕上げて、四角に紐を縫ひつけます。紐は巾二糎（五分）丈三十八糎（一尺）位の上りに作つておきます。紐のつけ方は(3)圖のやうに、二方へ二本づつにし、そこで後の棒へ結びつけるやうにしてもよろしうございます。

このふとんに使ひました紐❻の仕方や、地染めの方法は、次に示す「手藝の基礎知識」中「家庭で出來る染色」の項に、委しく書いてありますから、適宜に御參照下さい。

手藝の基礎知識

フランス刺繍の基礎

刺繍の仕方は各國で色々な刺し方がありますが、いづれも名稱がちがふだけで、方法は大して變りありません。日本刺繍の刺し方をしつかり覺えこんでおいて下されば、このままフランス刺繍といはれるものゝ基礎縫を申上げます。

材料と用具　糸は綿糸五番と二十五番が一番多く用ひられます。五番は太く一本に撚つた糸、二十五番は細い糸が六本集つて、一本になつてゐます。したがつて六本全部使ふこともあり、二本、三本と分けて刺すこともあります。この外絹糸、人絹などが使はれます。

糸はまかず、かせのまゝ一ケ所を切つて、一本づつ抜いて用ひます。

針はめどの長く大きな刺繍針で、一番から八番まであります。普通五番の糸には三番を二十五番糸には五番を使ひます。

枠は布を張るために木製の枠を用ひます。布目が曲らないやう、布の張りが平らになるやう注意して張ることです。

下繪は何か薄い紙に圖案をかき、布の上に炭酸紙をのせて、その上から下繪の紙をのせ上から鉛筆でなぞります。

❶アウトライン ステッチ



基本的な刺し方　圖解の中(1)(2)(3)の記號は針の運び方を示したもの。

アウトライン・ステッチ

草や木の莖や幹、模様の輪廓その他の線を刺す時に用ひます。

❷ダーニング ステッチ



❸ライス ステッチ

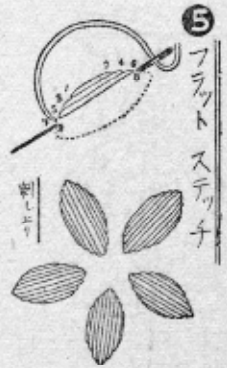


❹コーティング ステッチ


裏
表
糸の一
糸二
糸三
糸四
糸五
糸六
糸七
糸八
糸九
糸十
糸十一
糸十二
糸十三
糸十四
糸十五
糸十六
糸十七
糸十八
糸十九
糸二十
糸二十一
糸二十二
糸二十三
糸二十四
糸二十五
糸二十六
糸二十七
糸二十八
糸二十九
糸三十
糸三十一
糸三十二
糸三十三
糸三十四
糸三十五
糸三十六
糸三十七
糸三十八
糸三十九
糸四十
糸四十一
糸四十二
糸四十三
糸四十四
糸四十五
糸四十六
糸四十七
糸四十八
糸四十九
糸五十
糸五十一
糸五十二
糸五十三
糸五十四
糸五十五
糸五十六
糸五十七
糸五十八
糸五十九
糸六十
糸六十一
糸六十二
糸六十三
糸六十四
糸六十五
糸六十六
糸六十七
糸六十八
糸六十九
糸七十
糸七十一
糸七十二
糸七十三
糸七十四
糸七十五
糸七十六
糸七十七
糸七十八
糸七十九
糸八十
糸八十一
糸八十二
糸八十三
糸八十四
糸八十五
糸八十六
糸八十七
糸八十八
糸八十九
糸九十
糸九十一
糸九十二
糸九十三
糸九十四
糸九十五
糸九十六
糸九十七
糸九十八
糸九十九
糸百
糸百一
糸百二
糸百三
糸百四
糸百五
糸百六
糸百七
糸百八
糸百九
糸百十
糸百十一
糸百十二
糸百十三
糸百十四
糸百十五
糸百十六
糸百十七
糸百十八
糸百十九
糸百二十
糸百二十一
糸百二十二
糸百二十三
糸百二十四
糸百二十五
糸百二十六
糸百二十七
糸百二十八
糸百二十九
糸百三十
糸百三十一
糸百三十二
糸百三十三
糸百三十四
糸百三十五
糸百三十六
糸百三十七
糸百三十八
糸百三十九
糸百四十
糸百四十一
糸百四十二
糸百四十三
糸百四十四
糸百四十五
糸百四十六
糸百四十七
糸百四十八
糸百四十九
糸百五十
糸百五十一
糸百五十二
糸百五十三
糸百五十四
糸百五十五
糸百五十六
糸百五十七
糸百五十八
糸百五十九
糸百六十
糸百六十一
糸百六十二
糸百六十三
糸百六十四
糸百六十五
糸百六十六
糸百六十七
糸百六十八
糸百六十九
糸百七十
糸百七十一
糸百七十二
糸百七十三
糸百七十四
糸百七十五
糸百七十六
糸百七十七
糸百七十八
糸百七十九
糸百八十
糸百八十一
糸百八十二
糸百八十三
糸百八十四
糸百八十五
糸百八十六
糸百八十七
糸百八十八
糸百八十九
糸百九十
糸百九十一
糸百九十二
糸百九十三
糸百九十四
糸百九十五
糸百九十六
糸百九十七
糸百九十八
糸百九十九
糸二百
糸二百一
糸二百二
糸二百三
糸二百四
糸二百五
糸二百六
糸二百七
糸二百八
糸二百九
糸二百十
糸二百十一
糸二百十二
糸二百十三
糸二百十四
糸二百十五
糸二百十六
糸二百十七
糸二百十八
糸二百十九
糸二百二十
糸二百二十一
糸二百二十二
糸二百二十三
糸二百二十四
糸二百二十五
糸二百二十六
糸二百二十七
糸二百二十八
糸二百二十九
糸二百三十
糸二百三十一
糸二百三十二
糸二百三十三
糸二百三十四
糸二百三十五
糸二百三十六
糸二百三十七
糸二百三十八
糸二百三十九
糸二百四十
糸二百四十一
糸二百四十二
糸二百四十三
糸二百四十四
糸二百四十五
糸二百四十六
糸二百四十七
糸二百四十八
糸二百四十九
糸二百五十
糸二百五十一
糸二百五十二
糸二百五十三
糸二百五十四
糸二百五十五
糸二百五十六
糸二百五十七
糸二百五十八
糸二百五十九
糸二百六十
糸二百六十一
糸二百六十二
糸二百六十三
糸二百六十四
糸二百六十五
糸二百六十六
糸二百六十七
糸二百六十八
糸二百六十九
糸二百七十
糸二百七十一
糸二百七十二
糸二百七十三
糸二百七十四
糸二百七十五
糸二百七十六
糸二百七十七
糸二百七十八
糸二百七十九
糸二百八十
糸二百八十一
糸二百八十二
糸二百八十三
糸二百八十四
糸二百八十五
糸二百八十六
糸二百八十七
糸二百八十八
糸二百八十九
糸二百九十
糸二百九十一
糸二百九十二
糸二百九十三
糸二百九十四
糸二百九十五
糸二百九十六
糸二百九十七
糸二百九十八
糸二百九十九
糸三百
糸三百一
糸三百二
糸三百三
糸三百四
糸三百五
糸三百六
糸三百七
糸三百八
糸三百九
糸三百十
糸三百十一
糸三百十二
糸三百十三
糸三百十四
糸三百十五
糸三百十六
糸三百十七
糸三百十八
糸三百十九
糸三百二十
糸三百二十一
糸三百二十二
糸三百二十三
糸三百二十四
糸三百二十五
糸三百二十六
糸三百二十七
糸三百二十八
糸三百二十九
糸三百三十
糸三百三十一
糸三百三十二
糸三百三十三
糸三百三十四
糸三百三十五
糸三百三十六
糸三百三十七
糸三百三十八
糸三百三十九
糸三百四十
糸三百四十一
糸三百四十二
糸三百四十三
糸三百四十四
糸三百四十五
糸三百四十六
糸三百四十七
糸三百四十八
糸三百四十九
糸三百五十
糸三百五十一
糸三百五十二
糸三百五十三
糸三百五十四
糸三百五十五
糸三百五十六
糸三百五十七
糸三百五十八
糸三百五十九
糸三百六十
糸三百六十一
糸三百六十二
糸三百六十三
糸三百六十四
糸三百六十五
糸三百六十六
糸三百六十七
糸三百六十八
糸三百六十九
糸三百七十
糸三百七十一
糸三百七十二
糸三百七十三
糸三百七十四
糸三百七十五
糸三百七十六
糸三百七十七
糸三百七十八
糸三百七十九
糸三百八十
糸三百八十一
糸三百八十二
糸三百八十三
糸三百八十四
糸三百八十五
糸三百八十六
糸三百八十七
糸三百八十八
糸三百八十九
糸三百九十
糸三百九十一
糸三百九十二
糸三百九十三
糸三百九十四
糸三百九十五
糸三百九十六
糸三百九十七
糸三百九十八
糸三百九十九
糸四百
糸四百一
糸四百二
糸四百三
糸四百四
糸四百五
糸四百六
糸四百七
糸四百八
糸四百九
糸四百十
糸四百十一
糸四百十二
糸四百十三
糸四百十四
糸四百十五
糸四百十六
糸四百十七
糸四百十八
糸四百十九
糸四百二十
糸四百二十一
糸四百二十二
糸四百二十三
糸四百二十四
糸四百二十五
糸四百二十六
糸四百二十七
糸四百二十八
糸四百二十九
糸四百三十
糸四百三十一
糸四百三十二
糸四百三十三
糸四百三十四
糸四百三十五
糸四百三十六
糸四百三十七
糸四百三十八
糸四百三十九
糸四百四十
糸四百四十一
糸四百四十二
糸四百四十三
糸四百四十四
糸四百四十五
糸四百四十六
糸四百四十七
糸四百四十八
糸四百四十九
糸四百五十
糸四百五十一
糸四百五十二
糸四百五十三
糸四百五十四
糸四百五十五
糸四百五十六
糸四百五十七
糸四百五十八
糸四百五十九
糸四百六十
糸四百六十一
糸四百六十二
糸四百六十三
糸四百六十四
糸四百六十五
糸四百六十六
糸四百六十七
糸四百六十八
糸四百六十九
糸四百七十
糸四百七十一
糸四百七十二
糸四百七十三
糸四百七十四
糸四百七十五
糸四百七十六
糸四百七十七
糸四百七十八
糸四百七十九
糸四百八十
糸四百八十一
糸四百八十二
糸四百八十三
糸四百八十四
糸四百八十五
糸四百八十六
糸四百八十七
糸四百八十八
糸四百八十九
糸四百九十
糸四百九十一
糸四百九十二
糸四百九十三
糸四百九十四
糸四百九十五
糸四百九十六
糸四百九十七
糸四百九十八
糸四百九十九
糸五百
糸五百一
糸五百二
糸五百三
糸五百四
糸五百五
糸五百六
糸五百七
糸五百八
糸五百九
糸五百十
糸五百十一
糸五百十二
糸五百十三
糸五百十四
糸五百十五
糸五百十六
糸五百十七
糸五百十八
糸五百十九
糸五百二十
糸五百二十一
糸五百二十二
糸五百二十三
糸五百二十四
糸五百二十五
糸五百二十六
糸五百二十七
糸五百二十八
糸五百二十九
糸五百三十
糸五百三十一
糸五百三十二
糸五百三十三
糸五百三十四
糸五百三十五
糸五百三十六
糸五百三十七
糸五百三十八
糸五百三十九
糸五百四十
糸五百四十一
糸五百四十二
糸五百四十三
糸五百四十四
糸五百四十五
糸五百四十六
糸五百四十七
糸五百四十八
糸五百四十九
糸五百五十
糸五百五十一
糸五百五十二
糸五百五十三
糸五百五十四
糸五百五十五
糸五百五十六
糸五百五十七
糸五百五十八
糸五百五十九
糸五百六十
糸五百六十一
糸五百六十二
糸五百六十三
糸五百六十四
糸五百六十五
糸五百六十六
糸五百六十七
糸五百六十八
糸五百六十九
糸五百七十
糸五百七十一
糸五百七十二
糸五百七十三
糸五百七十四
糸五百七十五
糸五百七十六
糸五百七十七
糸五百七十八
糸五百七十九
糸五百八十
糸五百八十一
糸五百八十二
糸五百八十三
糸五百八十四
糸五百八十五
糸五百八十六
糸五百八十七
糸五百八十八
糸五百八十九
糸五百九十
糸五百九十一
糸五百九十二
糸五百九十三
糸五百九十四
糸五百九十五
糸五百九十六
糸五百九十七
糸五百九十八
糸五百九十九
糸六百
糸六百一
糸六百二
糸六百三
糸六百四
糸六百五
糸六百六
糸六百七
糸六百八
糸六百九
糸六百十
糸六百十一
糸六百十二
糸六百十三
糸六百十四
糸六百十五
糸六百十六
糸六百十七
糸六百十八
糸六百十九
糸六百二十
糸六百二十一
糸六百二十二
糸六百二十三
糸六百二十四
糸六百二十五
糸六百二十六
糸六百二十七
糸六百二十八
糸六百二十九
糸六百三十
糸六百三十一
糸六百三十二
糸六百三十三
糸六百三十四
糸六百三十五
糸六百三十六
糸六百三十七
糸六百三十八
糸六百三十九
糸六百四十
糸六百四十一
糸六百四十二
糸六百四十三
糸六百四十四
糸六百四十五
糸六百四十六
糸六百四十七
糸六百四十八
糸六百四十九
糸六百五十
糸六百五十一
糸六百五十二
糸六百五十三
糸六百五十四
糸六百五十五
糸六百五十六
糸六百五十七
糸六百五十八
糸六百五十九
糸六百六十
糸六百六十一
糸六百六十二
糸六百六十三
糸六百六十四
糸六百六十五
糸六百六十六
糸六百六十七
糸六百六十八
糸六百六十九
糸六百七十
糸六百七十一
糸六百七十二
糸六百七十三
糸六百七十四
糸六百七十五
糸六百七十六
糸六百七十七
糸六百七十八
糸六百七十九
糸六百八十
糸六百八十一
糸六百八十二
糸六百八十三
糸六百八十四
糸六百八十五
糸六百八十六
糸六百八十七
糸六百八十八
糸六百八十九
糸六百九十
糸六百九十一
糸六百九十二
糸六百九十三
糸六百九十四
糸六百九十五
糸六百九十六
糸六百九十七
糸六百九十八
糸六百九十九
糸七百
糸七百一
糸七百二
糸七百三
糸七百四
糸七百五
糸七百六
糸七百七
糸七百八
糸七百九
糸七百十
糸七百十一
糸七百十二
糸七百十三
糸七百十四
糸七百十五
糸七百十六
糸七百十七
糸七百十八
糸七百十九
糸七百二十
糸七百二十一
糸七百二十二
糸七百二十三
糸七百二十四
糸七百二十五
糸七百二十六
糸七百二十七
糸七百二十八
糸七百二十九
糸七百三十
糸七百三十一
糸七百三十二
糸七百三十三
糸七百三十四
糸七百三十五
糸七百三十六
糸七百三十七
糸七百三十八
糸七百三十九
糸七百四十
糸七百四十一
糸七百四十二
糸七百四十三
糸七百四十四
糸七百四十五
糸七百四十六
糸七百四十七
糸七百四十八
糸七百四十九
糸七百五十
糸七百五十一
糸七百五十二
糸七百五十三
糸七百五十四
糸七百五十五
糸七百五十六
糸七百五十七
糸七百五十八
糸七百五十九
糸七百六十
糸七百六十一
糸七百六十二
糸七百六十三
糸七百六十四
糸七百六十五
糸七百六十六
糸七百六十七
糸七百六十八
糸七百六十九
糸七百七十
糸七百七十一
糸七百七十二
糸七百七十三
糸七百七十四
糸七百七十五
糸七百七十六
糸七百七十七
糸七百七十八
糸七百七十九
糸七百八十
糸七百八十一
糸七百八十二
糸七百八十三
糸七百八十四
糸七百八十五
糸七百八十六
糸七百八十七
糸七百八十八
糸七百八十九
糸七百九十
糸七百九十一
糸七百九十二
糸七百九十三
糸七百九十四
糸七百九十五
糸七百九十六
糸七百九十七
糸七百九十八
糸七百九十九
糸八百
糸八百一
糸八百二
糸八百三
糸八百四
糸八百五
糸八百六
糸八百七
糸八百八
糸八百九
糸八百十
糸八百十一
糸八百十二
糸八百十三
糸八百十四
糸八百十五
糸八百十六
糸八百十七
糸八百十八
糸八百十九
糸八百二十
糸八百二十一
糸八百二十二
糸八百二十三
糸八百二十四
糸八百二十五
糸八百二十六
糸八百二十七
糸八百二十八
糸八百二十九
糸八百三十
糸八百三十一
糸八百三十二
糸八百三十三
糸八百三十四
糸八百三十五
糸八百三十六
糸八百三十七
糸八百三十八
糸八百三十九
糸八百四十
糸八百四十一
糸八百四十二
糸八百四十三
糸八百四十四
糸八百四十五
糸八百四十六
糸八百四十七
糸八百四十八
糸八百四十九
糸八百五十
糸八百五十一
糸八百五十二
糸八百五十三
糸八百五十四
糸八百五十五
糸八百五十六
糸八百五十七
糸八百五十八
糸八百五十九
糸八百六十
糸八百六十一
糸八百六十二
糸八百六十三
糸八百六十四
糸八百六十五
糸八百六十六
糸八百六十七
糸八百六十八
糸八百六十九
糸八百七十
糸八百七十一
糸八百七十二
糸八百七十三
糸八百七十四
糸八百七十五
糸八百七十六
糸八百七十七
糸八百七十八
糸八百七十九
糸八百八十
糸八百八十一
糸八百八十二
糸八百八十三
糸八百八十四
糸八百八十五
糸八百八十六
糸八百八十七
糸八百八十八
糸八百八十九
糸八百九十
糸八百九十一
糸八百九十二
糸八百九十三
糸八百九十四
糸八百九十五
糸八百九十六
糸八百九十七
糸八百九十八
糸八百九十九
糸九百
糸九百一
糸九百二
糸九百三
糸九百四
糸九百五
糸九百六
糸九百七
糸九百八
糸九百九
糸九百十
糸九百十一
糸九百十二
糸九百十三
糸九百十四
糸九百十五
糸九百十六
糸九百十七
糸九百十八
糸九百十九
糸九百二十
糸九百二十一
糸九百二十二
糸九百二十三
糸九百二十四
糸九百二十五
糸九百二十六
糸九百二十七
糸九百二十八
糸九百二十九
糸九百三十
糸九百三十一
糸九百三十二
糸九百三十三
糸九百三十四
糸九百三十五
糸九百三十六
糸九百三十七
糸九百三十八
糸九百三十九
糸九百四十
糸九百四十一
糸九百四十二
糸九百四十三
糸九百四十四
糸九百四十五
糸九百四十六
糸九百四十七
糸九百四十八
糸九百四十九
糸九百五十
糸九百五十一
糸九百五十二
糸九百五十三
糸九百五十四
糸九百五十五
糸九百五十六
糸九百五十七
糸九百五十八
糸九百五十九
糸九百六十
糸九百六十一
糸九百六十二
糸九百六十三
糸九百六十四
糸九百六十五
糸九百六十六
糸九百六十七
糸九百六十八
糸九百六十九
糸九百七十
糸九百七十一
糸九百七十二
糸九百七十三
糸九百七十四
糸九百七十五
糸九百七十六
糸九百七十七
糸九百七十八
糸九百七十九
糸九百八十
糸九百八十一
糸九百八十二
糸九百八十三
糸九百八十四
糸九百八十五
糸九百八十六
糸九百八十七
糸九百八十八
糸九百八十九
糸九百九十
糸九百九十一
糸九百九十二
糸九百九十三
糸九百九十四
糸九百九十五
糸九百九十六
糸九百九十七
糸九百九十八
糸九百九十九
糸千
糸千一
糸千二
糸千三
糸千四
糸千五
糸千六
糸千七
糸千八
糸千九
糸千十
糸千十一
糸千十二
糸千十三
糸千十四
糸千十五
糸千十六
糸千十七
糸千十八
糸千十九
糸千二十
糸千二十一
糸千二十二
糸千二十三
糸千二十四
糸千二十五
糸千二十六
糸千二十七
糸千二十八
糸千二十九
糸千三十
糸千三十一
糸千三十二
糸千三十三
糸千三十四
糸千三十五
糸千三十六
糸千三十七
糸千三十八
糸千三十九
糸千四十
糸千四十一
糸千四十二
糸千四十三
糸千四十四
糸千四十五
糸千四十六
糸千四十七
糸千四十八
糸千四十九
糸千五十
糸千五十一
糸千五十二
糸千五十三
糸千五十四
糸千五十五
糸千五十六
糸千五十七
糸千五十八
糸千五十九
糸千六十
糸千六十一
糸千六十二
糸千六十三
糸千六十四
糸千六十五
糸千六十六
糸千六十七
糸千六十八
糸千六十九
糸千七十
糸千七十一
糸千七十二
糸千七十三
糸千七十四
糸千七十五
糸千七十六
糸千七十七
糸千七十八
糸千七十九
糸千八十
糸千八十一
糸千八十二
糸千八十三
糸千八十四
糸千八十五
糸千八十六
糸千八十七
糸千八十八
糸千八十九
糸千九十
糸千九十一
糸千九十二
糸千九十三
糸千九十四
糸千九十五
糸千九十六
糸千九十七
糸千九十八
糸千九十九
糸千百
糸千百一
糸千百二
糸千百三
糸千百四
糸千百五
糸千百六
糸千百七
糸千百八
糸千百九
糸千百十
糸千百十一
糸千百十二
糸千百十三
糸千百十四
糸千百十五
糸千百十六
糸千百十七
糸千百十八
糸千百十九
糸千百二十
糸千百二十一
糸千百二十二
糸千百二十三
糸千百二十四
糸千百二十五
糸千百二十六
糸千百二十七
糸千百二十八
糸千百二十九
糸千百三十
糸千百三十一
糸千百三十二
糸千百三十三
糸千百三十四
糸千百三十五
糸千百三十六
糸千百三十七
糸千百三十八
糸千百三十九
糸千百四十
糸千百四十一
糸千百四十二
糸千百四十三
糸千百四十四
糸千百四十五
糸千百四十六
糸千百四十七
糸千百四十八
糸千百四十九
糸千百五十
糸千百五十一
糸千百五十二
糸千百五十三
糸千百五十四
糸千百五十五
糸千百五十六
糸千百五十七
糸千百五十八
糸千百五十九
糸千百六十
糸千百六十一
糸千百六十二
糸千百六十三
糸千百六十四
糸千百六十五
糸千百六十六
糸千百六十七
糸千百六十八
糸千百六十九
糸千百七十
糸千百七十一
糸千百七十二
糸千百七十三
糸千百七十四
糸千百七十五
糸千百七十六
糸千百七十七
糸千百七十八
糸千百七十九
糸千百八十
糸千百八十一
糸千百八十二
糸千百八十三
糸千百八十四
糸千百八十五
糸千百八十六
糸千百八十七
糸千百八十八
糸千百八十九
糸千百九十
糸千百九十一
糸千百九十二
糸千百九十三
糸千百九十四
糸千百九十五
糸千百九十六
糸千百九十七
糸千百九十八
糸千百九十九
糸二千
糸二千一
糸二千二
糸二千三
糸二千四
糸二千五
糸二千六
糸二千七
糸二千八
糸二千九
糸二千十
糸二千十一
糸二千十二
糸二千十三
糸二千十四
糸二千十五
糸二千十六
糸二千十七
糸二千十八
糸二千十九
糸二千二十
糸二千二十一
糸二千二十二
糸二千二十三
糸二千二十四
糸二千二十五
糸二千二十六
糸二千二十七
糸二千二十八
糸二千二十九
糸二千三十
糸二千三十一
糸二千三十二
糸二千三十三
糸二千三十四
糸二千三十五
糸二千三十六
糸二千三十七
糸二千三十八
糸二千三十九
糸二千四十
糸二千四十一
糸二千四十二
糸二千四十三
糸二千四十四
糸二千四十五
糸二千四十六
糸二千四十七
糸二千四十八
糸二千四十九
糸二千五十
糸二千五十一
糸二千五十二
糸二千五十三
糸二千五十四
糸二千五十五
糸二千五十六
糸二千五十七
糸二千五十八
糸二千五十九
糸二千六十
糸二千六十一
糸二千六十二
糸二千六十三
糸二千六十四
糸二千六十五
糸二千六十六
糸二千六十七
糸二千六十八
糸二千六十九
糸二千七十
糸二千七十一
糸二千七十二
糸二千七十三
糸二千七十四
糸二千七十五
糸二千七十六
糸二千七十七
糸二千七十八
糸二千七十九
糸二千八十
糸二千八十一
糸二千八十二
糸二千八十三
糸二千八十四
糸二千八十五
糸二千八十六
糸二千八十七
糸二千八十八
糸二千八十九
糸二千九十
糸二千九十一
糸二千九十二
糸二千九十三
糸二千九十四
糸二千九十五
糸二千九十六
糸二千九十七
糸二千九十八
糸二千九十九
糸二千百
糸二千百一
糸二千百二
糸二千百三
糸二千百四
糸二千百五
糸二千百六
糸二千百七
糸二千百八
糸二千百九
糸二千百十
糸二千百十一
糸二千百十二
糸二千百十三
糸二千百十四
糸二千百十五
糸二千百十六
糸二千百十七
糸二千百十八
糸二千百十九
糸二千百二十
糸二千百二十一
糸二千百二十二
糸二千百二十三
糸二千百二十四
糸二千百二十五
糸二千百二十六
糸二千百二十七
糸二千百二十八
糸二千百二十九
糸二千百三十
糸二千百三十一
糸二千百三十二
糸二千百三十三
糸二千百三十四
糸二千百三十五
糸二千百三十六
糸二千百三十七
糸二千百三十八
糸二千百三十九
糸二千百四十
糸二千百四十一
糸二千百四十二
糸二千百四十三
糸二千百四十四
糸二千百四十五
糸二千百四十六
糸二千百四十七
糸二千百四十八
糸二千百四十九
糸二千百五十
糸二千百五十一
糸二千百五十二
糸二千百五十三
糸二千百五十四
糸二千百五十五
糸二千百五十六
糸二千百五十七
糸二千百五十八
糸二千百五十九
糸二千百六十
糸二千百六十一
糸二千百六十二
糸二千百六十三
糸二千百六十四
糸二千百六十五
糸二千百六十六
糸二千百六十七
糸二千百六十八
糸二千百六十九
糸二千百七十
糸二千百七十一
糸二千百七十二
糸二千百七十三
糸二千百七十四
糸二千百七十五
糸二千百七十六
糸二千百七十七
糸二千百七十八
糸二千百七十九
糸二千百八十
糸二千百八十一
糸二千百八十二
糸二千百八十三
糸二千百八十四
糸二千百八十五
糸二千百八十六
糸二千百八十七
糸二千百八十八
糸二千百八十九
糸二千百九十
糸二千百九十一
糸二千百九十二
糸二千百九十三
糸二千百九十四
糸二千百九十五
糸二千百九十六
糸二千百九十七
糸二千百九十八
糸二千百九十九
糸二千二百
糸二千二百一
糸二千二百二
糸二千二百三
糸二千二百四
糸二千二百五
糸二千二百六
糸二千二百七
糸二千二百八
糸二千二百九
糸二千二百十
糸二千二百十一
糸二千二百十二
糸二千二百十三
糸二千二百十四
糸二千二百十五
糸二千二百十六
糸二千二百十七
糸二千二百十八
糸二千二百十九
糸二千二百二十
糸二千二百二十一
糸二千二百二十二
糸二千二百二十三
糸二千二百二十四
糸二千二百二十五
糸二千二百二十六
糸二千二百二十七
糸二千二百二十八
糸二千二百二十九
糸二千二百三十
糸二千二百三十一
糸二千二百三十二
糸二千二百三十三
糸二千二百三十四
糸二千二百三十五
糸二千二百三十六
糸二千二百三十七
糸二千二百三十八
糸二千二百三十九
糸二千二百四十
糸二千二百四十一
糸二千二百四十二
糸二千二百四十三
糸二千二百四十四
糸二千二百四十五
糸二千二百四十六
糸二千二百四十七
糸二千二百四十八
糸二千二百四十九
糸二千二百五十
糸二千二百五十一
糸二千二百五十二
糸二千二百五十三
糸二千二百五十四
糸二千二百五十五
糸二千二百五十六
糸二千二百五十七
糸二千二百五十八
糸二千二百五十九
糸二千二百六十
糸二千二百六十一
糸二千二百六十二
糸二千二百六十三
糸二千二百六十四
糸二千二百六十五
糸二千二百六十六
糸二千二百六十七
糸二千二百六十八
糸二千二百六十九
糸二千二百七十
糸二千二百七十一
糸二千二百七十二
糸二千二百七十三
糸二千二百七十四
糸二千二百七十五
糸二千二百七十六
糸二千二百七十七
糸二千二百七十八
糸二千二百七十九
糸二千二百八十
糸二千二百八十一
糸二千二百八十二
糸二千二百八十三
糸二千二百八十四
糸二千二百八十五
糸二千二百八十六
糸二千二百八十七
糸二千二百八十八
糸二千二百八十九
糸二千二百九十
糸二千二百九十一
糸二千二百九十二
糸二千二百九十三
糸二千二百九十四
糸二千二百九十五
糸二千二百九十六
糸二千二百九十七
糸二千二百九十八
糸二千二百九十九
糸二千三百
糸二千三百一
糸二千三百二
糸二千三百三
糸二千三百四
糸二千三百五
糸二千三百六
糸二千三百七
糸二千三百八
糸二千三百九
糸二千三百十
糸二千三百十一
糸二千三百十二
糸二千三百十三
糸二千三百十四
糸二千三百十五
糸二千三百十六
糸二千三百十七
糸二千三百十八
糸二千三百十九
糸二千三百二十
糸二千三百二十一
糸二千三百二十二
糸二千三百二十三
糸二千三百二十四
糸二千三百二十五
糸二千三百二十六
糸二千三百二十七
糸二千三百二十八
糸二千三百二十九
糸二千三百三十
糸二千三百三十一
糸二千三百三十二
糸二千三百三十三
糸二千三百三十四
糸二千三百三十五
糸二千三百三十六
糸二千三百三十七
糸二千三百三十八
糸二千三百三十九
糸二千三百四十
糸二千三百四十一
糸二千三百四十二
糸二千三百四十三
糸二千三百四十四
糸二千三百四十五
糸二千三百四十六
糸二千三百四十七
糸二千三百四十八
糸二千三百四十九
糸二千三百五十
糸二千三百五十一
糸二千三百五十二
糸二千三百五十三
糸二千三百五十四
糸二千三百五十五
糸二千三百五十六
糸二千三百五十七
糸二千三百五十八
糸二千三百五十九
糸二千三百六十
糸二千三百六十一
糸二千三百六十二
糸二千三百六十三
糸二千三百六十四
糸二千三百六十五
糸二千三百六十六
糸二千三百六十七
糸二千三百六十八
糸二千三百六十九
糸二千三百七十
糸二千三百七十一
糸二千三百七十二
糸二千三百七十三
糸二千三百七十四
糸二千三百七十五
糸二千三百七十六
糸二千三百七十七
糸二千三百七十八
糸二千三百七十九
糸二千三百八十
糸二千三百八十一
糸二千三百八十二
糸二千三百八十三
糸二千三百八十四
糸二千三百八十五
糸二千三百八十六
糸二千三百八十七
糸二千三百八十八
糸二千三百八十九
糸二千三百九十
糸二千三百九十一
糸二千三百九十二
糸二千三百九十三
糸二千三百九十四
糸二千三百九十五
糸二千三百九十六
糸二千三百九十七
糸二千三百九十八
糸二千三百九十九
糸二千四百
糸二千四百一
糸二千四百二
糸二千四百三
糸二千四百四
糸二千四百五
糸二千四百六
糸二千四百七
糸二千四百八
糸二千四百九
糸二千四百十
糸二千四百十一
糸二千四百十二
糸二千四百十三
糸二千四百十四
糸二千四百十五
糸二千四百十六
糸二千四百十七
糸二千四百十八
糸二千四百十九
糸二千四百二十
糸二千四百二十一
糸二千四百二十二
糸二千四百二十三
糸二千四百二十四
糸二千四百二十五
糸二千四百二十六
糸二千四百二十七
糸二千四百二十八
糸二千四百二十九
糸二千四百三十
糸二千四百三十一
糸二千四百三十二
糸二千四百三十三
糸二千四百三十四
糸二千四百三十五
糸二千四百三十六
糸二千四百三十七
糸二千四百三十八
糸二千四百三十九
糸二千四百四十
糸二千四百四十一
糸二千四百四十二
糸二千四百四十三
糸二千四百四十四
糸二千四百四十五
糸二千四百四十六
糸二千四百四十七
糸二千四百四十八
糸二千四百四十九
糸二千四百五十
糸二千四百五十一
糸二千四百五十二
糸二千四百五十三
糸二千四百五十四
糸二千四百五十五
糸二千四百五十六
糸二千四百五十七
糸二千四百五十八
糸二千四百五十九
糸二千四百六十
糸二千四百六十一
糸二千四百六十二
糸二千四百六十三
糸二千四百六十四
糸二千四百六十五
糸二千四百六十六
糸二千四百六十七
糸二千四百六十八
糸二千四百六十九
糸二千四百七十
糸二千四百七十一
糸二千四百七十二
糸二千四百七十三
糸二千四百七十四
糸二千四百七十五
糸二千四百七十六
糸二千四百七十七
糸二千四百七十八
糸二千四百七十九
糸二千四百八十
糸二千四百八十一
糸二千四百八十二
糸二千四百八十三
糸二千四百八十四
糸二千四百八十五
糸二千四百八十六
糸二千四百八十七
糸二千四百八十八
糸二千四百八十九
糸二千四百九十
糸二千四百九十一
糸二千四百九十二
糸二千四百九十三
糸二千四百九十四
糸二千四百九十五
糸二千四百九十六
糸二千四百九十七
糸二千四百九十八
糸二千四百九十九
糸二千五百
糸二千五百一
糸二千五百二
糸二千五百三
糸二千五百四
糸二千五百五
糸二千五百六
糸二千五百七
糸二千五百八
糸二千五百九
糸二千五百十
糸二千五百十一
糸二千五百十二
糸二千五百十三
糸二千五百十四
糸二千五百十五
糸二千五百十六
糸二千五百十七
糸二千五百十八
糸二千五百十九
糸二千五百二十
糸二千五百二十一
糸二千五百二十二
糸二千五百二十三
糸二千五百二十四
糸二千五百二十五
糸二千五百二十六
糸二千五百二十七
糸二千五百二十八
糸二千五百二十九
糸二千五百三十
糸二千五百三十一
糸二千五百三十二
糸二千五百三十三
糸二千五百三十四
糸二千五百三十五
糸二千五百三十六
糸二千五百三十七
糸二千五百三十八
糸二千五百三十九
糸二千五百四十
糸二千五百四十一
糸二千五百四十二
糸二千五百四十三
糸二千五百四十四
糸二千五百四十五
糸二千五百四十六
糸二千五百四十七
糸二千五百四十八
糸二千五百四十九
糸二千五百五十
糸二千五百五十一
糸二千五百五十二
糸二千五百五十三
糸二千五百五十四
糸二千五百五十五
糸二千五百五十六
糸二千五百五十七
糸二千五百五十八
糸二千五百五十九
糸二千五百六十
糸二千五百六十一
糸二千五百六十二
糸二千五百六十三
糸二千五百六十四
糸二千五百六十五
糸二千五百六十六
糸二千五百六十七
糸二千五百六十八
糸二千五百六十九
糸二千五百七十
糸二千五百七十一
糸二千五百七十二
糸二千五百七十三
糸二千五百七十四
糸二千五百七十五
糸二千五百七十六
糸二千五百七十七
糸二千五百七十八
糸二千五百七十九
糸二千五百八十
糸二千五百八十一
糸二千五百八十二
糸二千五百八十三
糸二千五百八十四
糸二千五百八十五
糸二千五百八十六
糸二千五百八十七
糸二千五百八十八
糸二千五百八十九
糸二千五百九十
糸二千五百九十一
糸二千五百九十二
糸二千五百九十三
糸二千五百九十四
糸二千五百九十五
糸二千五百九十六
糸二千五百九十七
糸二千五百九十八
糸二千五百九十九
糸二千六百
糸二千六百一
糸二千六百二
糸二千六百三
糸二千六百四
糸二千六百五
糸二千六百六
糸二千六百七
糸二千六百八
糸二千六百九
糸二千六百十
糸二千六百十一
糸二千六百十二
糸二千六百十三
糸二千六百十四
糸二千六百十五
糸二千六百十六
糸二千六百十七
糸二千六百十八
糸二千六百十九
糸二千六百二十
糸二千六百二十一
糸二千六百二十二
糸二千六百二十三
糸二千六百二十四
糸二千六百二十五
糸二千六百二十六
糸二千六百二十七
糸二千六百二十八
糸二千六百二十九
糸二千六百三十
糸二千六百三十一
糸二千六百三十二
糸二千六百三十三
糸二千六百三十四
糸二千六百三十五
糸二千六百三十六
糸二千六百三十七
糸二千六百三十八
糸二千六百三十九
糸二千六百四十
糸二千六百四十一
糸二千六百四十二
糸二千六百四十三
糸二千六百四十四
糸二千六百四十五
糸二千六百四十六
糸二千六百四十七
糸二千六百四十八
糸二千六百四十九
糸二千六百五十
糸二千六百五十一
糸二千六百五十二
糸二千六百五十三
糸二千六百五十四
糸二千六百五十五
糸二千六百五十六
糸二千六百五十七
糸二千六百五十八
糸二千六百五十九
糸二千六百六十
糸二千六百六十一
糸二千六百六十二
糸二千六百六十三
糸二千六百六十四
糸二千六百六十五
糸二千六百六十六
糸二千六百六十七
糸二千六百六十八
糸二千六百六十九
糸二千六百七十
糸二千六百七十一
糸二千六百七十二
糸二千六百七十三
糸二千六百七十四
糸二千六百七十五
糸二千六百七十六
糸二千六百七十七
糸二千六百七十八
糸二千六百七十九
糸二千六百八十
糸二千六百八十一
糸二千六百八十二
糸二千六百八十三
糸二千六百八十四
糸二千六百八十五
糸二千六百八十六
糸二千六百八十七
糸二千六百八十八
糸二千六百八十九
糸二千六百九十
糸二千六百九十一
糸二千六百九十二
糸二千六百九十三
糸二千六百九十四
糸二千六百九十五
糸二千六百九十六
糸二千六百九十七
糸二千六百九十八
糸二千六百九十九
糸二千七百
糸二千七百一
糸二千七百二
糸二千七百三
糸二千七百四
糸二千七百五
糸二千七百六
糸二千七百七
糸二千七百八
糸二千七百九
糸二千七百十
糸二千七百十一
糸二千七百十二
糸二千七百十三
糸二千七百十四
糸二千七百十五
糸二千七百十六
糸二千七百十七
糸二千七百十八
糸二千七百十九
糸二千七百二十
糸二

です。アウトライン・ステッチで輪廓を取つて、中を埋めるやうな時によくいたします。

⑤ フラット ステッチ



コーテイング・ステッチ

太糸を細い糸でとぢつけて、輪廓やその他の線模様を出す刺し方です。その一は、太い糸の上を細い別糸でとめる法、その二は、共の太糸でとめる方法です。

⑥ サテン ステッチ



フラット・ステッチ

丸いもの、木の葉、花などを刺す時に用ひ、その形だけ全部刺し埋めて、下の布地が見えなくなります。糸が重なり過ぎないやうに注意します。

⑦ フレンチ ナツツ



サテン・ステッチ

刺し方も使ひ方もフラット・ステッチと同じですが、ダーニング・ステッチで芯縫ひをしてから刺すので、中央がふつくり盛上り、豊かな感じがいたします。

フレンチ・ナツツ

花の芯などによく使はれるつぶ縫ひです。大きくしたい時には、針に糸を二回かければよいのです。

⑧ チェーン ステッチ



チエーン・ステッチ

文字通り、鎖を刺して行く縫ひ方です。主に線に使ひます。



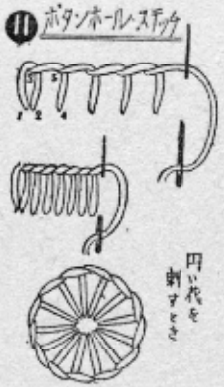
レジー・デージー・ステッチ

花や葉に應用する可愛らしい刺し方です。



ミルフラワー・ステッチ

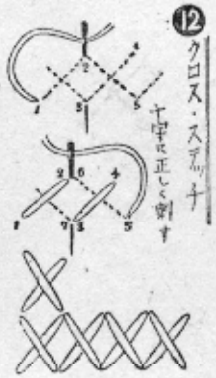
一條の花縫ひで、小花や花の芯などに使ひます。



ボタンホール・ステッチ

ボタンの孔かがりに用ひ

るのでこの名があります。縁縫ひやカツト・ウォークになくてはならぬ刺し方です。

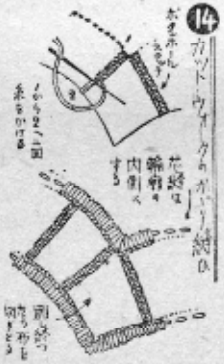


クロス・ステッチ

十字形に刺していろ〳〵な模様を出して行く、應用範圍の廣い刺し方です。

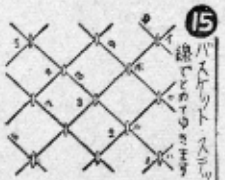


オーバーコスティング・ステッチ



細い線やカツト・ウォークの孔などに縫ふ刺し方です。

カット・ウオークのかゞり縫ひ

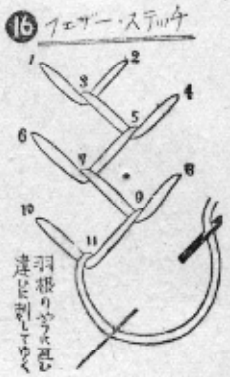




カット・ウオークはボタンホール・ステッチでいたしますが、模様と模様をつなぐかゞり縫ひは、圖のやうに糸を渡して、その上をボタンホール・ステッチの要領でかゞつて行けばよいのです。

バスケット・ステッチ

糸を籠目のやうに渡して、その交叉點を別糸でとめて行く方法です。とめ方は十字にすることもあります。花籠の目の感じを出す時などよく使はれます。



フエザー・ステッチ

羽根のやうな縫ひ方なのでこの名があります。葉などを刺すのに用ひます。

覺えておきたい鉤針の基礎編

レースや簡單な赤ちやんものなどをお編みになるのに、是非共覺えておいていたゞきたい基礎編だけを集めて見ました。

鎖編

文字通り糸を鎖に編んで行くわけです。糸、端を九糎（一寸三分）ほど殘して輪を作り

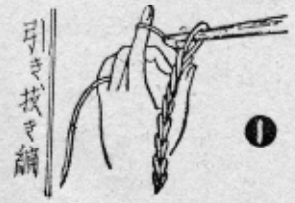


鎖編

(1)のやうに左手の拇指と中指でつまむやうに持ち、長い方の糸を食指にかけて、薬指と小指ではさんで糸の張りを調節します。右手は鈎から八糎（二寸一分）位離れた所を、鈎が斜手前で下向になるやうに持ちます。

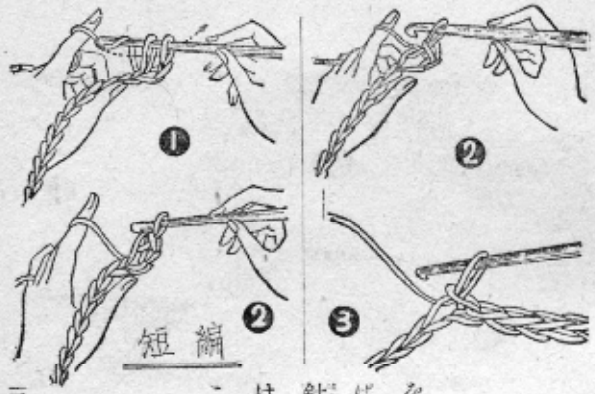
次に(1)のやうに最初の輪の中へ針をつきさし、糸をかけてひきぬきます。これを繰返して、(2)のやうに編んで行きます。

引き抜き編



引き抜き編

鎖編をして針にかゝつてゐる終の目から、一目おいて次に糸を入れ、(1)のやうに糸をかけ、(2)のやうに抜き出すと、下の目の上に鎖目が(3)のやうに編み込まれて行きます。



短編

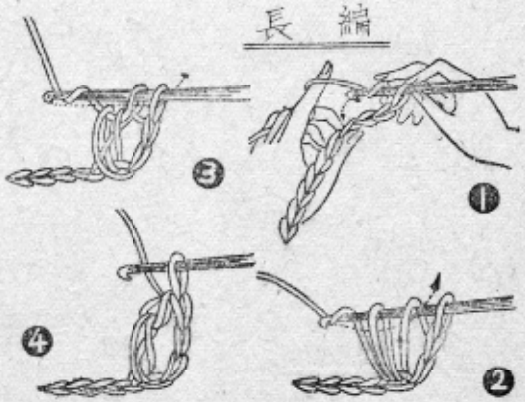
短編

必要な長さ丈鎖編し、(1)のやうに鎖三目ほど手前を左の拇指と食指でつまみ、鎖の終りの目から一目とばした次の目へ針を入れて、糸を引出します。すると針に糸の輪が二つかかりますから、新たに針に糸をかけ二つの輪をくぐらして、(2)のやうに抜き出します。これを繰返して行くのです。

長編

先づ、鎖を編み、(1)のやうに針に糸をかけ下の鎖三つ飛ばして四つ目に針を入れ、(2)のやうに引出し、

長編



叉針に糸をかけて、(3)のやうに終の二つの輪だけくぐらせ、もう一度針に糸をかけて、(4)のやうに殘りの二つの輪をくぐらせますと、長編一目でき上ります。

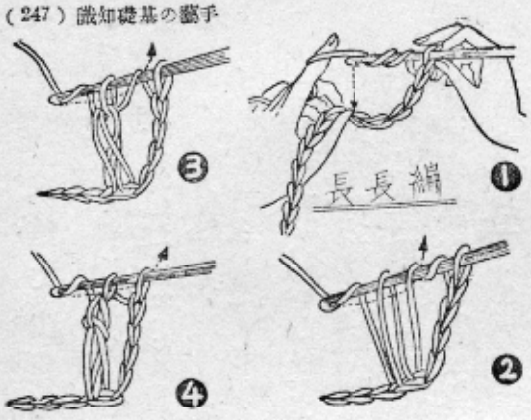
長編引ぬき編

長編と同じく、(1)のやうに針に一つ糸をかけて糸を引出し(2)のやうに全部の輪を一度にくぐらせて抜きます。長編より少し丈の低い編み方

長編引ぬき編

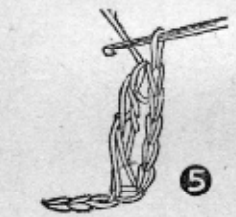


で、長編くづしともよばれます。



長々編

長編より少し長く、柔く編みます。(1)のやうに針に糸を二回かけて、鎖四目（これは針足の長さです）とばして、次へ針を入れ(2)のやうに糸を下の目から引出し、針へ糸をかけて(3)のやうに輪を二つくぐらせ次から(4)(5)と二つづつくぐらせて抜いて行きますと長々編が一目出來ます。



家庭で出來る染色

一口に染色と申しましても非常に範圍の廣いものですが、ここでは家庭染色として、簡單に出來る絞染を御紹介いたします。

染色の準備

新しい布を染色するより、家庭では古いものを染めかへる場合の方が多いと思ひます。かういふ時は先づ汚れや脂氣を除くために、炭酸ソーダと石鹸の溶液に暫らく浸し、脂肪分を取り、石鹸や曹達分の殘らないやうに水洗ひします。

色揚げをする場合は先づ地色を平均させておくことが必要です。所々褪せてゐるまま染めますと、染め上りの色にも濃淡が出來て、むらになります。豫めこのむらを取つておかねばなりません。

それには一反につき炭酸ソーダ茶匙二杯、石鹸茶匙三、四杯（絹毛の場合はマルセル石鹸を使ひます。以下同じ）の溶液で二、三十分間煮れば、大抵は色が平均します。この方法で駄目なら色抜きして新しく染めかへることです。

古いものは色抜きすると一層地質が弱ることがありますから、色抜きする前に布端を一寸濡らして二つに折り、兩手で一寸ひつぱつて見て、裂けるやうでしたら、お止しになつた方がよいのです。

色抜きは一反に對して石鹸茶匙四、五杯、水二升位の濃い石鹸液を作り、この中で布を煮ますと、石鹸のために色が流れ出します。石鹸水が汚れたら新しく取りかへて煮ますと、大概白くなりますが、尙色が殘つてゐるやうでしたら、水二升、ハイドロサルファイト茶匙三杯、醋酸五、六滴の溶液で完全に色が抜けるまで煮ます。

初めての方はなるべく石鹸拔色に止めておく方がよく、藥品を使用すると生地を痛めたり織物の光澤を失つたりしがちです。拔色したものは石鹸や藥品氣が取れるやう、微溫湯

で洗ひ後清水で充分に濯ぎます。

新しい布の場合は、糊氣を落すために、水につけて、木綿ならつかみ洗ひ、絹毛は刷毛洗ひして下さい。

染め方の注意

染料は粉のまま澤山の水に入れず、小さい器（茶碗など）に必要量だけ入れ、熱湯をそそいで溶いておきます。

染液の作り方　染液は多い程綺麗に染上ります。用器は布が充分に浸すことの出來る大きな瀬戸引鍋、又は洗面器に水を入れて、火にかけます。染料は初めから全部つぎこまず四分の一位入れ、よく掻きまぜて布を入れます。

布は先づ水に浸して全體を濕らせ、しぼつて染液の中へ入れます。竹の箸でかきまはしながら、斑にならないやうに染めます。染料を加へる時には一旦布を引上げて、前と同じく染料を入れ、よく掻廻してから布を入れて煮染めをします。かうして染色を見ながら、少量づつ染料を加へて染上げます。

濡れてゐる時は色が乾いてからより、よほど濃く見えるものです。木綿は約五割、絹三割、羊毛は二割方濃く見えますから、染色中布の端を乾かして、色の濃度を見ながら染めることも必要です。黒、紺、その他濃い無地に染める場合は隨分濃い染液を使はないと、あい色に上りません。

以上が染色の一般心得ですが、染料の性質によつて多少相違がありますから一々について説明しませう。

直接染料

直接染料は木綿、麻、人絹、ス・フ、絹、羊毛等何でも染色することが出來、色數が多い點も重寶です。ハイドロサルファイトで白く色抜きすることも出來ます。併し、洗濯に

對して色が流れ易く、日光に弱いのが缺點です。家庭染色としては主として、木綿、人絹ス・フに直接染料を用ひ、絹や毛は次に述べる酸性染料で染める方がよろしい。

染料と助劑は一反につき次のやうに用ひます。

淡色　染料一匁以下、炭酸ソーダ一匁以下、食鹽二匁乃至三匁。

中色　染料三匁乃至四匁、炭酸ソーダ五匁乃至六匁、食鹽十匁。

濃色　染料五匁乃至十匁、炭酸ソーダ七匁乃至八匁、食鹽十五匁乃至二十匁。

助劑中の食鹽は染料の染付を速進させ、炭酸ソーダは反對に緩慢にします。ですから染付の急速なものは、食鹽の量を少くして、炭酸ソーダを增しますと、染むらも少く平らに染りります。

人絹には、食鹽の代用として、燐酸ソーダを用ひると一層上りをよくします。量は食鹽と同量でよいのです。

先づ前項で申しましたやうに、染料のみで暫く煮た後、布を一旦引上げて、助劑の炭酸ソーダと食鹽を加へて、更に煮染めします。染付きの悪いものには、早目に助劑を入れますが、最初から入れてはいけません。煮染め時間は全部で四十分間を要します。

希望の濃度に染色された布は染液から引上げて水洗ひし、搾らずに日陰に乾します。日向で直射日光にあてますと、折角平らに染つたものも斑になります。

人絹は大體木綿と同じですが、染め付が非常に早く、高溫を嫌ひますから、七十度以上にならぬやう、液に浸つてゐる間はあまり烈しく箸でかきまはさないことが肝要です。

直接染料は前にも申しました通り、日光と洗濯に對して弱いといふ缺點がありますから次のやうな方法で補つて下さい。これはフオルマリンを布百匁に對して二匁を冷水（布の五方の三十倍の水）にとかして三十分浸し、後水洗ひして乾かします。これで水洗ひに、よほど堅牢になります。

酸性染料

この染料は絹や羊毛に用ひられ、木綿、麻、人絹は染めつきません。光澤よく、日光には相當強いのですが、洗濯には弱く色が流れ易いのが缺點です。

染料と助劑の割合は次の通りです。

淡色　染料一匁、食鹽二匁乃至四匁、醋酸二匁。

中色　染料三匁乃至四匁、食鹽六匁乃至八匁、醋酸二匁。

濃色　染料六匁乃至七匁、食鹽十匁、醋酸三匁。

色の濃淡により、また布によつて染付のよいものと悪いものがあります。食鹽は染付を緩慢に、酸類は速進させますから、染付の特に早いと思はれるものには食鹽の量を多く加へますと、緩慢になり斑なく染め上げられます。あまり染め付が早いと、どうしてもむら染になり勝ちで、仕上げ後色の平均が保たれません。染め付きの悪いものは反對に醋酸を加へて早めます。

絹類は沸騰濕度でなければ充分に染めつきません。いづれも三十分間煮ます。その他の注意は前項と同じでございます。

黒と紺は醋酸の代りに稀硫酸を用ひる方がよく染めつきますが、馴れないと危險を伴ふことがあります。これ等は十分に濃い色に染める必要がありますので、布百匁に對して染料十匁位を要します。

赤とか青とかいふ單純な色でなく、澁味のある色、または柔かみのある色を出さうとするには、各種の色を混ぜ合せなければなりません。三種又は四種を混合すると、ずつと複雜な色を出すことが出來ます。

染め上りましたものは、充分に水洗ひして最後の濯ぎ水に醋酸を落して十分間ほど浸し輕く押ししぼつて乾かします。

絞り染のいろ〳〵

以上で無地染の要領がおわかりと思ひますから、今度は絞り染の仕方をお話ししませう。

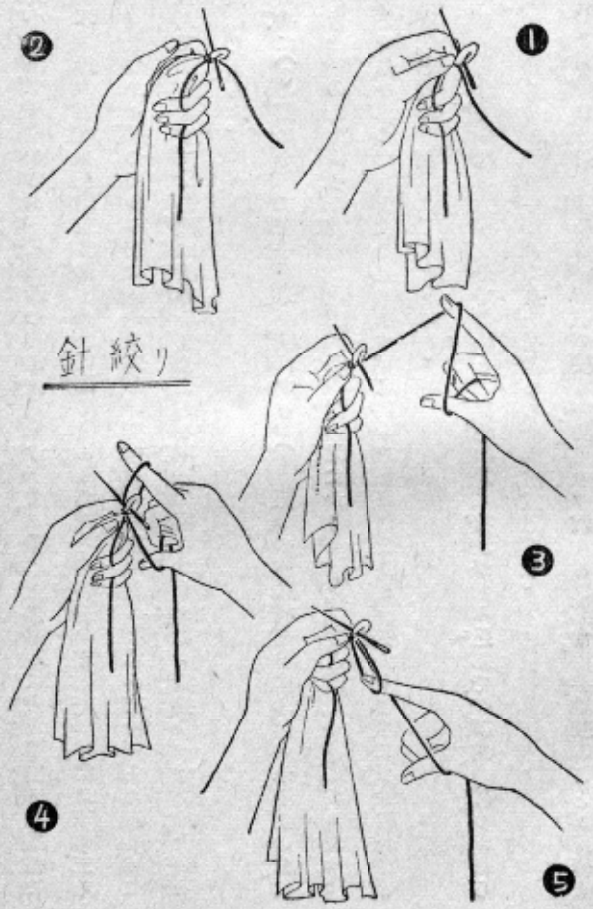
下繪は青花で描きます。青花は水に浸せば流れて消えてしまふので、染色にはなくてならぬものです。用ひ方は四糎（一寸一分）角位に切つて小皿に入れ、上から水をたらしますと、青い汁が出ますから、これを筆につけて描きます。

絞りに用ひる糸は、絹や毛織物には三十番のカタン糸、木綿には二十番のカタン糸を使ひます。

鹿の子絞　最も普通な絞りで、豆絞りとも申します。絞りをやゝ大きく、四角い感じを持たせますと、疋田絞りになります。鹿の子絞りは、手柄、半衿のやうな小さいものから帯、着尺に至るまで廣く用ひられるものです。

（A）針絞　下繪によつて、右から左へ同じ位の間隔に、絞りの大きさもなるべく揃へるやうに心掛けます。

先づ下繪の線にしたがつて、縦に二つ折りとし、左手の拇指と人差指とで折山を小さくつまみ、次に針を折山と交叉するやうに横に刺します。この針の深さによつて、鹿の子に



大小が出來ますから、下繪に沿つて加減します。次に(1)圖のやうに左の拇指と人差指で摘み、針の根本を糸で二卷ほどまいて固くしめます。その時糸の端は左の中指以下の三本で、しつかり握つてゆるまないやうにし、拇指と人差指は針の根本の布をまとめるやうに摘んでおきます。(2)圖は根本を卷くことを明瞭に表はすために、拇指を一寸あげた所を表はしました。

次に(3)圖のやうに右手で糸を綾にかけ、(4)圖のやうに拇指の向ふ側の糸を針の先にかけ、そのまま拇指を前にひいて、糸を針の元にかけますと、(5)圖のやうになります。そこで糸をしつかりと引きしめます。これを二回ほど繰返し、糸を切らずに次に移り、前と同樣根本を二卷して二回締めます。

糸のまき方や締め方が充分でないと、染色の際に染液がしみ込んで、折角の絞りがあらはれませんから、充分によく糸を引締めるやう注意します。

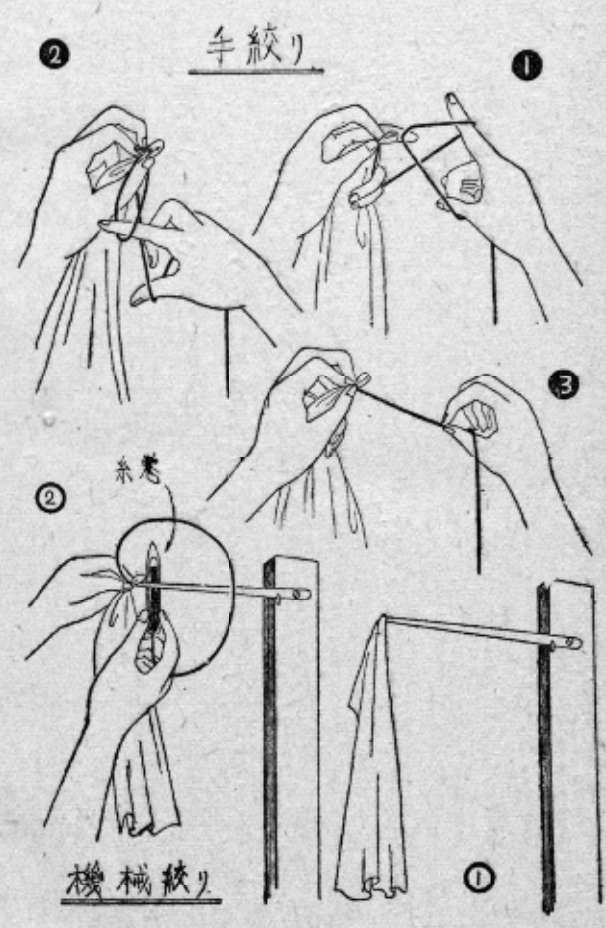
(B) 手絞り 針を用ひないで手で絞る方法です。馴れると非常に早く絞ることが出來ます。

布は左手にもつて、下繪にそつて縦に折り、次に横に二つ折りして、先を一寸ひねつて左手の拇指と人差指でつまみます。この摘み方が悪いとうまく行きません。拇指と人差指の指先をつきつけてしつかり持ち、針絞と同樣に絞の根本を二回まき、後は二回しつかりと結びます。結ぶ時は、(1)圖のやうに、左の中指を右の拇指と人差指の中間に入れて、手前の糸を指先にかけて後へ引き、糸の輪を上らして鹿の子の根本へ下し、中指で鹿の子の頭を押へながら糸をしつかりと引きしめます。以上を次々に繰返します。

糸を強く引きしめるために、右手の小指に適宜に糸をまきつけておきますと、引くときに力がはひります。

機械絞 鹿の子絞用の機械を用ひて絞る方法で、初心の方には美しく早く絞れるので、多く用ひられてゐます。

(1)圖のやうに腕金を出して用布をかけ、左手の拇指と人差指で根本を押へます。糸は



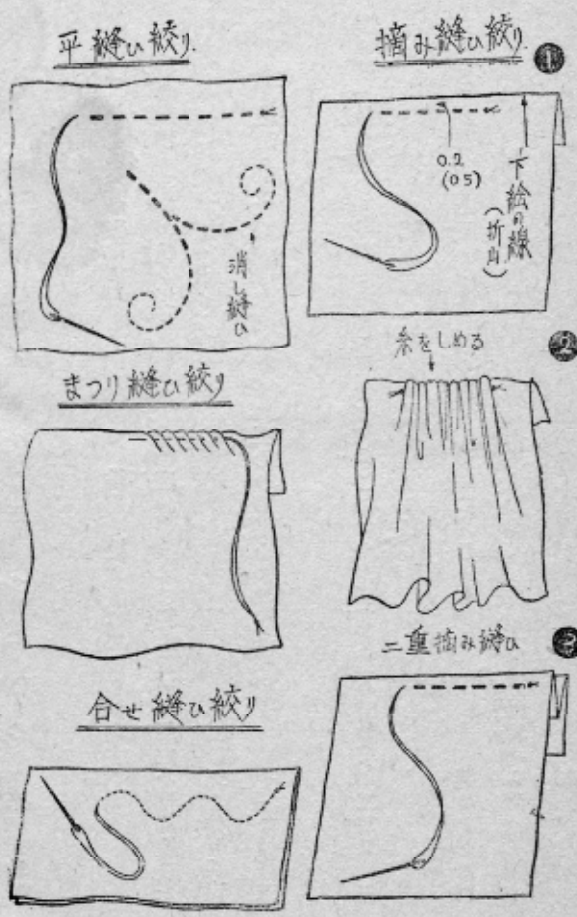
前以て糸巻にまきつけておき、鹿の子の根本に二、三まきつけ、(2)圖のやうに糸をかけて引締めます。以上のやうに左から右へと絞り上げて行きます。

縫ひ絞　模様を線で表はす場合の絞り方で、輪廓を縫ふ時に用ひられます。

(A)　**摘み縫絞**　下繪の線を折山にして、(1)圖のやうに二耗（五厘）程内を摘み縫ひします。糸は一本又は二本を用ひ、針目はあまり細かくせず、縫ひ始めに結び玉を作り、豫定の所まで縫ひましたら、(2)圖のやうに引しめて皺よせ、糸が緩まないやうに結び玉を作ります。

摘み縫の線が幾つも平行してゐる場合は、(3)圖のやうに布を折り重ねて、二重又は三重にし、同時に摘んで縫ひます。絹地の薄いものなどに用ひてよい方法です。

(B)　**平縫ひ絞**　摘み縫よりも白線を細く出す時に用ひます。たゞぶつ〳〵縫つてしめればよいのです。圖の上部は直線、下部は消し縫といつて、太い大きい針目からだん〳〵小さい針目に縫ふ方法で、蝶の觸角などに使用致します。



（C）**まつり縫ひ絞**　布端をまつり縫ひして引きしめたものです。（圖參照）

（D）**合せ縫ひ絞**　これは左右相對してゐるやうな模樣に用ひるもので、模樣の中央から布を半分に折つてつまみ縫ひします。（圖參照）

平縫ひ卷上げ絞　（1）圖のやうに、模樣の輪廓に從つて、矢印の方向通り、右廻りに縫ひ、縫ひ終りの二、三針は初めの縫目に沿ふやうにして、縫目は普通より表に出る方をやゝ大きくします。これを（2）圖のやうに引締めます。

次に（3）圖のやうに尖端を鉤針にかけて、左手で引き加減に布を持ち、右手に糸卷きを持つて先づ根本を二、三回確りとまき、それから同じ位の間隔によつて左卷に卷き上げます。卷き上げの糸の間隔によつて、絞りに色々の變化が生じます。また花模樣などを白く抜く必要のある場合には、卷き上げの糸を出來るだけ密着させてしつかりと卷き、上まで卷き上げましたら同樣にして糸を下へ卷き下げ、根本で（5）圖のやうに止めます。

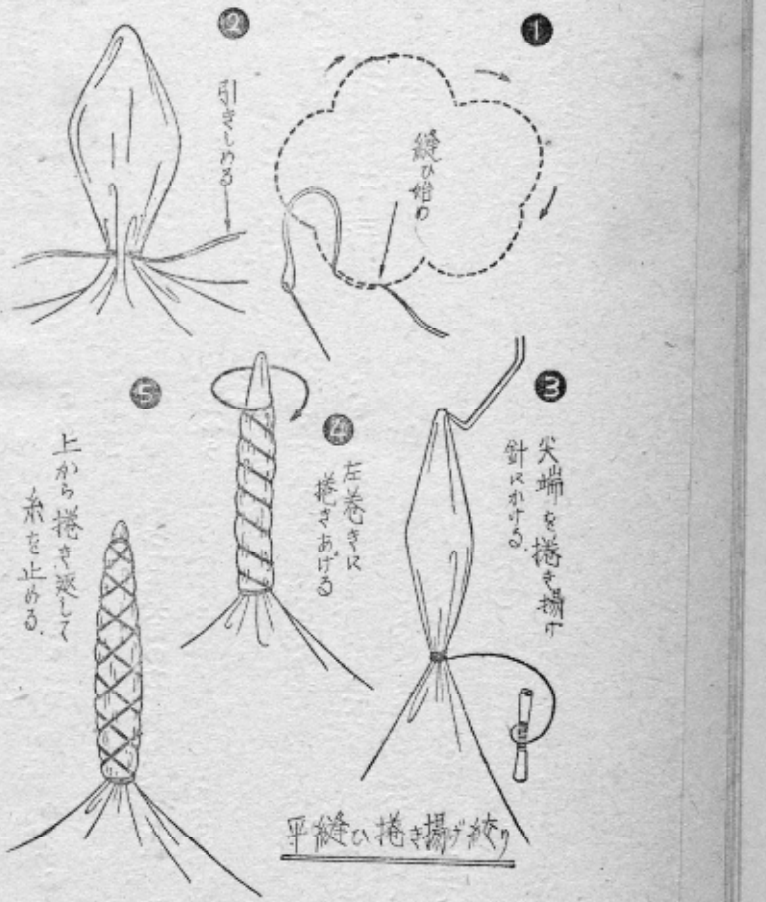
同じ方法で根だけ卷いたものを平縫ひ根卷き絞といひ、半分だけ卷き上げたものを平縫

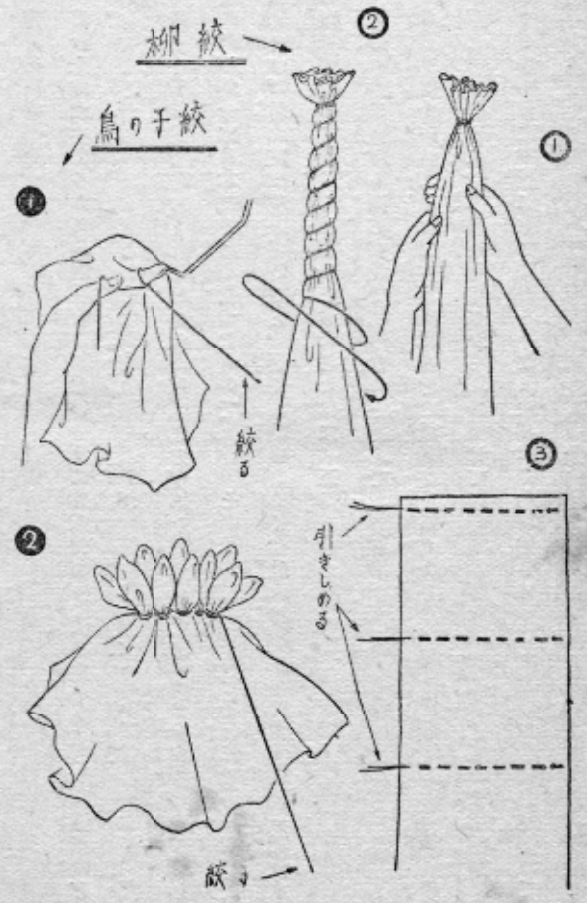
半巻き絞と申します。

巻き上げた中に少しも染料のはひらないやうにするために、竹の皮やパラピン、油紙などで包むことがあります。この時は用布は豫め糸でざつと假巻きしておいて包みますが、直接油紙や竹の皮で包むとこれ等の色が出ることがありますから、下まきをする必要があります。下巻きは日本紙を細く切つたものでまき、その上を竹の皮などで包んで防染用にいたします。竹の皮は乾いてゐると、固くて巻きにくく、破れ易いものですから、一晩位水に浸しておき、軟くして用ひます。これは二、三回まきつけて、先端を二糎（五分）ばかり折り返し、巻上げと同じ方法でしつかりと結んでおきます。

柳絞　細い輕快な絞りで、浴衣地などに歡迎されるものです。

（1）圖のやうに、布の一端を細かく皺をよせて糸でくくり、掛針にかけておき、兩方の手で圖のやうに、縦に細かい皺をよせ（なるべく巾を揃へて）（2）圖のやうに糸をまいて行く方法です。糸と糸の間隔は四・五粍（一分内外）とし、一本糸を用ひます。





柳を比較的平行に巾を揃へるためには、(3)圖のやうに用布を所々横に平縫ひして、引きしめておき、その皺を基準として、全體を通すやうにすれば、あまりひどい相違は出來ません。

巻糸の間隔はもつと大きくしてもよく、また平縫ひ引しめと、巻糸とを一段づつ交互にしても變化のあるものになります。

用布の右、または左の端を掛針にかけて、前と同樣に細かく皺をよせますと、全體が絣の柳絞が出來ます。

鳥の子絞　鳥の子絞又は三浦絞ともいひます。(1)圖のやうに人差指を中に入れて、その指先を括る位の大きさに布を取り、根本をまいて行く絞りで、絞りと絞りとの間隔を作らずに(2)圖のやうに出來るだけ近づけて、左から右へと續けて行きます。根本のまき方は鹿の子絞りと同じです。

多色染・脫色絞・彩色染

染色の前にはいづれも五分位、水又はお湯に浸してから煮染めします。絹や羊毛類は最初極く淡いマルセル石鹸液で暫く煮ますと、絞りがはつきり出ます。

模様を白で出す場合は前に述べました無地の染色法のやうに、木綿、人絹、ス・フ類なら直接染料、絹、毛は酸性染料で染上げます。

絞りの中に二色以上の色を配合したい場合には、次のやうな方法を行ひます。

次第に濃い色をかけて行く法　これは先づ薄い色から段々濃い色を用ひる方法で、好みの薄色を染めましたら、水洗ひして一旦乾かし、模様の色だけを竹の皮またはパラフィン紙で二、三回巻いてその上を巻上げ、更に第二の色をかけます。色を何色も使ふ場合には、これを乾かしてから、また模様の部分を防染して染め上げるといふ風に何度も繰返せばよいのです。

同色の濃淡なら心配はありませんが、全然違ふ色を組合せる場合には、色のかけ合せ方を充分に考へないと失敗します。かけ合せのきかない場合は、一度色抜きして好みの色に染めるか、次の方法を取ります。

巻上げの部分のみを染める法　この時は最初全部の巻上げをせずに、模様の部分を根締めにし巻き上げる部分を摘んで希望の染液に入れて染め、水洗ひして乾かして後巻上げます。地色の染液が滲まぬやうに、竹の皮かパラフィン紙で防染してその上に糸で充分に巻き上げ、後地色に染めます。

脫色絞　といふのは、始め全部無地に染め、これを普通の絞りのやうに巻上げて、ハイドロサルフアイトの溶液で煮ますと、糸の巻いてゐない部分だけは脫色します。これをそのまま前の地色と異つた染液に入れて煮染めしますと、非常に面白い染色が出來ます。

彩色染の仕方　模様の色を友禪風にぼかしたり、色數を多く使ふ場合、一つ一つ染めるのは大變面倒でもありますし、色のかけ合せも思ふやうに行きませんから、彩色染を應用

なさるとよろしうございます。

これは先づ染料を小皿に熱湯でとき、その中へ布海苔を染料の約四分の一の割にまぜて染糊を作るのです。この時の布海苔は、煮溶かしてかすを漉してから用ひます。

模様は輪廓だけ繋つて、糸を引しめずにおきます。好みの染糊を筆につけて、模様の中へ一つづつ塗つて行くのです。よく乾きよしたら、糸を引締めてまき上げに絞り、竹の皮で防染して地染めすればよいのです。

母の手藝（終）

母の手藝

昭和十四年九月十四日　印刷
昭和十四年九月十九日　發行

定價一円二十銭

著者　大妻コタカ
發行兼印刷者　都河龍
印刷所　山縣製本印刷株式會社
發行所　婦女界社

東京市麹町區九段四丁目十三番地
東京市麹町區九段四丁目十三番地一號
振替東京二九三七番
電話九段 四一七一番 四一七二番 四一七三番

不許複製 婦女界社

婦女界社版

全十二巻 母の文庫

婦女界社の育児報國大出版!!

▼人口の増加と國力の發展は正比例します。「新興國」の猛進・伊太利は申すに及ばず、日本の最近の發展は、實に人口の増加に原因して居りまするところが我が日本は、世界無比の出生率を持ちながら、同時に幼兒の死亡率の多いことも又世界無比と云はれてゐまする。▼これは要するに母が問題ひだらけの育兒をやつてゐるからです。新東亜建設の大任を持つ日本として果してこれでよいでせうか。

▼本社はこの點を深く憂ひ、母性再教育のスタートを切り、その第一着手として、「母の文庫」十二巻を世に送り、お母樣方に育兒と我國の大任とを立派に果して頂くことにしました。▼筆者は何れも斯界の權威、新母性創造の熱情に燃えて執筆を快諾されました。今や全日本の女性にお願ひします。時局の脚光を浴びて、育ちゆく兒、生れ來る愛兒のために何をおいても是非本書を座右にお備へ下さらんことを!

第一巻 **母の禮法** 大妻コタカ

第二巻 **姙娠と安産の心得** 吉岡彌生

第三巻 **母の裁法** 青木朝子

第四巻 **母の手藝** 大妻コタカ

第五巻 **母の編物** 大妻コタカ

第六巻 **育兒の心得** 竹内茂代

第七巻 **病兒看護の心得** 竹内茂代

第八巻 **母の料理** 秋穗敬子

第九巻 **育兒の實際** 編輯部

第十巻 **玩具繪本の與へ方** 關寛之

第十一巻 **一人子の育て方** 三田谷啓

第十二巻 **母の宗教** 高島米峰・白柳誠山共著

（各冊共、四六判・二百五十頁 九ポイント總ルビ付・振仮名本文ガントレット恒子）

定價一冊一圓二十錢（送料各十二錢）

幸化的の出版ですから全部成は前人用の參考書を解選揮の上、前もつて御註文おき下さいますやう御願ひ致します。

内容適宜見本進呈

婦女界社・母の文庫既刊書

第一回配本 定價一圓廿錢 送料十二錢

育兒の實際

◇婦女界社長 都河龍著
◇醫學博士 竹内茂代閲

子供を丈夫に育てた秘訣

——内容の一部——

（都河龍）

◇授乳に就ての注意◇清潔に就ての注意◇便と食物に就ての注意◇消化に就ての注意◇運動に就ての注意◇睡眠に就ての注意◇最も重要なる注意◇子供が病氣した場合の注意◇子守を置くに就ての注意◇母親としての注意

夏の病兒看護の實際

（讀者五氏）

◇三兒の授乳を檢血療法で◇臨床の實驗を試つた實話◇腸胃の消化不良を全治させて◇百日餘の結核が全快するまで◇嬰兒の太陽カタルを看護して

虚弱兒を健康兒にした實話

（讀者八氏）

◇相撲のない日光浴で◇四歳兒の健康法の實行◇實用のいらん家庭療法で（以下略）右實話に對する竹内茂代博士の批評

第二回配本 定價一圓廿錢 送料十二錢

姙娠と安產の心得

◇東京女子醫專教授 吉岡彌生著

——内容の一部——

◇受胎の原理と月經の話◇胎兒の附屬物とその作用◇姙娠各月に於ける胎兒の發育と母體の變化◇姙娠中の營生法◇姙婦に併發し易い病氣とその手當◇流産及び早産とその手當◇異常姙娠及び異常分娩の心得とその處置◇分娩の支度◇分娩時の心得◇産後は如何に攝生するか◇産兒の取扱方◇産褥中の病氣と療法

姙娠から出産までの體驗實話集

（讀者五氏）

▽子宮外姙娠を手術して貰つた體驗記
▽雙胎兒を同時に出産した四人の母
▽僻村で双兒を安産した實話
▽悪阻への不安から同居ついた初産の記
▽大事をとり過ぎ枝折れた初産の體驗談

右實話に對する東京女子醫專産婦人科講師大村久榮先生の批評

第三回配本 定價一圓廿錢 送料十二錢

母の手藝

◇大妻高女校長 大妻コタカ著

——内容の一部——

◇赤ちやん用（十一種）◇三歳のお子樣用（十四種）◇四歳のお子樣用（十種）◇五歳のお子樣用（九種）◇六歳のお子樣用（十五種）◇七歳のお子樣用（十三種）

手藝の基礎知識

▽フランス刺繍の基礎（十六種）
▽覺えておきたい鉤針編の基礎
（1）鎖編（2）引き拔き編（3）短編（4）長編（5）長編引拔き編（6）長々編

家庭で出來る染色

（1）染色の準備（2）染め方の注意（3）直接染料（4）酸性染料（5）絞り染のいろいろ（6）多色染・脱色染・彩色染

開運の礎 最新姓名學

五聖閣・熊崎健翁著・四六判三二〇頁・布裝・函入美本・定價一圓五十錢・送料十二錢

姓名の神秘！一生の運命を決する問題！開運出世の礎は本書から！

本書は最新熊崎式姓名學を懇切に說示されたもので、多方面に亘る體驗と實例によつて解說を施されたものです

◆あなたの姓名は、あなたの一生の運命を決します。あなたの赤ちやんには必ず開運出世の出來る良名を選擇して下さい。本書の活用によつて。

◆本書は姓名判斷の決定版で、本書を讀むと讀まないとは一生の幸運を掴むか不運に泣くかの岐路ともなりませう まさに本書は幸運の鍵です。

◆試みに本書を見てあなたの知人の姓名判斷をして御覽なさい。百發百中恐ろしい程的中します。

◆本書は七篇二百數十項目に分け實例として名士の姓名百數十を擧げ、熊崎式姓名學應用字典を添へたもので、命名も改名も自由に出來ます。

東京麹町九段四丁目 婦女界社 振替東京二九三七番

忽十版

武尊の麓

（ほたかのふもと）

本書は廿六歳の若さで毒を呷つて自ら死の道を選んだ一女性の人生記錄である

上越國境武尊山の麓で、放浪の父と白痴の兄に仕へて貧苦二十餘年、薄倖の天才歌人、江口きち女の遺稿集（歌と日記）が彼女の愚師河井酔茗先生の手によつて選稿された。これこそ昭和の女啄木である！

河井酔茗先生選

江口きち女遺稿

四六判・二百五十頁 寫眞版口繪挿入 紫布優美堅牢裝幀 定價一圓五十錢 送料十二錢

女啄木きち女　河井酔茗

「武尊の麓」一巻は如何に多くの人々に讀まれるか豫期されないが、少くとも二三千人の眼に觸れることは間違ひない。その中には眞に本書に讀みついて手放す事が出來ないと云ふほど、深く同感をもつ讀者も現はれて來るだらうと信ずる。それらの讀者は書物を興味本位に看る人でなく、人生を眞面目に考へて、もし女性ならば女性の立場を正しく守り通さうとする人であらう、或は宿命の克服に惱み乍ら、涙を呑んで生きてゆかうとする人であらう。――きち女は日々夜々の生活感情を歌にしてしまつてゐる。その點は啄木にも似通つてゐるので、人間の眞實性に基く直感を在りのまゝの言葉で歌に言ひ放たうとしてゐる處きがある。

たらちねの抽き文字に記されし家計覺えを見出しにけり

×

六月十四日　雨

さばえなす蠅のなかつた子供の頃のうらぶれた氣持が、よほど祖父くこたへてゐるとは見え、今になほ貧乏の飽びしさがしみじみ還つて來る。今日また田ようと思ふと、させる傘一本もなし。ひどいことになつたと獨りごちながら、冷い暗闇が胸底をよぎる。（日記より）

分けぬ兄なれどはかなしもその慣りのすべなかりけりうけつぎし流離の血かも故郷へ歸るなかれといひし餞け（歌集より）

×

六月十四日　雨

さばえなす蠅のなかつた子供の頃のうらぶれた氣持が、よほど祖父くこたへてゐるとは見え、今になほ貧乏の飽びしさがしみじみ還つて來る。今日また田ようと思ふと、させる傘一本もなし。ひどいことになつたと獨りごちながら、冷い暗闇が胸底をよぎる。（日記より）

圖書目錄贈呈

東京市麹町區九段四丁目（振替東京二九三七番）

婦女界社

藥草藥木家庭療病寶鑑

佐々木　稔編著・四六判四三〇頁・布装上製函入・定價一圓五十錢・送料十二錢・

奇蹟！醫師も匙を投げた病人が民間療法によつて、ケロリと癒つたといふ實驗濟みの奏效確實な藥草藥木家庭療病法六百七十種の一大公開！

神經の病　精神病・神經衰弱・ヒステリー・カブレ一切等凡ゆる神經病の療法に亘り一九七種の療法

卒倒する病　腦溢血・腦貧血を初め、卒倒する病に對する療法九種

痛む病　リウマチ・關節炎等痛む病氣への民間療法廿九種の一大公開

血及血管　貧血・血壓亢進等血及血管に對する諸病卅四種療法

皮膚病　腫物・初め皮膚病一切等ン

傷　凡ゆる傷・咬傷・擦傷・火傷等を初め、凡ゆる傷に對する手當と公開

中毒　飲食物の中毒に對する療法一〇七種

傳染病　患者の心得・防止する療法手當ん九種の公開！何れも實驗濟みのもの

花柳病　亡國病と云はれる花柳病の療法全般に亘り詳細發表

救急法　假死・卒倒・腦溢血等救急の場合に於ける手當法の要點を詳述

小兒の病　小兒の病氣に對する療法手當ん九種の公開

雜　壯藥・滋養强壯藥等十數種にて詳細發表

月經　月經不順・不眠症・神經衰弱等十數種の月經諸病に對する確實な治療法二四種の公開

妊娠　妊娠中の諸病と安產手當一切に關する心得

風邪　風邪の初期に對する療法二八種の公開

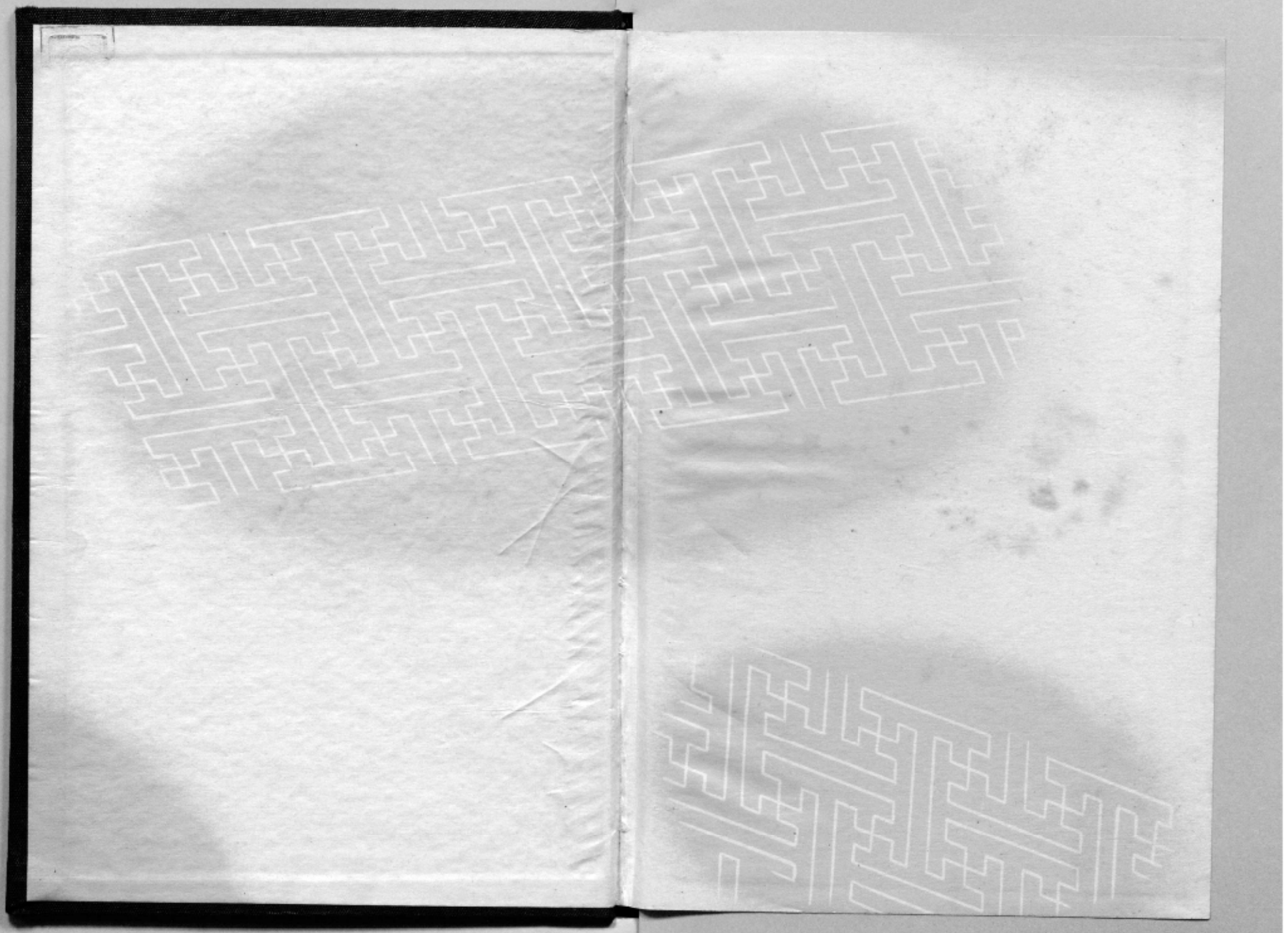
新人診斷　藥草藥木效能異名集

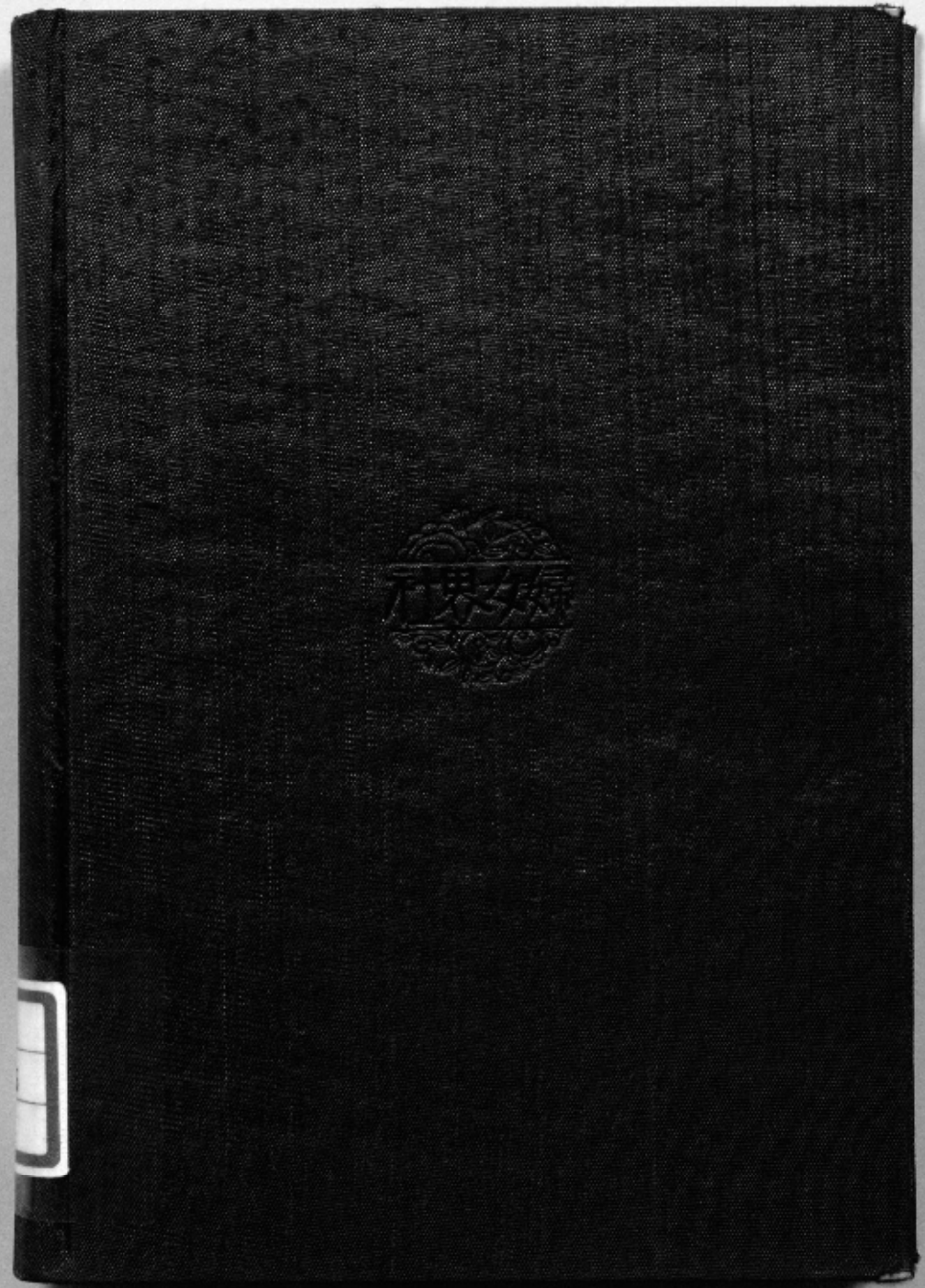
黑鯨の效能一覽

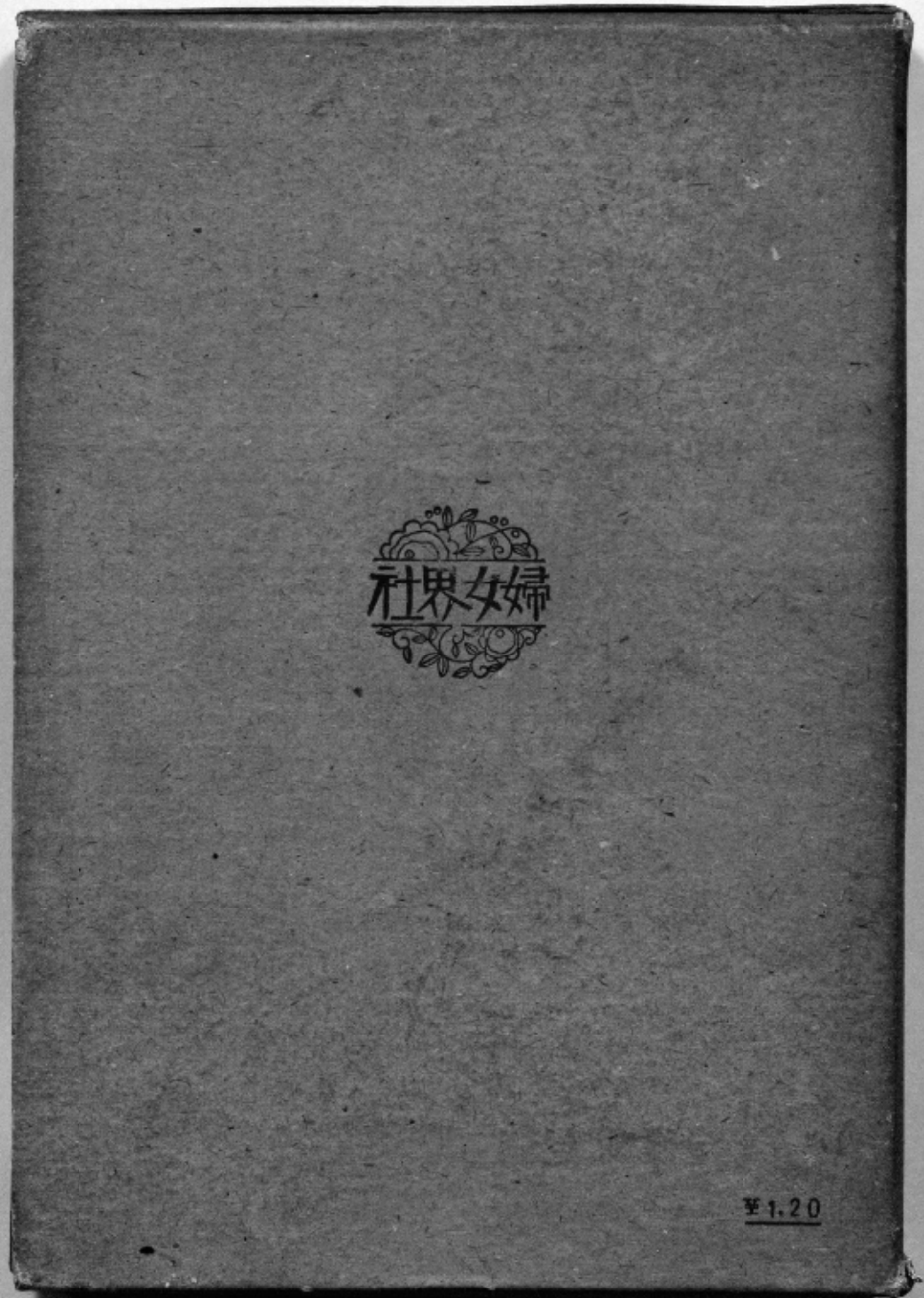
一讀すれば確實な家庭療病法に訪問！

特別公開！

東京銀座町九丁目四段
振替東京二九三七番
婦女界社






社界女婦
¥1.20